

14-250
~~14-250~~

帝國憲法講義目錄

手傳下傳各級才訓傳身林

緒言.....二
第一編 國家ノ組織機關.....三

總論 憲法制定前後ノ比較.....四

第一章 主權.....十八

第一節 主權ノ所在.....同

第二節 主權ノ實行.....三十七

第二章 立法權.....六十四

第一節 帝國議會ノ組織.....七十九

第一款 貴族院ノ組織.....八十

第二款 衆議院ノ組織.....百七

第三款 議員ノ特權.....百七十七

第二節 帝國議會ノ職權.....百九十

目次



第一款	法律案議定權	百九十三
第二款	豫算議定權	二百四
第三款	政務監督權	二百六十三
第四款	議院內部ノ整理ニ必要ナル規則ヲ設クルノ權及ヒ請願ヲ受クルノ權	二百八十八
第三節	立法ニ關スル天皇ノ大權	二百九十一
第一款	裁可權	二百九十二
第二款	帝國議會ヲ召集シ其開會閉會停會及ヒ衆議院ノ解散ヲ命スルノ權	二百九十九
第三章	行政權	三百十二
總論		三百十三
第一節	政府	三百十六
第一款	政府ノ組織	三百十七
第二款	政府ノ職權	三百三十二

第三款	國務大臣ノ責任	三百三十八
第二節	行政官廳	三百四十八
第三節	裁判所	三百五十三

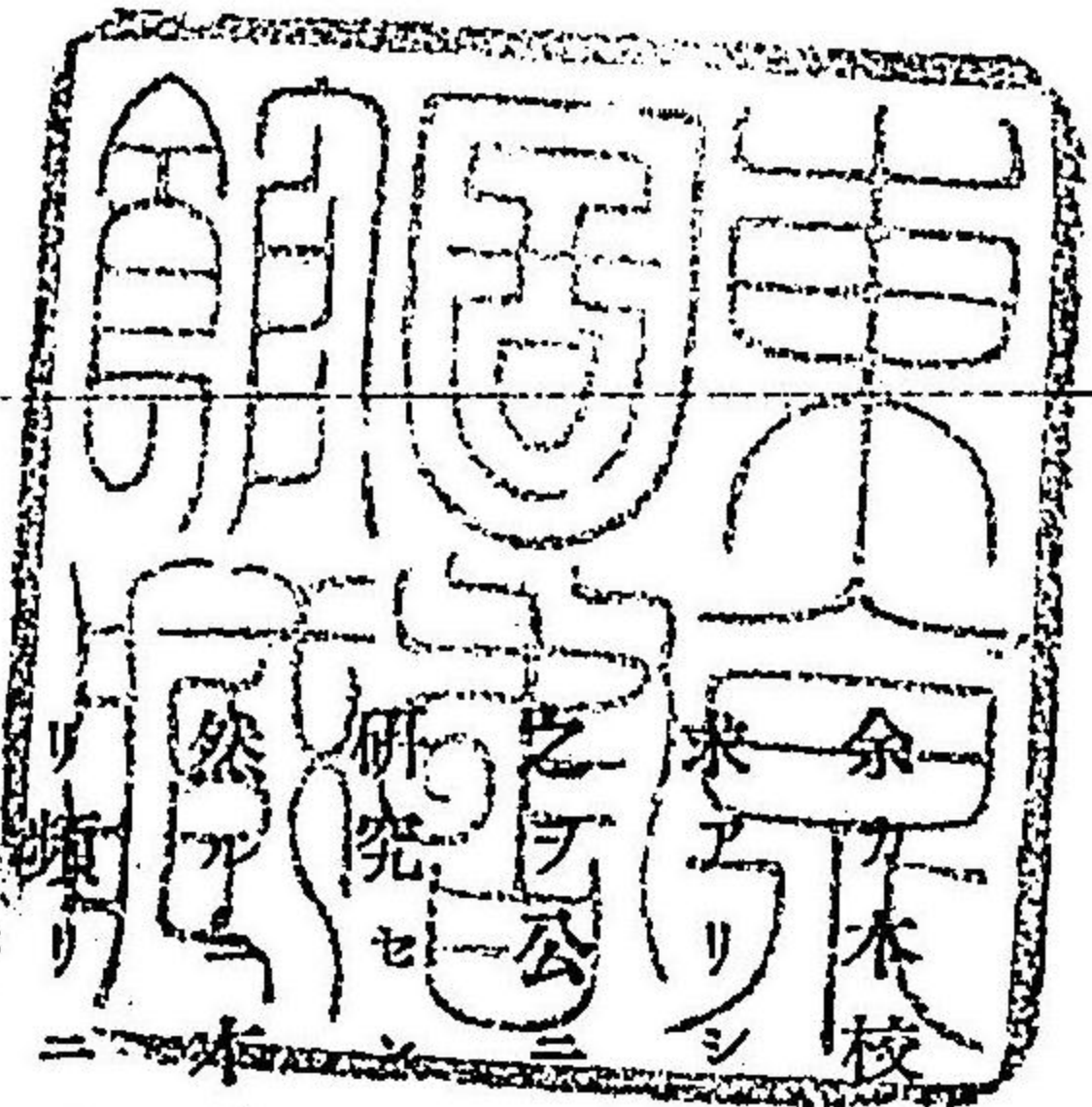
帝國憲法講義目錄

目次

帝國憲法講義

佛國法律博士 本野 一郎 先生口述

本校校友筆記



余が本校ニ於テ帝國憲法ヲ講スルヤ當初ヨリ之ヲ講義録ニ掲載スヘキ請
ト雖トモ余之ニ應セサリキ何トナレハ余ノ此講義ヲ爲ス固ヨリ
求アリシ
之ヲ公ニ
研究セ
ト欲シタルニ過キサレハナリ
然ルニ本校講義録ニ限リ憲法ノ講義ナキカ故ニ頃日ニ至リ校外生諸君ヨ
リ頻リニ其掲載ヲ請求サルハ以テ編輯諸君ヨリ強テ之ヲ余ニ請ハレタ
リ余是ニ於テカ敢テ辭スルヲ得ス是レ余カ今日諸君ト相見ル所以ナリ
今日ヨリ茲ニ掲載スル講義ハ余カ前學期來本校ニ於テ爲セシ講義ノ筆記
ニ過キス而シテ未タ充分ニ之ヲ校正スルノ暇ナカリシヲ以テ或ハ字句文

二
ヲ爲サス或ハ意義貫徹セサルモノアルヤモ知ル可ラス讀者諸君請フ之ヲ
諒セヨ

講者誌

緒言

諸君余ハ帝國憲法ノ講義ニ入ルノ前茲ニ之ヲ講スルノ方法ニ付キ一言セサル
可ラス蓋シ講義ノ方法ニ種々アリ或ハ憲法ノ條文ヲ逐フテ一々之ヲ説明シ之
ヲ解釋スルモノアリ是レ今日普通ニ行ハル、所ノ方法ナリ或ハ勉メテ學理ニ
適合シタル順序ヲ設ケ其順序ニ從フテ之ヲ講スルモノアリ第一ノ方法ハ至極
簡便ニシテ講師ニ取リテハ最モ容易ナリト雖トモ學生諸君ニ取リテハ妙味少
キ方法ト云フ可シ第二ノ方法ハ講師ニ取リテ多少困難ナリト雖トモ學生諸君
ニ取リテハ妙味最モ多ク且ツ憲法上ノ大原則ヲ知ルニハ殊ニ利益多カルヘシ
ト信ス是レ余カ佛國在學中經驗シタル所ナルヲ以テ余ハ第二ノ方法ヲ取ルヘ
シ知ラス其順序ノ果シテ學理ニ適合スルヤ否ヤ

余ハ此講義ヲ大別シテ二編トナシ第一編ニ於テハ國家ノ組織例ヘハ主權、立法
權、行政權及ヒ此等ノ諸權ヲ實行スル機關ノ事ヲ説キ第二編ニ於テハ國民ノ權
利義務即チ我憲法第二章ニ記載スル所ノ事項ニシテ例ヘハ信仰ノ自由、言論、著
作、印行、集會及ヒ結社ノ自由又ハ兵役、納稅ノ義務等ニ關スルコトヲ説クヘシ又
此講義ハ帝國憲法ノ講義トハ謂ヘ余ハ必スシモ帝國憲法ノ條文ニノミ拘泥ス
ルヲ欲セス或ハ之ヲ外國ノ憲法ト比較シ或ハ之ヲ歐米ニ行ハル、學理ニ照シ
其是非ヲ論究シ或ハ帝國憲法ノ實行ニ缺ク可ラサル所ノ議院法、撰舉法及ヒ貴
族院令等ヲ參照スルコトアルヘシ諸君乞フ之ヲ諒セヨ

國家ノ組織機關

第一編 國家ノ組織機關

余ハ第一編ヲ分テ總論及ヒ三章トシ而シテ總論ニ於テハ憲法制定前ニ於ケル
日本ノ政體ト憲法制定後ノ政體ニ如何ナル變動ヲ生シタルヤヲ論究シ第一章
ニ於テハ主權第二章ニ於テハ立法權第三章ニ於テハ行政權ノ事ヲ詳論セント
欲ス

總論 憲法制定前後ノ比較

余ハ本論ニ入ルノ前ニ憲法發布前ノ日本帝國ト憲法發布後ノ日本帝國トノ間ニ如何ナル差異アルヤヲ論究スルコトハ甚タ必要ナリト信スルヲ以テ先ツ此點ニ付キ聊カ所見ヲ述ヘントス

諸君ヨ憲法トハ抑モ如何ナルモノナルヤ余ハ其意義ヲ解釋スルニ佛國ノ碩學ロシー氏ノ語ヲ借ルヘシ同氏カ千八百三十五年佛國ニ於テ初テ憲法ノ講義ヲ爲シタルトキ憲法ナル語ノ釋義ヲ與ヘタルコトアリ其大意ニ曰ク

「コンスタチューション即チ憲法トハ國家ノ組織ト其活動ヲ規定スル法規ノ全體ヲ云フ是レ恰モ人類身體ノ組織活動ヲ支配スル法規ノ全體ヲ「コンスタチューション」ト云フカ如シ是レ「コンスタチューション」即チ憲法ナル語ノ汎博ノ意義ナリ憲法ナル語ヲ斯ク廣キ意味ニ取ルトキハ如何ナル國ト雖トモ憲法ノナキ國トテハナシ如何ナル國ト雖トモ之ヲ立憲國ナリト言ハサル可ラス如何トナレハ如何ナル國ト雖トモ既ニ一ノ國家ヲ組成スル以上ハ其組織ノ善惡ニ拘ハ

ラス之ヲ支配スルノ法規ナカル可ラス然リト雖トモ今日所謂憲法ナル語ハ尙ホ他ニ一ノ狹隘ナル意味ヲ有ス即チ國民ニ自由ヲ附與シタル國家ノ組織ヲ規定スルノ法ヲ云フト

右ロシー氏カ憲法ナル語ニ與ヘタル所ノ釋義ハ實ニ名言ト謂フヘシ同氏カ言ヘル如ク憲法ナル語ヲ其汎博ノ意味ニ取ルトキハ魯西亞支那土耳其ノ如キ國ト雖トモ之ヲ立憲國ナリト言ハサル可ラス如何トナレハ是等ノ諸國ハ孰レモ君主獨裁ノ國トハ云ヒナカラ其君主獨裁ノ國家ヲ組織スル成文又ハ不成文ノ法規ナカル可ラス而シテ此法規ハ即チ其國ノ憲法ナレハナリ然リト雖トモ魯西亞支那土耳其ノ如キ國ヲ認メテ誰レカ之ヲ立憲國ナリト言フヘキヤ人ノ此等ノ國ヲ認メテ立憲國ナリト謂ハサル所以ノモノハ他ナシ是等ノ國々ニ於テハ國民ニ參政ノ權ナキカ爲メナリ然ラハ則チ今日ノ所謂憲法ナルモノハ國民ニ參政權ヲ附與シタル國家ノ組織ヲ制定スル法規ナリト言フテ可ナラン而シテ今ロシー氏カ憲法ニ與ヘタル釋義ヲ以テ之ヲ我日本ノ政體ニ應用スレハ憲法制定前ノ日本ト憲法制定後ノ日本トノ間ニ生ズタル差異ハ實ニ判然タルヘ

大ニ異ナリ
ロシー氏ノ釋義
ハ實ニ判然タルヘ
テ今ロシー氏カ
憲法ニ與ヘタル
釋義ヲ以テ之ヲ
我日本ノ政體ニ
應用スレハ憲法
制定前ノ日本ト
憲法制定後ノ日
本トノ間ニ生ズ
タル差異ハ實ニ
判然タルヘ

五

ナハ吾國ノ制憲ノ法部ニ在リテ自由主義ニ依リテ
アルノレシキナリト云フハ其時ノ國家ノ組織モ亦自ラ異ナル所ア
リシト雖トモ其時代ノ國家ヲ組織シタル法則アリシヤ疑ヒナシ憲法ナル語ヲ
其汎博ノ意味ニ取ルトキハ當時ノ國法モ猶ホ憲法ニシテ當時ノ政體モ亦立憲
政體ナリシト言ハサル可ラス然レトモ之ヲ狹隘ノ意味ニ取ルトキハ決シテ然
ラス其時代ニアリテハ國家ノ組織ニ關スル法律制度ハアリシト雖トモ今日ノ
所謂憲法ナルモノハアラサリシナリ又近クハ維新後今日迄ノ日本ノ政體ニ付
テ論スルトキハ猶ホ亦同様ノ感アルヘシ憲法發布前ト雖トモ既ニ日本帝國ア
リ日本帝國アレハ之ヲ組成スル成文又ハ不成文ノ法アリ其法則ハ即チ憲法發
布前ノ憲法ナリ然リト雖トモ憲法發布前ノ日本ヲ以テ未タ立憲政體ノ國ト言
フ可ラス然ラハ即チ如何ナル點ニ於テ憲法制定前ノ日本ト憲法制定後ノ日本
トノ間ニ差異ヲ生シタルヤ

我日本國ノ國家ヲ爲スヤ此ニ二千五百有餘年其間或ハ純然タル君主獨裁ノ時
代アリ或ハ封建ノ時代アリ其各時代ニヨリテ國家ノ組織モ亦自ラ異ナル所ア
リシト雖トモ其時代ノ國家ヲ組織シタル法則アリシヤ疑ヒナシ憲法ナル語ヲ
其汎博ノ意味ニ取ルトキハ當時ノ國法モ猶ホ憲法ニシテ當時ノ政體モ亦立憲
政體ナリシト言ハサル可ラス然レトモ之ヲ狹隘ノ意味ニ取ルトキハ決シテ然
ラス其時代ニアリテハ國家ノ組織ニ關スル法律制度ハアリシト雖トモ今日ノ
所謂憲法ナルモノハアラサリシナリ又近クハ維新後今日迄ノ日本ノ政體ニ付
テ論スルトキハ猶ホ亦同様ノ感アルヘシ憲法發布前ト雖トモ既ニ日本帝國ア
リ日本帝國アレハ之ヲ組成スル成文又ハ不成文ノ法アリ其法則ハ即チ憲法發
布前ノ憲法ナリ然リト雖トモ憲法發布前ノ日本ヲ以テ未タ立憲政體ノ國ト言
フ可ラス然ラハ即チ如何ナル點ニ於テ憲法制定前ノ日本ト憲法制定後ノ日本
トノ間ニ差異ヲ生シタルヤ

諸君モ知ラル、如ク帝國憲法ハ七章七十六條ヨリ成立ス故ニ憲法制定前後ニ

日本ノ政體上ニ如何ナル差異ヲ生シタルヤヲ知ラント欲セハ先ツ此七十六條
條ニ包含スル我憲法ノ原則トモ謂フヘキ要點ヲ尋テ而シテ後其原則ハ果シテ
憲法制定以前ニ既ニ存在シタルヤ否ヲ論究セサル可ラス斯ノ如クニシテ初テ
憲法制定前後ノ差異如何ヲ知ルヲ得ヘシ
夫レ人間ノ相集合シテ社會ヲ組織スルヤ必ス社會ノ安寧秩序ヲ保持シ其社會
ノ一分子タル各個人ノ權利ヲ保護スルノ權力ナカル可ラス如何トナレハ若シ
此權力ナカリセハ社會ハ一日モ生存シ得可カラサレハナリ學者ノ所謂主權ナ
ル者ハ即チ此權力ナリ故ニ主權ナル文字ヲ解釋スレハ社會ヲ支配スル最上命
令權ナリト言フテ可ナラン我憲法ニ於テ所謂統治權ナルモノハ即チ是レナリ
主權トハ社會ヲ支配スル最上命令權ナルコト其レ斯ノ如シ我國ニ於テ此最上
命令權ハ建國以來 天皇ニアリ新定ノ憲法ニ於テ大日本帝國ハ萬世一系ノ天
皇之ヲ統治スト云ヒ又 天皇ハ國ハ元首ニシテ統治權ヲ總攬スト明記シアル
ハ即チ往古ヨリノ習慣法ヲ成文ニシタルマテノ事ナリ故ニ此一點ニ於テハ憲
法制定前後ニ於テ敢テ差異ナキナリ然ラハ則チ如何ナル點ニ於テ差異アリヤ

曰ク建國ヨリ今日ニ至ル迄ノ我國ノ政體ト憲法制定以後ノ政體ト相分ル、所以ノモノハ憲法第四條ノ末文ニアリ其文ニ曰ク

天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

此憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フトノ數字ハ是レ實ニ君主獨裁ノ政體ト立憲政體トノ區別ヲ立ツルニ最モ注目スヘキ要點ナリ是レ實ニ我憲法ノ制定アル所以ニシテ憲法ノ精神ハ蓋シ此數語ニアリト云フテ可ナラン學理上ヨリ之ヲ觀察スルトキハ此數語アルカ爲メ君主ノ大權ヲ制限シタルヤ否ヤニ付テハ多少議論アルヘント雖トモ實際政治ヲ行フニ當リ正實ニ此憲法ヲ履行スルトキハ此數語アルガ爲メニ主權ノ實行ニ付キ一大制限ヲ立テタルモノト言フテ可ナリ余ハ故テ茲ニ主權ノ實行ナル語ヲ用ユ如何トナレハ古ヨリノ習慣ト云ヒ憲法ノ明文ト言ヒ主權ノ享有ニ付テハ敢テ制限ナシ此等ノ點ニ付テハ主權ヲ詳論スヘキ第一章ニ於テ再ヒ之ヲ論究シ我憲法ハ主權ノ實行ヲ制限シタルヲ證スヘシ

然ラハ我憲法ハ如何ナル點ニ於テ主權ノ實行ニ付キ制限ヲ設ケタルヤ

憲法制定前後ニ於ケル差異ノ要點

夫レ主權ヲ實行スルニ當リ其作用ニアリ曰ク立法曰ク行政即チ是ナリ立法トハ法律規則ヲ制定スルノ意ナリ行政トハ法律規則ヲ實行シ又萬般ノ政務ヲ處分スルノ意ナリ是レ佛國ノ學者カ所謂 *puvoir legislatif*, *puvoir executif* ナルモノナリ司法モ是レ亦主權活用ノ一ナリト雖トモ是レ寧ロ行政ノ一部ト認ムヘキモノナルヲ以テ余ハ主權ノ實行ヲ分テ立法行政ノ二トス此點ニ付テハ種々議論モアレハ後章ニ於テ詳論スル所アルヘシ

憲法制定前ノ日本ニアリテハ立法行政ノ二權ハ何レモ主權者自ラ之ヲ掌握シ自ラ之ヲ實行シタルモノナリ然ルニ憲法制定以後ニアリテハ此等ノ點ニ付キ種々ノ制限ヲ設ケタリ今其最モ著大ナル者ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一 立法權ノ一部分ヲ帝國議會ニ附與シタルコト

第二 歳出歳入ノ豫算議定權ヲ帝國議會ニ附與シタルコト

第一 立法權ノ制限

憲法第五條ニ於テ 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フト云ヒ又第三十七條ニ於テ凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ストアルハ即チ憲法ヲ以

テ 天皇ノ大權作用ノ一ナル立法ノ事項ニ於テ制限ヲ加ヘタルモノト言ハサル可ラス憲法制定以前ノ狀況ヲ考フレハ如何ナル法律如何ナル命令ト雖トモ凡テ主權者ノ獨裁ニ放任シタルモノナリ然ルニ憲法制定後ニ在リテハ主權者ノ命令中法律ト稱スル一種ノ命令ニ至リテハ今回憲法ヲ以テ規定シタル帝國議會ト稱スル政務機關ノ協贊ヲ要スルニ至レリ是レ我國開闢以來未曾有ノ改革ト云フヘキナリ

帝國憲法ヲ以テ如何ナル事項ハ法律ヲ以テ規定スヘク如何ナルモノハ勅令ヲ以テ規定スヘシトノ限界ハ未タ判然制定セラレスト雖トモ要スルニ國務ニ關スル最も重要ノ事項ハ法律ヲ以テ規定スヘキノ精神タルヤ憲法中ニ法律ヲ以テ規定スヘキモノトシテ列舉シタル事項ヲ見テモ明カナリ今其一二ノ例ヲ舉クレハ憲法第二章ニ於テ規定シタル日本臣民ノ權利義務ニ關スル事項ノ如キ租稅ニ關スル事項ノ如キ(六十二條)裁判所ノ構成ニ關スル事項ノ如キ(五十七條)六十條衆議院議員ノ撰舉ニ關スル事項ノ如キ(三十五條)是レ皆法律ヲ以テ規定スヘキノ事項ナリ此他法律ヲ以テ規定スヘキ事項ハ敢テ枚舉スルニ遑アラサ

ルナリ要スルニ我憲法ハ法律ヲ以テ規定スヘキ事項ヲ制限セズ然ルニ勅令ヲ以テ規定スヘキモノハ之ヲ制限シタル憲法第九條ノ規定即チ是レナリ此點ニ付テハ世ノ學者中ニハ異論モアルコトナレハ余ハ後章ニ於テ詳論スル所アルニシテ而モ我憲法ヲ以テ規定シタル立法上ニ於ケル制限ノ區域ニ付テハ多少論議スヘキ點ナキニ非スト雖トモ要スルニ幾分ニモセヨ主權者ノ立法權ヲ制限シタルハ掩フ可ラサルノ事實ナリ是レ憲法制定前後ニ生シタル一大差異ナリト云フ可シ

第二 豫算議定權

憲法第六十四條ニ曰ク國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要スト是レ亦實ニ憲法制定以來ノ一大新原則ト言フ可キナリ

古昔ヨリ被治者カ治者ノ行爲ニ對シ最も苦痛ヲ感スル所ノモノハ何ソヤ蓋シ治者カ被治者ノ承諾ナクシテ濫リニ租稅ヲ徵收シタルゴトナルヘシ是レ即チ

西洋諸國ニ於テ代議政體ナルモノ、起リシ一大原因ト云フヘキナリ我國ニ於テモ建國以來二千五百有余年今日ニ至ル迄租稅ヲ徵収スルニ被治者ノ承諾ヲ請求シタルコトナシ是レ我國法上ノ一大缺點ト云フヘキナリ然ルニ憲法第六十二條ヲ以テ新タニ租稅ヲ課シ及ヒ稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムト云ヒ其第六十四條ニ於テ國家ノ歲出歲入ハ豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシト規定シタルハ被治者ニ大ナル安全ヲ與ヘタルモノト云フ可キナリ憲法第七十一條ニ於テ帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシト定メタルヲ以テ是レカ爲メ第六十四條ニ於テ被治者ニ與ヘタル權利ヲ大ニ減殺シタルノ感ナキアラスト雖トモ未タ其權利ヲ全ク消滅シタリト云フ可ラス如何トナレハ政府ハ其意ノ儘ニ豫算ヲ立ツルコトヲ得サルハ勿論必ス其前年度ノ豫算即チ前年度帝國議會ニ於テ議決シ其協贊ヲ經タル豫算ニ非サレハ之ヲ施行スルコトヲ得サレハナリ且ツ若シ斯ル不幸ノ場合ニ立チ至ルトキハ帝國議會ニ於テ公然其是非曲直ヲ論議スヘキヲ以テ被治者ハ其是非曲直ノ果シテ政府ニアルヤ將タ又帝國議會ニアル

ヤヲ認定シ得ヘキナリ故ニ容易ニ此極端ノ不幸ニ遭遇スルコトナカルヘシ要スルニ帝國議會ニ屬スル豫算議定ノ權ハ充分ナラスト雖トモ政府カ豫算ヲ施行スルノ前ニハ必ス帝國議會ノ議ニ附シ之ヲ辨明セサル可ラサルノ義務アルカ故ニ被治者ニ安全ヲ與フルノ點ニ至テハ決シテ從前ノ比ニアラサルナリ憲法制定以來我日本ノ公法上ニ生シタル最モ重大ニシテ且ツ新タナル原則トモ言フヘキハ余カ前ニ陳ヘタル二點ナルヘシト信ス憲法第一章ニ於テ規定セル所ノ 天皇ノ大權トモ稱スヘキモノ例ヘハ宣戰媾和ノ權條約締結ノ權陸海軍統帥ノ權ノ如キモノハ凡テ從前ト毫モ異ナルコトナシ行政司法ノ如キモ亦然リ然リト雖トモ司法裁判ト行政裁判トノ區別ヲ立テタルカ如キハ是レ實ニ憲法ニ於テ新定シタル原則ナリ又憲法ヲ以テ裁判官ノ終身官タルコトヲ確認シタル如キハ國民ニ一層ノ安全ヲ與ヘタルモノナリ此外種々ノ新原則アリト雖トモ要スルニ余カ前ニ陳ヘタル大原則ノ結果ニ過キササルナリ帝國議會ニ關スル諸規則ノ如ク又ハ日本臣民ノ權利義務ニ關スル原則ノ如キハ全ク國民ノ一部分ニ立法ニ參與スルノ權ヲ與ヘタル結果ニ過キササルナリ然リト雖トモ憲法ヲ

君主國ニシテ自由政治ヲ行フノ國ハ凡テ議院制ヲ用ユ議院制トハ即チ國民ヨリ代議者ヲ出シ政府ノ所爲ヲ監督シ國務ニ干ルノ大臣ニシテ過失アレハ之ヲ政府ヨリ退ケ得ルノ制度ヲ云フ英吉利、白耳義、伊太利、西班牙等ノ如キハ即チ是レナリ共和國ニ於テハ或ハ議院制ヲ用ユルアリ或ハ大統領ノ國民ニ對スル直接ノ責任ヲ規定スルアリ佛國ノ如キハ即チ議院制ヲ用ヒ北米合衆國ノ如キハ第二ノ方法ヲ取レリ故ニ責任内閣ノ制ナシ

右ニ陳ヘタル獨裁政體ト自由政體トノ間ニ尙ホ一種ノ政體アリ或ル學者ハ之ヲ立憲制君主政體ト云フ蓋シ議院制君主政體ニ對シテ云ヒシモノナリ普魯西、バイルン等ノ如キ即チ是レナリ此等ノ國ニ於テハ一定ノ憲法アリテ君主ノ權カヲ制限シ多少國民ニ參政ノ權ヲ與フルト雖トモ君主ハ國民ニ對シ責任ヲ有セス國務大臣モ君主ニ對シテハ責任アリト雖トモ國民ニ對シテハ責任ナシ議院ヲ設ケテ國民ノ代議者ニ國事ヲ議セシムルハ自由國ニ似タリト雖トモ君主ノ責任ナクシテ大臣ノ國民ニ對シテ無責任ナルハ大ニ獨裁國ニ似タリ故ニ是等ノ國ハ自由國ニモアラス亦獨裁國ニモアラス一種特別ノ政體ナリ是等ノ國

ニ於テハ憲法ヲ以テ多少主權ノ實行ヲ制限シタルモノナルカ故ニ立憲政體ノ國ニハ相違ナシト雖トモ余ハ是等ノ國ヲ稱シテ未タ完全ナル立憲政體ノ國ト云フヲ得ス余ノ確信スル所ヲ以テスレハ立君國ニモセヨ又共和國ニモセヨ爲政ノ目的ハ國民ノ安全幸福ヲ謀ルニアリ而シテ之ヲ謀ラント欲セハ成ルヘク國民ニ満足ヲ與フヘキ政治ヲ布カサル可ラス國民ヲ満足セシメント欲セハ爲政ノ實權ヲ有スル者國民ニ對シ責任ヲ負ハサル可ラズ余ノ所謂完全ナル立憲政體トハ治者ノ責任ヲ確定シ被治者ニ充分ノ安全ヲ與フルノ政體ヲ云フナリ我憲法ハ此點ニ付キ果シテ完全ナル原則ヲ規定シタリト云フ可キカ余聊カ疑ナキ能ハス請フ後段國務大臣ノ責任ヲ説クニ至リテ之ヲ詳論セン

憲法制定前ノ日本帝國ト憲法制定後ノ日本帝國トノ間ニ如何ナル差異ヲ生シタルヤヲ述ヘ併セテ憲法ノ精神ハ如何ナル點ニアルヤヲ論究スルハ憲法ヲ研究セント欲スル諸君ノ爲メニ極メテ必要ナリト信シタルヲ以テ聊カ臆見ヲ開陳シタリ請フ是ヨリ本論ニ入り先ツ第一章ニ於テ主權ノ事ヲ詳論セン

第一章 主權

第一節 主權ノ所在

諸君余ハ總論ニ於テ主權ノ定義ヲ説キ主權トハ社會ヲ支配スル最上命令權ナリト云ヘリ人間ノ相集リテ一ノ社會ヲ組織スルヤ必ス此最上命令權ヲ有スル者アラサルハナシ今日世界各國ニ行ハル、國體ヲ見ルニ或ハ主權全ク君主ニ屬スルモノアリ魯西亞、土耳其、支那等ノ如キ即チ是レナリ或ハ全ク人民ニ屬スルモノアリ亞米利加ニアリテハ南北ノ諸共和國歐洲ニアリテハ佛蘭西、瑞西ノ如キ國即チ是レナリ或ハ君民共有ノ國アリ英吉利、白耳義、西班牙、伊太利等ノ如キ即チ是レナリ又主權ヲ享有スルモノハ君主ニシテ之ヲ實行スルニ當リ多少ノ制限ヲ設ケタルモノアリプロイセン、バイルン、サクスン、如キ即チ是レナリ右ニ述フル如ク今日行ハル、實際ノ有様ヲ見ルトキハ主權ノ所在ハ實ニ種々ナリト云フヘシ然リト雖トモ學理上ヨリ之ヲ論スルトキハ主權ナルモノハ抑

モ誰レノ手ニ屬スヘキモノナルヤ此點ニ付テハ古來學者ノ説甚々多シ今其最ナルモノヲ左ニ述ヘシ

第一 主權ハ神ニ屬スヘキモノナルヲ以テ此世ニアリテハ君主ニアリ如何トナレハ君主ハ此世ニ於テ神ヲ代表スルモノナレハナリ

主權神ニアリトノ説ハ其根原甚々古シ往昔印度人へブルニナル人之ヲ唱へ又希臘羅馬等ニ於テモ此説ヲ主張セリ耶蘇教ノ現ハレシ當初ニ於テハ政教ノ分離ヲ唱ヘタリト雖トモ其盛ンナルニ及ヒテヤ政教分離ノ説ヲ捨テ漸々宗教ノ勢力ヲ政治上ニ及ホシ法王ノ權ヲ以テ君主ノ權ヲ凌駕スルニ至レリ是ニ於テカ其説ニ派ニ分レタリ第一派ノ唱フル所ニ依レハ法王ハ神ノ代表者ナルヲ以テ君主ト雖トモ之ニ從ハサル可ラスト第二派ノ唱フル所ニヨレハ主權ハ神ニアリ然リト雖トモ爲政ノ權ニ付テハ君主之ヲ代表スト云フニアリ此説佛國ニ於テハ十六七世紀ノ間ニ勝ヲ制シ遂ニ佛國ヲシテ君主獨裁タルニ至ラシメタリ近世ニ至リテモ尙ホ此説ヲ唱ヘタルモノナキニシモアラサレトモ今日ニ在リテハ既ニ此説ヲ唱フルモノナシト云フテ可ナリ

第二 主權ハ權力ヲ有スル者之ヲ掌握スヘキモノナリ

此說ニ依レハ力ノ強キ者カ常ニ主權ヲ握リテ差支ナシ又之ヲ握ラサルヘカラ
スト云フニアリ此說ハ獨逸ニ行ハル、哲學上ノ主義ヨリ出テタルモノニシテ
今世紀ノ初メニ當リヘーゲルノ輩之ヲ唱ヘ今日ニアリテハイエーリング杯云
フ有名ノ學者亦之ヲ唱フ今其說ク所ヲ聞クニ人間社會ハ權力ノ爭鬪ヨリ成リ
立ツモノナルヲ以テ權力ノ最モ強キ者之ヲ制御セサル可ラスト言フニアリ
第三 社會ノ公益ト一個人ノ利益トハ相同シキモノナリ何トナレハ社會ノ公
益ハ一個人ノ利益ノ集合シタルモノナレハナリ故ニ社會公衆ノ利益ニ關ス
ル政務ヲ處分スルノ權ハ社會公衆ニ屬セサル可ラスト

此說ハ英國ノ學者ベンザム初テ之ヲ主張シ近世ニ至リミルスベンサーノ輩亦
之ヲ唱ヘ其說ク所大同小異ナリト雖トモ要スルニ其根據トスル所ハ皆實利主
義ニ在リ又其主義ヲ實行スル政務機關ノ組織ニ至リテハ議院制度ヲ以テ最モ
善良ナルモノナリトナセリ

第四 佛國ノ學者カ主唱シタルモノニシテ此說亦甲乙二派ニ分レ甲ハ即チル

ローソノ民約乙ハ即チギゾー、ロワイエー、コラール、パンジヤマン、コンスタン
等ノ主權在正理ノ說是レナリ甲ローソノ說ニヨレハ人類ナルモノハ天然
孤立スルノ性アルヲ以テ人類社會ノ根原ニ遡ルトキハ未タ相集合シテ一ノ
社會ヲ成サス其後世ニ至リ社會ヲ組織スルヤ一ノ契約ヲ結ヒ人類固有ノ權
利ヲ以テ之ヲ社會ニ分與シタリ故ニ社會ヲ支配スル主權ナルモノハ素ヨリ
其社會ヲ組織スル人類ノ全體ニ屬スヘキモノナリ

是レ佛國ニ於テ千七百八十九年ノ革命ノ頃ニ行ハレタル主權在民論ノ嚆矢ニ
シテ革命ノ一大原因トナリタルモノナリ

ローソノ說ニヨレハ主權ハ人民ニアリ故ニ人民ハ直接ニ之ヲ實行セサル可
ラス主權ハ決シテ制限スヘキモノニアラス又之ヲ代理者ニ委任スルヲ得スト
云フ故ニローソハ代議政體ヲ以テ善良ナル爲政ノ方法トナサス其說ク所ニ
從ヘハ人民ハ自ラ直接ニ萬端ノ政務ヲ處分セサル可ラサルナリ是レ實ニ言フ
ヘクシテ行フ可ラサルノ議論ト評セサルヲ得ス

獨逸有名ノ哲學者カントモ亦民約說ヲ主張セリ然リト雖トモ其立論少シク

トツト異ニシルトツトハ人類社會ノ初メニアリテハ各孤立シ居リシ者ノ如クニ説ケリト雖トモカントハ民約ハ歴史上ノ事實ニアラスト雖トモ正理ニ協ヒタルモノナリト説キ又民約ノ目的トスル所ハ人民ノ權利ヲ保護スルニアリト論セリ政體上ノ組織ノ如キセルトツトノ説トハ大ニ異ナリルトツトハ代議政體ヲ容レスト雖トモカントハ之ヲ主張セリ近頃ノ學者ニモ亦民約論ヲ主張シタルモノアリ現今佛國ノ哲學社會ニテ其名ヲ得タルフイエー氏ノ如キ即チ是レナリ

乙ギゾー、ロワイエーコラール等ノ説ハ全クルトツトノ説ト異ナリ主權ハ正理ノアル所ニ歸スヘキモノニシテ決シテ無制限ノモノニアラスト云フニア

此説ノ論據トスル所ヲ聞クニ人類ノ相集リテ社會ヲ爲スハ是レ全ク人類ニ必要ニシテ缺ク可ラサルモノナリ然リト雖トモ社會ノ存在スル所以ノモノハ決シテ社會其物ノ爲メナラスト單ニ人類ノ幸福ヲ謀ランカ爲メナリ換言セハ人類ハ社會ノ爲メニ存在スルモノニアラスト社會ハ即チ人類ノ爲メニ存在スルモノ

ナリ隨テ社會ヲ支配スル主權モ亦社會ノ存在スル目的ヲ以テ其分界トナサルヘカラスト故ニ第一社會ノ存在ハ人類ニ必要ナルヲ以テ社會ヲ維持スルニ必要ナル處分ハ主權者ノ權内ニアリ第二社會ノ維持ニ必要ナラサル限リハ各個ノ自由ニ放任セサル可ラスト主權者ニシテ若シ此二點ヲ以テ其權限ノ分界トナス時ハ是レ正理ニ協ヒタルモノト云フ可キナリ此派ノ學者ハ主權ハ豫メ誰レノ手ニ歸スヘキモノト云ハスシテ主權ハ正理ト認ムル所ノ事ヲ爲スモノニ歸セサル可ラスト云フニアリ是レ此派ヲ名ケテ正理論者ト云フ所以ナリ此説ヲ主張スル論者カ其持論ヲ達スルニ最モ適當ナル政體ト認ムル所ノモノハ議院政治是ナリ

諸君ヨ余カ前ニ陳ヘタル所ハ歐洲ノ碩儒名家カ主張シタルモノナリ余モ亦此問題ニ付キ卑見ナキニ非スト雖トモ研究未タ足ラサルヲ以テ暫ク歐洲諸學者ノ説ヲ陳ヘ以テ諸君ノ參考ニ供スルノミ

學理上ノ議論ハ右ニ陳ヘタル所ノ如シ以下帝國憲法ノ規定ニ付テ之ヲ論セン帝國憲法ノ規定ニ依レバ主權其物ハ全ク之ヲ 天皇ニ歸シタリ是レ即チ憲法

第一條ニ大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ストアル所以ナリ

我國ニ於テ統治權ノ君主ニ屬スルハ建國以來ノ事實ナリト雖トモ我憲法ハ猶ホ之ヲ確認シ徹頭徹尾此大原則ヲ以テ貫キタリト謂フヘシ我憲法ノ精神ハ君主ヲ以テ國家ノ主腦トシ諸權力ノ淵源トナスニアリト云フテ可ナラン今一二ノ例ヲ舉グレハ憲法ヲ以テ制限ヲ設ケタル立法權ト雖トモ全ク之ヲ帝國議會ニ附與シタルニアラス帝國議會ハ法律案ヲ議決スルノ權アリト雖トモ已レ一ノ力ヲ以テ法律ヲ作ルノ權ナシ如何トナレハ其議決シタル法律案ト雖トモ君主ノ裁可ヲ得サレハ法律トナルヲ得サレハナリ行政權ニ至リテハ素ヨリ然リ天皇ハ行政各部ノ官制ヲ設ケ文武官ノ俸給ヲ定メ及ヒ之ヲ任免スルノ權アルハ勿論宜戰媾和ノ權陸海軍統帥ノ權等一トシテ之ヲ總攬シ給ハサルハナシ余ハ主權ヲ解シテ最上命令權ナリト云ヘリ既ニ命令權ト云フ以上ハ其命令ヲ受ケルモノト其命令ノ及フ所トナカル可ラス日本帝國ハ即チ是ナリ日本帝國トハ日本ノ臣民ト日本ノ國土トヲ合稱シタルモノナリ君主ニ屬スルノ統治權ハ即チ此二者ニ及フ者トス日本臣民ノ日本國內ニアルヤ君主ノ命令ニ從ハサ

ル可ラサルハ勿論ナリト雖トモ縱シ外國ニアリテモ亦然リ唯日本臣民ノ外國ニアルヤ日本ノ主權ト外國ノ主權ト相衝突スルヲ以テ各主權ノ分界ヲ定メサル可ラス然リト雖トモ是レ國際法ニ於テ論スヘキモノナルヲ以テ今爰ニ贅セス
君主ノ統治權ハ日本ノ國土ニ觸ル、モノニ及フ故ニ外國人ト雖トモ日本國內ニアル以上ハ必ス我君主ノ命ニ從ハサル可ラサルナリ然ルニ今日ノ有様ニテハ安政年間ノ條約尙ホ未々存在スルカ爲メ日本ノ主權ハ日本ニ在ル外國人ニ充分及フヲ得ス實ニ國辱ノ甚シキモノト云フ可キナリ
天皇ハ神聖ニシテ侵ス可ラス 神聖ニシテ侵ス可ラストハ法律ノ力カ君主ノ身體ニ及フコト能ハズトノ意ナリ是レ君主國ニアリテハ當然ノ事ナリ如何トナレハ君主ハ即チ主權ノ所有者ナリ主權者トハ命令ヲ下スヘキモノニシテ命令ヲ受クヘキモノニアラス命令ヲ受クヘキモノニアラサレハ法律ノ力カ及フヘキノ理ナケレハナリ故ニ天皇ニ如何ナル行爲アリト雖トモ法律ヲ以テ問フ可キノ限ニアラス

皇位ハ皇男子孫之ヲ繼承ス。我國古來ノ歴史ニ徴スルニ皇位ハ上代ニアリテハ常ニ皇男子孫之ヲ繼承シ給ヘリ其後推古天皇以後ニ至リ皇后皇女ニシテ位ニ即キ給ヒシコトアリ新定憲法ニ於テハ皇位ハ必ス皇男子孫ニ傳フルノ原則ヲ定メ皇室典範第一條以下ニ於テ其意義ヲ明カニセリ其第一條ニ於テ皇位ハ男系ノ男子之ヲ繼承スト規定シタリ憲法第二條ニ於テハ單ニ皇男子孫之ヲ繼承ストアリテ皇室典範第一條ニハ男系ノ男子トアリ蓋シ憲法第二條ノミニテハ天皇ノ子孫ニシテ尙モ男子タレハ位ニ即クコトヲ得ト解釋スルモノアルヤモ亦知ル可ラス此ノ如キ誤解ノ生セサランカ爲メニ皇室典範ニ於テハ特ラニ男系ノ男子トシタルモノナリ故ニ縱シ皇女ニ男子アリト雖トモ此皇孫ハ位ニ即クコトヲ得ス例ヘハ天皇ノ御子ニ長ハ女子ニシテ次ハ男子ナリト假定セヨ此場合ニ當リ天皇ノ長女ニ男子アリ此男子ハ天皇ノ孫ナリト雖トモ皇位ニ即クコトヲ得ス如何トナレハ男系ノ男子ニ非サレハナリ故ニ此場合ニ於テハ次子タル皇男位ニ即キ給フヘシ

皇室典範第二條第三條ニ於テ皇位繼承ノ順序ヲ定メタリ皇位ハ先ツ第一ニ皇

主權ノ規限

長子ニ傳ヘ若シ皇長子アラサルトキハ皇長孫ニ傳ヘ皇長子及ヒ其子孫皆アラサルトキハ皇次子及ヒ其子孫ニ傳フ第三條ニ子孫トアルハ子ト孫トノミニ限リシ言ニアラス曾孫以下皆其内ニアリ第四條ニ於テ皇位ヲ繼承スヘキ皇男子孫ハ嫡出ヲ先ニシ嫡出ノ皇男子孫在ラサルトキハ庶子孫皇位ヲ繼承ストノ事ヲ規定セリ此外尙ホ皇位繼承ノ事ニ付テハ數條アリト雖トモ今之ヲ略ス

我國主權ノ所在ハ以上陳ヘタルカ如シ然レトモ君主ニ屬スル主權ナルモノハ果シテ無制限ナルヤ否ヤ請フ以下之ヲ述ヘン

憲法ハ君主ノ權ヲ制限シタルモノナルヤ否ヤノ議論世ニ囂シクナリシハ蓋シ永ク獨乙ニ留學シテ公法學ヲ修メラレ公法學者ニ其人アリト聞ヘタル法學博士穂積八束君ノ「帝國憲法ノ法理」世ニ出テシヨリノ事ナラシ同君ノ論ハ載セテ國家學會雜誌第廿四號以下ニアリ今其立論ノ大意ヲ云ヘハ蓋シ左ノ點ニ過キサルヘシ

曰ク法律上所謂制限ナルモノハ必ス制裁ナカル可ラス制裁ナキ制限ハ法律上ノ制限ニアラサルナリ然ルニ天皇ハ日本帝國ノ主權者ニシテ所謂神聖ニ

シテ侵ス可ラサルモノナルヲ以テ君主若シ背憲ノ行爲アルトキハ之ニ加フルニ制裁ヲ以テスルノ手續ナシ制裁ヲ加フルノ力ナキ以上ハ制限ト稱ス可ラス故ニ憲法第四條ハ法理上決シテ 天皇ノ大權ノ區域ヲ定メタルモノニアラス云々(國家學會雜誌廿六號第205, 210)
 穂積君ノ議論ハ一應理アルカ如ク聞ユレトモ惟フニ主權ハ享有ト主權ハ實行トヲ混同シタルモノニハ非サルカ余ノ見ル所ヲ以テスレハ帝國憲法ハ主權ノ享有ニ付キテハ毫モ制限ヲ設ケスト雖トモ主權ノ實行ニ至リテハ之ヲ制限セリト云ハサル可ラス請フ左ニ余カ所見ヲ詳述セン
 凡ソ如何ナル權ト雖トモ其權ノ享有ト其權ノ實行トノ別アルコトハ諸君モ既ニ知ラル、ナラン權ヲ享有スルトハ權其物ヲ所有スルノ謂ナリ權ノ實行トハ所有スル所ノ權ヲ働カシムルノ謂ナリ例ヘハ所有權ニ付テ之ヲ論センカ今爰ニ未成年者アリテ一ノ不動産ヲ所有スト假定スヘシ佛國ノ法律ニ依レハ未成年者ハ己レノ所有物タリト雖トモ隨意ニ不動産ヲ處分スルコトヲ得ス即チ之ヲ賣却セシト欲スルトキハ法律ヲ以テ定メタル種々ノ手續ヲ履ミ後見人ニ於

テ之ヲ處分セサル可ラス故ニ未成年者ハ不動産所有權ヲ享有スト雖トモ其所有權ヲ實行スルヲ得ス語ヲ換ヘテ之ヲ云ヘハ所有權其者ハ未成年者ニ屬スト雖トモ其權ノ實行ハ後見人ニアリ故ニ此例ニ依リテ論スルトキハ權ノ享有ハ未成年者ニ屬シ其實行ハ後見人ニ屬スト云フヘキナリ
 右ノ例ニ依テ權ノ享有ト權ノ實行トノ區別ハ判然タルヘシト信ス今述フル所ハ所有權ニ付テナリト雖トモ君主ニ屬スル主權ニ至リテモ亦然リ主權ノ享有ト主權ノ實行トハ自ラ別アルナリ今各國ノ憲法ヲ通觀スルニ或ハ主權ノ享有ト其實行ト兩ナカラ全ク君主ニ屬スルモノアリ魯國ノ如キ即チ是ナリ主權ノ享有ヲ君主ト國會トニ分ツモノアリ英國ノ如キ即チ是ナリ而シテ我帝國憲法ニ於テ規定シタル所ニ依レハ主權ノ享有ハ全ク 天皇ニアリ其實行ノ一部分ハ之ヲ帝國議會ニ委子タルモノナリト信ス憲法第一條ニ於テ「大日本帝國ハ萬世一系ノ 天皇之ヲ統治ス」ト云ヒ其第四條ニ於テ「天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬ス」ト云ヒタルハ是レ即チ主權ハ天皇ニ於テ全ク之ヲ享有シ給フトノ意ヲ明カニシタルモノナリ憲法第四條ノ末文ニ於テ「此憲法ノ條規ニ依リ之

ヲ行フト云ヒ其第五條ニ於テ天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フトアルハ是レ即チ主權ノ實行ヲ規定シタルモノニシテ立法權ノミハ君主一已ニテ之ヲ行ハス必ス帝國議會ノ協賛ヲ以テ之ヲ行フトノ意ヲ明カニシタルモノナリ

總論ニ於テモ既ニ論シタルカ如ク憲法制定前ニアリテハ如何ナル法律如何ナル命令ト雖トモ君主ノ獨斷ヲ以テ之ヲ發シ給フコトヲ得タリ然ルニ憲法制定以後ニアリテハ主權者ノ命令中而カモ其大部分ヲ占ムル所ノ法律ト稱スル命令ニ至リテハ必ス帝國議會ノ協賛ヲ經サレハ之ヲ發スルコトヲ得ス是レ余カ憲法ヲ以テ主權ノ實行ヲ制限シタリト云フ所以ナリ

右ニ論シタル所ニ依レハ主權ノ本體即チ主權其者ハ全ク天皇ニ屬シ英國等ノ如ク主權其モノノ一部分ヲ國會ニ分與シタルモノニアラサルナリ穗積君カ我憲法ハ天皇ノ大權ノ區域ヲ定メタルモノニアラスト云ハレタルハ即チ日本帝國ノ主權ハ其全部ヲ以テ天皇ノ享有ニ歸シタリトノ意ナレハ余敢テ異議ナシ然リト雖トモ若シ主權ノ實行ニ至リテモ尚ホ且ツ制限ナシトノ意ナレハ

余ハ其論ニ服スル能ハサルナリ

穗積君ノ說ニ依レハ法律上所謂制限ナルモノハ必ス制裁ナカル可ラスト是レ實ニ至當ノ論ナリ制裁ナキノ制限ハ眞ノ制限ニアラサルナリ

然リト雖トモ余カ所謂主權實行ノ制限ニハ果シテ制裁ナシト云フ可キカ法律上所謂制裁ナルモノハ抑モ如何ナルモノソヤ蓋シ主權者カ一ノ命令ヲ下シ其命令ニ背ク者アルトキハ或ハ之ヲ罰シ或ハ其行爲ヲ無効ニスルコト即チ是ナリ今一二ノ例ヲ擧ケンニ今若シ立法者カ天下ニ令シテ曰ク人ヲ殺スヘカラス若シ殺ス者アルトキハ何々ノ刑ニ處スト命シタリト假定スヘシ又民事ニ關シ有効ナル契約ヲ結フニハ斯々ノ要素ヲ具備セサルヘカラス若シ其一ヲ缺クトキハ契約ハ無効ナリト命令シタリト假定スヘシ此二箇ノ場合ニ於テ法律上所謂制裁ナルモノハ何ソヤ蓋シ其命令ニ背キタル者ヲ刑ニ處スルコト及ヒ命令ニ背キテ結ビタル契約ヲ無効ニスルコトナルヘシ是レ法律上ノ所謂制裁ナルモノナリ猶ホ最モ了解シ易キ一例ヲ擧レハ佛國民法人事編中婚姻ノ部ヲ研究シタル諸君ハ皆知ラル、ナラン佛國ノ婚姻法ハ實ニ繁雜ニシテ婚姻ニ種々ノ禁

日本
國ニ在リタル
ハ因テ也

制アリ其禁制中或ハ制裁ヲ附シタルアリ或ハ制裁ヲ附セサルアリ看ヨ既ニ一
妻ヲ有スル者ハ重子テ婚姻スルコトヲ許サス若シ之ヲ爲ストキハ第二ノ婚姻
ハ無効ナリト云ヘルカ如キ重婚ヲ爲スコトヲ得ストノ禁制ハ即チ制裁アル禁
制ナリ如何トナレハ若シ此禁制ヲ犯ストキハ其婚姻ハ無効ナレハナリ又夫ヲ
失コタル妻ハ夫ノ死去後十ヶ月間ハ結婚スルコトヲ得ストノ禁制アリ然レト
モ若シ此禁制ヲ犯シ結婚シタル者アルトキハ法律ハ其結婚ヲ以テ無効トナサ
ズ是レ即チ制裁ナキ禁制ナリ如何トナレハ此禁制ヲ犯スト雖トモ結婚ハ依然
トシテ有効ナレハナリ是レ實ニ制裁ノ有無ヲ識別スルニ最モ見易キ好例ナリ
法律上ノ制裁ナルモノハ蓋シ右ニ述ヘタルカ如キモノナリ爾レハ我憲法ヲ以
テ規定シタル主權實行ノ制限ハ果シテ制裁ナキカ余ハ制裁アリト信スルナリ
請フ其理由ヲ陳ヘン

立憲制君主國ノ國會ハ抑モ如何ナルモノソヤ主權者諮問ノ府タルニ過キサル
カ余ハ決シテ其然ラサルヲ信スルナリ穂積君モ亦余ト同説ニシテ(國家學會雜誌
第廿四號一〇六頁)我日本帝國ハ立憲制君主國
ニシテ主權者カ法律案ヲ國會ノ議決ニ附スルハ道德上ノ念ニアラス政治上ノ便
宜ニアラス法理上ノ必用ナリ然ラハ國會ノ議ヲ經サル法律案ハ法律トナルコ
トヲ得サルナリト云ハレタリ日本帝國ノ憲法發布以來ハ立憲制君主國タルコ
トモ亦同君ノ認メラレタル所ナリ(國家學會雜誌第
廿四號一〇六頁)我日本帝國ハ立憲制君主國
ニシテ法律案ハ凡テ帝國議會ノ議ニ附シ其議決ヲ經サレハ法律トナルヲ得ス
トスレハ是レ所謂法律上ノ制裁ニアラスシテ何ソヤ

前ニ詳論シタルカ如ク法律上ノ制裁トハ立法者カ命令ヲ下シ其命令ニ背キタ
ル者ハ或ハ之レヲ罰シ或ハ其所爲ヲ無効トスルニ在リ然ルニ我憲法ニ於テハ
法律ハ必ス帝國議會ノ協賛ヲ經サル可カラスト規定シタリ故ニ帝國議會ノ協
賛ヲ經サルノ法律案ハ法律トナルヲ得ス穂積君モ亦憲法ニ衝突スル法律命令
ハ存シ得ストノ意アリト云ハレタリ(國家學會雜誌第
廿六號二〇五頁)帝國議會ノ協賛ナキ法律
案ハ法律トナルヲ得ストスル以上ハ是レ即チ我憲法ニ於テ主權實行ノ制限ニ
附シタルノ制裁ナリト云ハサル可ラス如何トナレハ若シ帝國議會ノ協賛ヲ經
スシテ法律ヲ發スルトキハ其法律ハ無効ナレハナリ帝國議會ノ協賛ヲ經サル
法律案モ猶ホ法律トナルヲ得トノ事ヲ證明シ得ハ或ハ立法權ハ帝國議會ノ協

贊ヲ以テ之ヲ行フトノ原則ニ制裁ナシト云フヲ得ヘシト雖トモ之ヲ證明シ得サル間ハ制裁ナシト云フヲ得サルナリ
 穂積君ノ論ニ依レハ主權者ニ背憲ノ行爲アルモ之ニ制裁ヲ加フルノ手續ナシ故ニ主權者ノ權力ハ無制限ナリト論者或ハ法律上ノ制裁ト其制裁ヲ實行スルノ機關トヲ混シタルニハアラサルカ通常法律ヲ以テ定メタル制裁ハ之ヲ實行スルノ機關アリ裁判所即チ是ナリ法律ヲ以テ斯々ノコトハ爲ス可ラス之ヲ爲シスル者ハ斯々ノ刑ニ處スヘシト定メタルトキ若シ法律ニ背キタル者アラハ裁判所ニ於テ果シテ法律ニ背キタルヤ否ヤヲ判定シ背キタリト認ムルトキハ之ヲ刑ニ處ス其所謂斯々ノコトハ爲スヘカラストノ命令ハ即チ人々ノ超ヘ得ヘカラサル制限ニシテ斯々ノ刑ニ處スト云フハ是レ法律上ノ制裁ナリ然リ而シテ果シテ法律ニ背キタルヤ否ヤヲ判定スルノ裁判所ハ即チ其制裁ヲ實行スルノ機關ナリ故ニ法律上ノ制裁ト其制裁ヲ實地ニ行フノ機關トヲ混同ス可ラス
 通常ノ法律ニハ何レノ國ト雖トモ大概制裁アリテ又其制裁ヲ實地ニ行フヘキ機關アリ憲法ニ於テ定メタル原則ニハ制裁アリト雖トモ往々其制裁ヲ實地ニ

行フノ機關ナキコトアリ例ヘハ憲法ヲ以テ國務大臣ノ責任アルコトハ大概何レノ國ト雖トモ之ヲ規定ス然リト雖トモ國務大臣ニ詰責ス可キ事跡アルトキ如何ニシテ其責任アルノ實ヲ表彰ス可キヤニ至リテハ之ヲ規定セサルコト多シ我憲法ノ如キモ現ニ然リ又國會及ヒ政府ニ於テ違憲ノ法律ヲ作りタルトキハ其法律ノ果シテ違憲ナルヤ否ヤヲ判定スヘキ機關ヲ有スルノ國ハ殆ト稀ナリ余ノ知ル所ヲ以テスレハ獨リ北米合衆國アルノミ合衆國ニ於テハ國會ニテ議決シタル法律ノ果シテ憲法ニ違フヤ否ヤハ高等裁判所ニ於テ之ヲ判定スルノ權アリ
 右ニ陳ヘタル如ク法律上ノ制裁ハアリト雖トモ其制裁ヲ實地ニ行フノ機關ナキコト往々之レアリ然リト雖トモ其機關ナキカ故ニ必シモ制裁ナシト斷定スヘカラサルナリ各國ノ憲法ニ於テ其法則ノ制裁ヲ實地ニ行フヘキ機關ヲ設ケサル所以ノモノハ蓋シ實際其機關ナシト雖トモ敢テ太甚シキ不都合ナキカ故ナラン如何トナレハ君主ニアレ臣民ニアレ背憲ノ行爲アルカ如キハ通常ナキコトト假定シテ可ナルモノナレハナリ而シテ若シ背憲ノ行爲アレハ是レ既ニ憲

法ヲ以テ論スヘキノ時ニ非ス實ニ國家擾亂ノ時ニシテ所謂暴ヲ以テ暴ニ易ラ
 ルノ時ナリ斯ル場合ニ於テハ如何ニ善良ナル憲法アリト雖トモ國家ヲ制御シ
 得可ラス是レ即チ各國ノ憲法ニ於テ斯々ノコトハ爲ス可カラスト定メナカラ
 制裁ヲ加フヘキ手續ヲ規定セサル所以ナラン是ニ因テ之ヲ觀レハ制裁ヲ實行
 スルノ機關ナキカ故ニ必スシモ君主ノ權ハ無限ナリト斷定スルヲ得サルナリ
 之ヲ要スルニ穂積君ト雖トモ君主ニ制裁ヲ加フヘキノ手續ナキカ故ニ我憲法
 ハ君主ノ權ヲ制限シタルモノニアラスト論シラレタレトモ獨裁政体ト立憲
 政体トノ相分ル、要點ヲ説クニ至リテハ獨裁君主ノ權ハ無限ナリト云ハレタ
 リ故ニ同君ノ意中ニテモ立憲君主ノ權ハ有限ナルコト推シテ知ル(國家
 雜誌一〇五)然ルニ我國ノ政体モ立憲制ナルコトハ穂積君モ亦之ヲ認メラレタリ
(國家學雜誌
 廿四號一〇六)既ニ我日本帝國ヲ以テ立憲制ノ君主國ナリトスレハ君主ノ權モ亦
 有限ナラサル可ラサルヤ論ヲ俟タサルナリ若シ有限ナラストスレハ我國ハ獨
 裁政体ノ國ト云ハサル可ラス憲法ヲ實施スルニ當リ誰カ日本帝國ヲ以テ獨裁政
 体ノ君主國ナリト云ハシヤ故ニ今余ノ見ル所ヲ約言スレハ日本帝國ハ天皇

主權ノ實行

ハ屬スル主權其物ハ無限ナリト雖トモ其主權ハ實行ニ至リテハ憲法ヲ以テ之
 ヲ制限セリト是ナリ而シテ其制限ノ區域ニ至リテハ大ニ論スヘキモノアリ請
 フ後章ニ於テ之ヲ詳論スヘシ

第二節 主權ノ實行

諸君ヨ余ハ第一節ニ於テ主權ノ享有ト主權ノ實行トハ須ラク之ヲ區別セサル
 可ラス日本帝國ノ主權其者ハ 天皇ニ於テ全ク之ヲ享有シ給フモ其實行ニ至
 リテハ憲法ヲ以テ多少之ヲ制限シタリト論シタリ此點ニ付キテハ諸君ノ胸中
 既ニ一點ノ疑ヒナキヲ信ス仍テ余ハ今ヨリ第二節ニ進ミ帝國憲法ハ如何ニ主
 權ノ實行ヲ規定シタルヤヲ詳論セント欲ス然リト雖トモ今ヤ本論ニ入ルノ前
 ニ憲法學中ニ於テ最モ有名ナル權力分立ノ問題ニ付キ聊カ卑見ヲ陳述セント
 欲ス蓋シ此問題タルヤ余カ本節ニ於テ論セント欲スル所ト大ナル關係ヲ有シ
 立憲國ノ制度ヲ研究センニハ最モ必要ナリト信スレハナリ
 現今歐米諸國ニ於テ自由制度ヲ主張スル論者ノ説ニ由レハ主權ヲ實行スルニ

權力分立論

當リテハ之ヲ立法、行政ノ二者ニ大別シ各其分界ヲ定メテ之ヲ獨立セシメサル可ラス如何トナレハ此二權ヲ以テ主權者ノ一手ニ歸スルトキハ主權ノ君主ニ在ルト人民ニ在ルトヲ問ハス必ス壓制政治ヲ行フニ至ルハ勢ヒ免カル可ラサレハナリ蓋シ權カヲ有スルモノニシテ他ニ之ヲ制限スル者ナクンハ其權カヲ濫用スルニ至ルハ是レ人世ノ常ナリ故ニ一人ノ君主ニアレ又ハ數人ノ集合體ニアレ無限ノ權カヲ有スルトキハ必ス其權カヲ濫用スレ古今ノ歴史ニ徴シテ明カナル事實ナリ是ヲ以テ自由制度ヲ布キ國民ノ幸福ヲ謀ラント欲セハ必スヤ立法行政ノ二大權ヲ分立セシメ以テ其平衡ヲ保テシメサル可ラサルナリ是レ即チ學者ノ所謂權カ分立論ナルモノナリ

權カ分立論ノ世ニ公ケニナリシハ蓋シ佛國ノ碩儒モンテスキューカ千七百四十八年ニ彼ノ有名ナル萬法精理ヲ著シタルニ起因スヘシ然リト雖トモモンテスキューカ主唱シタル權カ分立論ト今日ノ學者カ主唱スル所ノ權カ分立論トハ其目的トスル所ハ等シク自由制度ヲ確立セント欲スルニアレトモ其立論ノ細目ニ至リテハ稍々異ナル所アリモンテスキューカノ說ニ依レバ國家ヲ統御スル

權カヲ行政、立法、司法ノ三權ニ分チ行政權ハ之ヲ君主ニ歸シ立法權ハ之ヲ國會ニ歸シ司法權ハ之ヲ人民中ヨリ撰舉シタル法官ニ歸シ此三大權ヲシテ各孤立セシメ毫モ其相干與スルヲ許サス是レモンテスキューカ主張シタル分立論ノ大意ナリ然ルニ今日ノ學者カ主唱スル所ハ之ト異ナリ主權其物ハ或ハ全ク之ヲ君主ニ歸シ或ハ全ク之ヲ人民ニ歸シ而シテ之ヲ活用シ之ヲ實行スルニ至リテハ立法、行政ノ二權ニ分チ各特殊ノ機關ヲ設ケ立法、行政ノ職務ヲ分擔セシムト雖トモ此二權ヲシテ全ク孤立セシムルニ非スモンテスキューカノ說ニ從ヘハ行政權ヲ掌握スル君主ハ毫モ立法ノ事ニ隊ヲ容ル、ヲ得ス法律案ヲ草シ之ヲ議定シテ法律ト爲スニ至ルマテ悉ク之ヲ國會ニ放任シ君主ハ發案ノ權ナク又議事ニ參與スルノ權モナシ唯國會ニ於テ議決シタル法律ヲ拒否スルノ權ヲ有スルヲミ然ルニ今日ノ學說ニ從ヘハ立法ノ職務ト行政ノ職務トハ之ヲ分立セシメサル可ラスト雖トモ全ク之ヲ孤立セシム可シト云フニ非ス立法權ハ國會ニ於テ之ヲ有スト雖トモ政府モ亦之ニ參與ス即チ或ハ法律案ヲ提出シ或ハ大臣ヲシテ國會ノ議事ニ與カラシムルハ是レ則チ立法ニ參與スルモノナリ又行政權

ハ政府ニ屬スト雖トモ國會ハ其行爲ヲ監督シ國務大臣ノ責任ヲ確定シ以テ行政ニ參與ス要スルニ今日ノ學說ニ依レハ立法行政ノ職務ハ之ヲ分立セサル可ラズト雖トモ互ニ一致協力シテ國務ヲ全フセシムルニアリ是レモソノキニ
ノ分立論ト今日ノ分立論ノ相分ル、所以ナリ
司法權ヲ以テ三權ノ一ト爲スノ點ニ於テモ古今其說ヲ同フセスモソノキニ
司法權ヲ以テ三大權ノ一トナセリ輒近ノ學說ニ從ヘハ國家ノ大權ハ之ヲ
立法行政ノ二種ニ分チ司法ヲ以テ行政ノ一部トナスモソノキニ
世ニ至リテモ尙ホ之ヲ主張スルモノアリ司法ト行政トハ特殊ノ性質ヲ有スル
モノニシテ決シテ混同スヘキモノニ非ス如何トナレハ司法官ハ訴訟ヲ判決ス
ルノ權アリト雖トモ其判決ヲ實行スルニ至リテハ之ヲ行政官ニ委ネサル可ラ
ザレハナリ語ヲ換テ之ヲ言ヘハ司法官ハ其判決ノ實行ヲ行政官ニ命令スルノ權
アリテ判決實行ノ一事ニ至リテハ行政官ハ司法官ノ下ニアリト云ハサル可ラ
ズ是レ司法權ハ行政權ト并立スヘキモノニシテ行政權ノ一部ニアラスト主
張スル論者ノ根據トスル所ナリ余ハ此論ニ服スル能ハサルナリ請フ其理由ヲ

述ヘン

立法權行政權トハ抑モ如何ナルモノソヤ蓋シ學理上ヨリ博ク之ヲ解スルトキ
ハ立法權トハ主權ノ一部分ニシテ社會ヲ支配スヘキ法律命令ヲ下スノ權ナリ
行政權トハ主權者カ下シタル法律命令ヲ實行シ萬般ノ政務ヲ處分スルノ權ヲ
云フ國家ヲ統御スルニ必要ノ職務ハ蓋シ立法行政ノ二者ニ過キサルヘシ如何
トナレハ立法權ヲ以テ國民ノ遵守スヘキ規矩ヲ定メ行政權ヲ以テ之ニ服從セ
シムルヲ得レハナリ遵守スヘキノ規矩ヲ定メ國民ヲシテ之レニ服從セシムル
ヲ得ハ何ソ他ニ爲政ノ方法ヲ求ムルノ要アラン故ニ國家ノ職務ヲ掌ル者ニシ
テ立法者ニアラサルモノハ凡テ行政ニ與ルノ有司ナリト云テ可ナリ反對論者
ガ司法ヲ以テ行政ノ一部ニ非スト主張スル所以ノモノハ司法官カ下ス所ノ判
決ヲ自ら實行セス之ヲ行政部ノ官吏ニ委任スルカ爲メナリ然リト雖トモ若シ
此論ヲシテ其當ヲ得タルモノトスレハ兵士若クハ警察官ノ外ニハ行政官ナシ
ト言ハサル可ラス如何トナレハ此二者ヲ措テ他ニ立法者ノ命令ヲ直接ニ實行
スル者アラサレハナリ國務大臣ノ如キ府縣知事ノ如キ若クハ市町村長ノ如キ

ハ是レ皆純然タル行政部ノ官吏ナリト雖トモ決シテ直接ニ法律ノ實行ニ與カ
 ルモノニアラス唯法律ヲ實行スルニ必要ナル命令ヲ發スルノミ其命令ヲ執行
 スルニハ或ハ兵士或ハ警察官ヲシテ其任ニ當ラシメサル可ラサルナリ國務大
 臣府縣知事等ニシテ手ツカラ法律ヲ實行セサレハトテ之ヲジモ猶ホ是レ行政
 官ニアラスト云フヲ得ヘキカ若シ斯ノ如キ說ヲ主張スルモノアラハ誰カ其愚
 ヲ笑ハサラン果シテ然ラハ司法官ト雖トモ法律ヲ實行スルニ至リテハ毫モ他
 ノ行政部ノ官吏ト異ナルコトナシ唯其異ナル點ハ通常ノ行政官ニ在リテハ機
 ニ臨ミ變ニ應シ法律ノ範圍内ニ於テ自由ニ働作シテ政務ヲ處分スルヲ得ルト
 雖トモ司法官ニ至リテハ即チ然ラス單ニ法律ヲ適用スルニ止マルヲ以テ其働
 作ノ區域モ亦隨テ狹隘ナリ然リト雖トモ立法者カ規定シタル法則ヲ適用シ其
 實行ヲ命スル點ニ於テハ毫モ他ノ行政官吏ト異ルコトナシ是レ余カ輓近ノ學
 說ト共ニ司法ヲ以テ行政ノ一部ト信スル所以ナリ
 司法ハ之ヲ他ノ行政各部ニ比スレハ一種獨立ノ性質ヲ有スルカ故ニ爾他ノ行
 政トハ異種ノ權ナルカ如キ觀念ヲ生スト雖トモ決シテ然ラス其獨立ノ性質ヲ

有スル所以ノモノハ古ヨリノ經驗ニ依リ司法官ノ公平無私ナランコトヲ望ム
 トキハ必ス獨立ノ位地ヲ與ヘサル可ラサルヲ悟リタルニ因ルモノニシテ其獨
 立ナルカ爲メニ權ノ性質ニ至ルマテ異種ノモノナリト云フ可ラサルナリ
 モンデスキューカ佛國ニ於テ初テ主張シタル三權分立論ト近世ノ學者カ主張
 スル權力分立論トハ以上述ヘタル如キ差異アリト雖トモ要スルニ其目的トス
 ル所ハ等シク自由制度ヲ設ケ以テ國民ノ權利ヲ保護セント欲スルニ在リ
 現今歐米諸國ニ行ハル、所ノ憲法ヲ見ルニ或ハモンデスキューノ說ニ從ヒ立
 法、行政、司法ノ三權ヲ全ク分離シタルモノアリ北米合衆國ノ如キ即チ是レナリ
 合衆國ニ於テハ立法權ハ全ク國會ニ歸シ大統領ハ毫モ之レニ干與スルヲ得ス
 又國會ハ政府ノ行爲ニ對シテハ毫モ啄ヲ容ル、ヲ得ス大統領ハ無論國會ニ對
 シテ責任ヲ有セサルノミナラス大臣等ト雖トモ國會ニ對シテ責任ナシ故ニ國
 會ト政府トノ間ニ不和ヲ生シタル時ニハ之ヲ處分スルノ道ナシ唯大統領或ハ
 國會ノ改撰ヲ俟ツアルノミ司法權モ亦然リ合衆國ノ法官ハ人民ヨリ撰舉スル
 モノニシテ大統領ト雖トモ國會ト雖トモ亦之ヲ黜陟スルヲ得ス英佛ノ如キハ

立法行政ノ二權ヲ分立スルト雖トモ全ク之ヲ孤立セシムルニアラス政府ハ行政事項ヲ以テ其本務トナスト雖トモ或ハ法律案ヲ起艸シ或ハ國會ノ議事ニ與リ以テ立法權ニ參與ス國會ハ立法事項ヲ以テ本務ト爲スト雖トモ政府ノ行爲ヲ監督シ責任内閣ノ制ヲ以テ行政ニ參與ス

要スルニ自由政体ノ行ハル、國ニ於テハ概シテ或ハ立法、行政、司法ノ三權ヲ分立セシメ或ハ立法行政ノ二權ヲ分立セシムルモノナリ帝國憲法ニ於テハ如何ニ主權ノ實行ヲ規定シタルヤ

帝國憲法ハ純然タル自由制度ヲ我邦ニ布カント欲シタルモノニ非サルコトハ是レ余カ再三論シタル所ナリ然リト雖トモ往古ヨリ我邦ニ行ハル、所ノ君主獨裁ノ政体ヲ其儘ニ存在セント欲シタルニアラス其精神ハ全ク漸々自由制度ニ向ハントスルノ傾キアリ是レ亦掩フ可ラサル事實ナリ故ニ主權ノ實行ヲ規定スルニ至リテモ亦此精神ヲ貫徹シ獨裁政体ト自由政体トヲ折衷シタル原則ヲ設ケタリ獨裁政体ト自由政体トヲ折衷シタル原則トハ何ソヤ曰ク行政權ノ全部ハ君主自ラ之ヲ掌握シ給ヒ立法權ノ實行ハ之ヲ君主ト帝國議會トニ分チ

タルコト即チ是レナリ

帝國憲法ノ規定スル所ニ依レハ行政權ハ其享有ト其實行トヲ論セス盡ク之ヲ君主ニ歸シタリ如何トナレハ憲法中之ヲ制限シタル條文ナケレハナリ而シテ司法權モ其中ニアリ然リト雖トモ司法權ニ限リテハ憲法第五十七條ヨリ第六十一條ニ於テ特別ノ原則ヲ設ケタリ蓋シ歐米諸國ノ學說ニ從ヒ司法權ハ行政權ノ一部ナリト雖トモ之ヲ獨立セシメサレハ以テ公平無私ノ裁判ヲ得可ラストノ意ニ出テタルモノナリ立法權ハ之ヲ君主ト帝國議會トニ分テリ憲法第五條ニ於テ「天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ」ト云ヒ其第三十七條ニ於テ「法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス」トアリ又其第六條ニ於テ「天皇ハ法律ヲ裁可シ其公布及ヒ執行ヲ命ス」トアリ是レ即チ立法權ノ實行ヲ以テ君主ト帝國議會トニ分テルモノナリ夫レ然リ故ニ法律ヲ制定セント欲セハ第一帝國議會ノ協贊ヲ經サル可ラス第二 天皇ノ裁可ヲ經サル可ラス帝國議會ノ協贊ト 天皇ノ裁可トハ是レ立法上缺ク可ラサルノ要素ナリ若シ其一ヲ缺クトキハ君主ノ命令ハ法律トナルヲ得サルナリ

帝國議會ノ協賛ヲ經ルトハ法律案ニ對シ議會ノ同意ヲ得ルノ意ナリ之ヲ詳言スレハ政府又ハ議會ヨリ提出シタル法律案ヲ議會ニ於テ可決スルノ意ナリ奈何ナル法律案ト雖トモ此可決ナクハ法律トナルヲ得ス 天皇ノ裁可トハ帝國議會ニ於テ可決シタル法律案ニ法律ノ効力ヲ與フルノ所爲ヲ云フ故ニ如何ナル法律案ト雖トモ此裁可ナケレハ法律トナルヲ得ス伊藤伯ノ憲法義解ニ裁可ハ以テ立法ノ事ヲ定結ストアルハ蓋シ此意ナルヘシ

以上陳ヘタル所ニ依テ立法權ノ實行ハ之ヲ君主ト帝國議會トニ分チタルコトハ諸君ノ意中既ニ判然タルヘシト信ス夫レ然リ然リト雖トモ君主ト議會トニ於テ分擔スル立法權ナルモノハ自由政體ノ行ハルハ歐米諸國ニ於テ謂フ所ノ立法權即チ [Pouvoir législatif] トハ少シク異ナル所アリ我憲法ノ所謂立法權ナルモノハ P. H. J. ヨリ狹隘ノ意味ヲ有ス帝國憲法ノ規定スル所ニ從ヘハ君主ノ命令ヲ分テ法律緊急命令行政命令三者トス法律トハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要スルノ命令ヲ云ハ緊急命令トハ憲法ヲ以テ規定シ或ル特別ノ場合ニ於テ發シ法律ニ代ルヘキ命令ヲ云フ行政命令トハ君主單獨ノ意思ニ因テ發スル

所ノ命令ニシテ法律ヲ變更シ得サル命令ヲ云フ行政命令ハ或ハ君主自ラ之ヲ發シ或ハ有司ニ命シテ之ヲ發セシムルモノニシテ就中法律ヲ執行スル爲メニ發スル命令ナリ

行政命令權ハ通例何レノ國ト雖トモ行政權ヲ實行スル者ニ屬スルモノニシテ是レ當ニ然ルヘキ所ナリ奈何トナレハ法律執行ノ爲メニ要スル細則ヲ規定スルニハ行政部ノ官吏ヲ以テ最モ適任トスレハナリ

法律及ヒ緊急命令ノ如キハ即チ然ラス或ハ法律ト緊急命令トノ區別ヲ設ケス兩ナカラ之ヲ法律ト稱シ必ス國會ノ可決ヲ經サル可ラサルモノアリ英米佛白等ノ如キハ即チ是レナリ或ハ法律ト緊急命令トノ區別ヲ設クルモノアリ普澳ノ如キ即チ是レナリ(普國憲法第六十三條 澳國千八百六十四年十二月廿一日改正憲法第十四條) 佛國千八百十四年ノ欽定憲法中ニモ此區別ヲ設ケタリ(其第十四條)

法律ト緊急命令トノ區別ヲ設ケサル國ニ於テ立法權ハ全ク國會ニ屬スト言フテ可ナリ英吉利ノ如ク白耳義ノ如キハ憲法上ニハ裁可ノ制アリト雖トモ殆ト有名無實ニシテ實際君主ニ於テ國會ニ於テ可決シタル法律案ヲ裁可セサルコ

トナシ故ニ是等ノ國ニ於テ立法權ハ國會ニ屬スト云フモ決シテ不當ノ言ニ非ラサルナリ

法律ト緊急命令トヲ區別スルノ國ニ於テハ緊急命令ナルモノハ國會ノ閉會中不時ノ災厄ヲ避クル爲メ必要ノ場合ニ於テ發スヘキモノニシテ必ス後日ニ至リ國會ノ承諾ヲ要スルモノトス夫レ然リト雖トモ發令ノ日ヨリ其承諾ヲ得ルノ日迄ハ縱シ國會ニ於テ之ヲ否決スルトスルモ法律ノ効力ヲ有スルモノナルカ故ニ或ル場合ニ於テハ法律ヲ變更スルコトヲ得ヘシ集會結社言論等ニ關スル法律ノ如キハ殊ニ其適用多ク既ニ法律ヲ以テ規定シタルモノト雖トモ緊急命令ヲ以テ集會結社言論等ノ自由ヲ非常ニ制限スルハ決シテ無シト云フ可カラス

果シテ然ラハ君主ニシテ緊急命令權ヲ有スルノ國ニ於テ謂フ所ノ立法權ナルモノハ全ク行政立法ノ二權ヲ分立スルノ國ニ於テ云フ所ノ立法權トハ其區域少シク異ナル所アリト言ハサルヘカラサルナリ

是ニ由テ之ヲ見レハ帝國憲法ニ於テ謂フ所ノ立法權ハ君主ニ屬スル命令權中

ノ一部分ニシテ帝國議會カ有スル立法權ナルモノモ亦其一部分ニ參與スルノ權ナリ爾レハ帝國憲法ハ主權ノ實行ヲ規定スルニ當リ權力分立ノ原則ヲ拒絕シタルニハ非スト雖トモ充分ニ之ヲ採用シタリト云フ可ラス

以上陳ヘタル所ヲ以テ諸君ハ我憲法カ規定シタル主權實行ノ大意ヲ了解セラレシナラン仍テ是ヨリ第二章及ヒ第三章ニ於テ立法行政ノ機關并ニ其運轉ノ有様ヲ詳論スヘシ然リト雖トモ第二章立法權ニ論入スルノ前ニ主權者ニ屬スル緊急命令行政命令ノ二權ニ付キ聊カ所見ヲ陳ヘシ

緊急命令

憲法第八條ニ曰ク

天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其災厄ヲ避クル爲メ緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出ス可シ若シ議會ニ於テ承諾セザルトキハ政府ハ將來ニ向テ其効力ヲ失フコトヲ公布ス可シ

先之第一章我憲法ハ如何ナル理由アリテ緊急命令ナル者ヲ設カザル

憲法第四十三條ニ依レハ帝國議會ノ會期ハ通例之ヲ三月トス蓋シ實際ノ有様ヨリ之ヲ論スルトキハ往々三ヶ月ノ會期ヲ延長スルコトアルヘシト雖トモ兎ニ角憲法ノ文面上ヨリ論スルトキハ一年間ノ中ニ九ヶ月ハ閉會ナリ然ルニ此九ヶ月間ニハ如何ナル事變ノ生スヘキヤモ知ル可ラス憲法第八條ニ於テ規定シタル緊急命令ハ即チ其事變ニ應ゼシカ爲メニ設ケタルモノナリ憲法ノ精神ハ夫レ此ノ如シ故ニ實際之ヲ濫用セサル限リハ敢テ批難スヘキ規定ニアラスト雖トモ古來歐米ノ歴史ニ徴スルトキハ往々之ヲ濫用シ國家ノ騷亂ヲ醸シタルコトアリ彼ノ千八百三十年ニ佛王シヤルハ第十世カ位ヨリ墜サレタル如キハ全ク當時ノ憲法第十四條ニ國家ノ安寧ヲ保持スル爲メ必要ノ命令ヲ發スルヲ得ルトノ條文アリシニ據リ不當ノ勅令ヲ發シタルニ因ル緊急勅令ナルモノハ以上陳ヘタル如キ危險アル爲メニ自由政體ヲ實行スルノ君主國ニ於テハ之ヲ設ケス佛國ニ於テハ千八百十四年ノ憲法ハ緊急勅令ヲ制ヲ設ケタリト雖トモ千八百三十年ノ憲法ニハ之ヲ廢止シタリ又現ニ英國ノ如ク白耳義ノ如キ國ニ於テ亦緊急命令ノ制ヲ設ケシ此等ノ國ニ於テハ緊急ノ必要アル場合ニハ政府ニ於

テ相當ノ處分ヲ爲シ後日ニ至リ議院ノ承諾ヲ求ムルノ制ナリ
 緊急命令ニ關シ研究スヘキ要點三アリ第一政府ニ於テ緊急命令ヲ發スルニハ如何ナル條件ヲ要スルカ第三緊急命令ハ如何ナル効力ヲ有スルカ第三帝國議會ニ於テ之ヲ承諾シ又ハ之ヲ承諾セサルトキハ其効果如何是ナリ余ハ是レヨリ逐次此三問題ニ付キ所見ヲ陳ヘント欲ス

第一問 政府ニ於テ緊急命令ヲ發スルニハ如何ナル條件ヲ具備セサル可ラサルカ

緊急命令ニシテ之ヲ發シタル當時ニ有効ナランニハ第一帝國議會ノ閉會中ナルヲ要ス第二公共ノ安全ヲ保持シ又ハ災厄ヲ避ル爲メ緊急ノ必要アルヲ要ス第一條件 緊急命令ヲ發スルニハ帝國議會閉會中ナルヲ要ス余ハ既ニ前段ニ於テ帝國憲法中緊急命令ナルモノヲ設ケタル理由ナリト信シタル所ヲ述ヘタリ其理由トハ議會ハ毎年三ヶ月ヲ以テ定期ト爲ス然ルニ閉會中ニ如何ナル緊急ノ生ス可キヤモ計リ難シ斯ル場合ニ於テハ帝國議會ヲ召集スルノ暇ナキヤモ知ル可ラス爾レハトテ國家急迫ノ場合ニ當リ袖手傍觀スルハ素ヨリ非ナリ故ニ命令

ヲ發シ臨機應變ニ處置ヲ爲サヘル可ク是レ帝國憲法ニ於テ緊急命令ノ設ケ
 アル所以ナリ果シテ然ラハ緊急命令ハ議會閉會中ナルカ故ニ止ムヲ得ス設ケタ
 ルモノナリト云ハサル可ラス是レ即チ憲法第八條ニ帝國議會閉會ノ場合云々
 トアリテ政府ハ議會閉會中ニアラサレハ緊急命令ヲ發スルヲ得サル所以ナリ
 第二條件 政府ニ於テ緊急命令ヲ發セシニハ單ニ帝國議會ノ閉會ノニテハ
 未タ足レリトセス必ス國家急迫ノ事ニアテ公共ノ安全ヲ保持スルノ必要アル
 カ又ハ凶荒癘疫等ノ災害ヲ避ルル必要アルヲ要ス而シテ其緊急ノ必要アル場
 合ト其否ヲサルトハ當局者之ヲ判定スヘキモノナリ

或ル論者ハ緊急命令ヲ以テ規定スヘキ事項ハ行政命令ヲ以テ規定スヘキ事項ニ
 アラサル事ヲ要スト云ヒ恰モ緊急命令ノ一大要件ナルカ如クニ論シタリト雖
 トモ余ハ之ヲ以テ一ノ要件トナスコト必要ナルヲ見ス如何トナレハ我立法者
 ハ未タ如何ナルモノハ法律又ハ緊急命令ヲ以テ規定シ得スト定メタルコトナ
 シ後段ニ於テ詳論スヘキ如ク行政命令ヲ以テ規定スヘキ事項ノ範圍ハ之ヲ制
 限シタリト雖トモ法律及ヒ緊急命令ヲ以テ規定スヘキ事項ニ至ツテハ敢テ之ヲ

制限セス故ニ以上陳ヘタルニケノ要件ヲ具備セハ如何ナル事項ト雖トモ之ヲ
 規定スルヲ得ト云テ可ク且又實際上斯ク解釋スルモ決シテ不都合ナカルヘ
 シ如何トナレハ當局者ハ行政命令ヲ以テ規定シ得ヘキ事項ヲ故ラニ後日帝國
 議會ノ議ニ附セサル可ク又ハ緊急命令ノ如キ面倒ノ手段ヲ取ルノ理ナケレハ
 ナリ故ニ緊急命令ニシテ以上陳ヘタル所ノ二條件ヲ具備セルトキハ有効ノ命
 令ナリト斷定セサル可カラス

第二問 緊急命令ノ効力如何

憲法第八條ニ依レハ緊急命令ハ法律ニ代ルヘキ効力ヲ有スルモノナリ故ニ法
 律ヲ以テ規定シ得ヘキ事項ハ悉ク緊急命令ヲ以テ規定シ得ヘシ是ヲ以テ或ハ
 法律ヲ變更スルコトモアルヘク或ハ法律ヲ廢止スルコトモアルヘシ或ハ又法
 律ヲ以テ未タ規定セサルコトヲ規定スルコトモアルヘキナリ

第三問 帝國議會ニ於テ緊急命令ヲ承諾スルト之ヲ承諾セサルトハ其効果
 如何

緊急命令承諾ノ事ハ憲法第八條第二項ニ於テ規定スル所ニシテ第五條ニ所謂

協賛ナル語ト大同小異ナリ唯少シク其異ル所ハ協賛ハ法律ヲ作ルニ必要ニシテ之ナケレハ法律成立スルヲ得ス承諾ハ之ト異ナリ既ニ政府ニ於テ出シタル有効ノ命令ニ將來ニ効力ヲ與フル爲メノ議會ノ同意ナリ議會ノ議ニ付スル迄ハ既ニ有効ノ命令ニ對シ將來ニ向ツテ其効力ヲ繼續セシメンカタメニ與フル議會ノ同意ナリ

議會カ緊急命令ニ對シ與フル承諾ノ意義ソレ如此シ故ニ議會ニ於テ若シ政府カ提出シタル緊急命令ニ對シ其承諾ヲ與ヘタルトキハ將來ニ向ツテ猶ホ其効力ヲ有スルカ故ニ他ノ法律ト異リ異ル所ナシ唯此場合ニ於テ既ニ公布スルヲ要セスシテ其効力繼續スルモノトス

若シ議會ニ於テ承諾セサルニ於テハ如何憲法第八條第二項ニヨレハ議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ緊急命令ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシトアリ

此項ニ關シテハ種々有疑問アリ

第一 議會ニ於テ之ヲ承諾セサルニハ一定ノ理由アリ

解ニヨレハ恰モ其理由ヲ要スルカ如クニ見ユレトモ決シテ然ラス承諾スルト承諾セサルトハ議會ノ權内ニアルコトニシテ其理由ノ是非ヲ判定スルモ亦議會ノ專斷ニアリ故ニ其理由ヲ如何ニ拘ハラス之ヲ拒否スルヲ得而シテ此場合ニ於テハ政府ハ緊急命令ノ効力ヲ失フコトヲ公布セサル可ラス

第二 議會ニ於テハ命令ノ一部分ヲ承諾シ一部分ヲ拒ミ能フヘキヤ曰ク否ナ如何トナレハ本條ハ單ニ承諾スルト承諾セサルトヲ云テ修正ノ事ヲ云ハサレハナリ

第三 議會ニ於テ緊急命令ヲ承諾セサルトキ政府若シ其効力ヲ失フコトヲ公布セサルカ又ハ政府次ノ會期ニ於テ緊急命令ヲ議會ニ提出セサルトキハ如何緊急命令ヲ發シタルトキハ政府ニ於テハ必ス其次ノ會期ノ議會ニ之ヲ提出シ議會ノ承諾ヲ得サル可ラスト規定シアルコトナレハ政府ニ於テ緊急命令ヲ發シタル節ハ通例議會ニ提出シ其承諾ヲ請求スルナルヘシ然レモ若シ之ヲ提出セサル節ハ其勅令ノ効力ハ如何

伊藤伯ハ其憲法義解ニ於テ政府ハ此場合ニ於テハ憲法違反ノ責ヲ負フヘキナ

リト説カレタリト雖モ甚タ漠然タル解ナリト云ハサル可ラス如何トナレハ其命令ハ將來ニ向ヒ有効ナルヤ將タ無効ナルヤノ一點ニ付テハ毫モ其意ノアル所ヲ知ルニ由ナケレハナリ如此處分ハ憲法ノ條文ニ背キタルモノナルカ故ニ憲法違反ニ相違ナシト雖トモ政府ニ於テ發シタル命令其物ハ果シテ有効ナルヤ否ヤ

緊急命令ヲ次ノ議會ニ提出セサルコトハ憲法違反ノ處爲ナルヲ以テ命令其物ニ至ルマテ無効ニ歸スト論スヘキ者モアルヘシト雖トモ余ハ未タ俄カニ斯クノ如ク斷定スルヲ得サルナリ

政府ニ於テ背憲ノ行爲アルトキハ其背憲ノ責ヲ負フヘキヤ無論ナリト雖トモ行爲其物ノ有効ナルヤ否ヤハ是レ亦一ノ別問題ナリト信ス政府ニ於テ發シタル命令ハ議會ニ於テ之ヲ拒絕スル迄ハ假リニ有効ノモノト看做サ、ル可ラス是レ余カ前段ニ於テ既ニ陳ハタル所ナリ果シテ然ラハ政府ニ於テ之ヲ議會ニ提出セサル間ハ議會ニ之ヲ拒絕シタリト云フヲ得ス議會ニ於テ之ヲ拒絕セサル間ハ勢ヒ有効ナリト云ハサル可ラサルナリ

然ラハ議會ハ自ラ命令承諾案ヲ提出シ之ヲ議決スルヲ得ヘキカ曰ク否ナ議會ハ政府ノ動作ヲ俟テ初テ其意見ヲ發表スルヲ得ルノミ是レ憲法第八條ノ文面及ヒ其精神ヨリ論シ争フ可ラサルノ論點ナリト信スルナリ是ニ因テ之ヲ見レハ政府ニ於テ緊急命令ヲ議會ニ提出セサルトキハ其命令ハ止ヲ得ス有効ナリト斷定セサル可ラサルナリ

帝國議會ニ於テ政府カ提出シタル命令ヲ承諾セサルトキ政府若シ將來ニ向ツテ其効力ヲ失フコトヲ公布セサル場合ニ於テハ如何

此場合ニ於テハ前段ノ場合トハ尙ホ一層困難ナリト雖トモ其命令ハ均シク將來ニ向ツテ効力ヲ有スルモノナリト云ハサル可ラス如何トナレハ緊急命令カ將來ニ向ツテ其効力ヲ失フニハ二個ノ條件アルヲ要スレハナリ第一議會ニ於テ政府ヨリ提出ノ命令ヲ否決スルコト第二政府ニ於テ命令ノ將來ニ向ヒ効力ヲ失フヲ公布スルコト即チ是ナリ若シ本條ノ精神ニシテ議會ノ不承諾ノミヲ以テ將來ニ向テ命令ノ効力ヲ失ハシメ得ルモノトセハ宜シク政府ハ公布スレハシト云ハスシテ若シ議會ニ於テ承諾セサルトキハ將來ニ向テ其効力ヲ失フト

云フニキチリ然ルニ其之ヲ云エ茲ヲ公布ス。ト云フ以上ハ之ヲ以テ命令ノ將來ニ待テ其効力ヲ失フニ要素ナリト云ハサル可ラザルナリ。諸君ヨ憲法第八條ノ意義果シテ余ガ解説シタル如クナリセハ甚ク危險ノ條文ナリト云ハサル可ラサルナリ如何トナレハ此條文アルガ爲メニ政府ハ緊急命令名ヲ以テ如何ナル命令ト雖トモ殆シト之ヲ發シ得サルモノナゲレハナリ我憲法ノ起案者カ本條ヲ規定スルニ當リ果シテ余ガ上來論シタル如キ結果ノ生スベキヲ慮カリシヤ否ハ余之ヲ斷言シ得スト雖トモ若シ眞ニ伊藤伯ガ云ハル、如ク帝國議會ヲシテ此特權ノ監督者ヲシテ欲スルノ意ナリトセハ尙ホ少シク被治者ニ安全ヲ與テルハ明文ヲ望マシク思フナリ。緊急命令ニ關シ一言スルモ猶ホ一點アリ憲法第八條第二項ニ帝國議會ノ承諾ヲ得ルハ次ノ會期ト云ルハ強チ次ノ定期ハ會期ト云ル意味ニテラス臨時會ヲ開キ議會ヲ承諾ヲ請フモ決シテ不可ナキナリ。行政命令ニ關シ其文ニ曰ク

行政命令

天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發シ得ル命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得不。蓋シ憲法政治ノ行ハルニ國ニ於テ何レモ法律ト行政命令トヲ區別ス然レトモ外國ニ於テ所謂行政命令ナルモノハ其範圍甚ク狹隘ナルモノニシテ必ス法律ノ範圍内ニ於テ活動セサル可ラザルナリ。帝國憲法ニ於テ規定スル行政命令一見スレハ外國ニ於ケルト毫モ異ナル所ナキカ如シト雖トモ深ク憲法第九條ヲ吟味スルトキハ其實大ニ異ナル所アリ若シ同條ニ於テ天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ必要ナル命令ヲ發ス云々トノミアレハ毫モ外國ノ行政命令ト異ナル所ナカルヘント雖トモ同條ノ規定スル所ハ單ニ此一點ニ止マラス亦公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ得ルモノト爲シテ即チ大ニ外國ノ法ト異ナル所ナリ然レハ憲法第九條ニ於テ規定スル行政命令ノ事ヲ論究スルニ當リテハ宜シク此二點ヲ區別シテ論スルヲ要ス

第一 法律ヲ執行スル爲メニ必要ナル命令
 法律ヲ執行スル爲メニ必要ナル命令ヲ發スルノ權ハ何レノ國ト雖トモ之ヲ行政部ノ首長ニ歸スルモノトス君主國ニアリテハ君主此權ヲ有シ共和國ニアリテハ大統領之ヲ有ス其然ル所以ノモノハ蓋シ法律ノ執行上ニ關スル細密ノ點ニ至ルマテ法律ヲ以テ規定スルハ實際行ヒ難キ事ニシテ且又之ヲ行政官ニ委ヌルモ決シテ不可ナキカ爲メナリ加之ナラス行政官ノ本務ハ法律ヲ執行スルニアルカ故ニ其執行ニ關スル規定ヲ制定スルノ點ニ於テハ實際實務ニ通曉セル行政部ノ官吏却テ立法部ノ議員ニ優ルコトアルハ蓋シ掩フ可ラサル事實ナリ故ニ我憲法ニ於テモ行政命令權ヲ君主ニ放任シタルハ其當ヲ得タルモノト云ハサル可ラス

右ニ陳ヘタル如ク行政命令ナルモノハ立法ノ一部分ナルカ故ニ歐米諸國中立法權ト行政權トヲ分別スルノ國ニ於テハ行政命令權ヲ行政部ノ首長ニ委任スルト云フ佛國白國ノ如キハ即チ是レナリ又普國ノ如キ君主國ニ於テハ別段委任スルト云フニハアラスト雖トモ行政命令ノ區域ヲ以テ專ラ法律ヲ執行スルニ

止メタリ

第二 公共ノ安寧秩序ヲ保持シ臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メニ必要ナル命令
 公共ノ安寧秩序ヲ保持シ臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メニ必要ナル命令トハ抑モ如何ナルモノゾヤ余ハ確然タル解釋ヲ下スニ甚ク困ムモノナリ如何トナレハ其意義甚ク漠然トシテ根據トナスヘキ標準ナケレハナリ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルヲ得スト規定シアルヲ以テ臣民ノ權利義務ノ如キ税率ノ如キ裁判所構成法ノ如キ其他種々既ニ法律ヲ以テ規定シタル事項等憲法上法律ヲ以テ規定スヘキ事項ニ至リテハ無論命令ヲ以テ規定スヘキ限ニアラスト雖トモ法律ヲ以テ未タ規定セサル事項ニシテ憲法中法律ヲ以テ規定スヘキモノト確定セサル事項ハ悉ク行政命令ヲ以テ規定シ得ヘシ如何トナレハ公共ノ安寧秩序ヲ保持スルニ必要ナルト否ラサルトヲ判定シ又臣民ノ幸福ヲ増進スルニ足ルト否ラサルトヲ辨別スルハ全ク政府ノ意中ニアレハナリ(例ヘハ豫戒令)

憲法第九條第二種ノ命令ヲ庇保スル者ノ說ヲ聞クニ所謂行政ハ固ヨリ法律ノ條則ヲ執行スルニ止マラス如何トナレハ法律ハ普通準繩ノ爲メニ大則ヲ定ム

ルノ能力アリテ而シテ萬殊事々ノ活動ニ對シ逐一ニ其權宜ヲ指示スルコト能ハサルハ宛モ一個人ノ心志ハ以テ行動ノ方嚮ヲ指導スヘシト雖トモ變化究リナキノ事緒ニ順應シテ其機宜ヲ愆ラサルハ又必ス臨時ノ思慮ヲ要スルカ如シ若シ行政ニシテ法律ヲ執行スルノ領域ニ止マラシメハ國家ハ法律ノ贖潤ナル地ニ於テハ其當然ノ職ヲ盡スニ由ナカラムトス故ニ命令ハ獨リ執行ノ作用ニ止マラスシテ又時宜ノ必要ニ應シ其固有ノ意思ヲ發動スルコトアル者ナリ云々(憲法義解十八頁)

右ハ伊藤伯カ其憲法義解ニ於テ本條ヲ庇保センカ爲メニ主張サレシ論ナリト雖トモ余ハ此論ニ服スル能ハサルナリ如何トナレハ余ノ見ル所ヲ以テスレハ本條ノ如キハ其害其利ヨリモ多ク且ツ之ヲ設クルノ必要ヲ見サレハナリ伊藤伯立論ノ最も重要ノ點ハ蓋シテ行政ニシテ法律ヲ執行スルノ領域ニ止マラシメハ國家ハ法律贖潤ナル地ニ於テ其當然ノ職ヲ盡スニ由ナカラレトス云フニアリ論者ノ意ニシテ若シ行政官タルモノハ宜シク社會萬般ノ事變ニ應シ臨機ノ策ヲ施スル權ナカル可ラスト云フニアレハ余ハ敢テ異議ナキナリ然リト雖トモ

憲法第九條ニ規定スル所ハ一種ノ立法權ヲ政府ニ與フルモノニシテ憲法ヲ以テ制限セラレサル限リハ法律同様ノ效果ヲ有スル命令ヲ發スルハ權ヲ與フルモノナリ故ニ政府ニ於テハ公共ノ安寧秩序ニ關スルモノト認メ憲法ヲ以テ制限セサルモノナレハ隨意ニ命令ヲ發シ得ルモノナリ而シテ此命令ニ關シテハ被治者ハ毫モ喙ヲ容ルヽヲ得ス唯命之レ從フノ義務アルノミ果シテ然ラハ被治者ノ位地甚々不安ナリト云バサル可ラサルナリ是レ余カ本條ノ末項ハ有害無益ト信スル所以ナリ

余ハ第二ニ憲法第九條ニ於テ規定シタル如キ安寧保護ニ關スル命令ヲ發スルノ權ヲ政府ニ與フルノ必要ナシト信スルナリ如何トナレハ若シ命令ヲ以テ規定スヘキ事項ニシテ緊急ノ必要アラハ憲法第八條ヲ以テ足ルヘク若シ緊急ノ必要アラサレハ法律ヲ以テ制定シテ可ナレハナリ之ヲ要スルニ憲法第九條ニ規定スル命令權ハ帝國議會ノ監督ヲ被ラサルモノナルヲ以テ被治者ニ安全ヲ與フルモノト云フ可ラヌ以上陳ヘタル行政命令ナルモノハ前段ニ於テ既ニ論シタルカ如ク第一法律ヲ

變更スルヲ得ス第二法律ヲ以テ規定スヘキ事項ハ之ヲ制定スルヲ得ス
 若シ行政命令ニシテ或ハ法律ヲ變更シ或ハ法律ヲ以テ規定スヘキ事項ヲ規定
 シタル場合ニ於テハ其命令ハ憲法ニ背反スルモノナルカ故ニ第一政府ハ背憲
 ノ責ヲ負ハサル可ラス此點ハ國務大臣ノ責任ヲ説クニ至リ詳論スル所アルヘ
 シ第二如此命令ハ無効ナリト云ハサル可ラス然リト雖トモ其果シテ有効ナル
 ヤ無効ナルヤヲ判定スルノ權ハ誰レニアルヤハ是レ憲法全体ニ關スルノ問題
 ナル故ニ後段憲法ノ制裁ヲ説クニ至リ詳論スヘシ
 尙ホ第九條ニ發シ又ハ發セシムトアリ所謂發セシムトハ是レ閣令省令府縣令
 若クハ警察令等總テ主權者ノ命令ヲ受ケテ發布スルノ權カアル者ヲシテ之ヲ
 發セシムルノ謂ヒナリ

第二章 立法權

諸君曰余ハ前章ニ於テ主權ノ實行ヲ論スルニ當リ主權人一分子ナル立法權ハ
 君主帝國議會ト二者相合シテ之ヲ實行スルモノ大抵ト云ヘリ即チ本章ニ

立法權

於テハ此二者如何シテ之ヲ實行スルヤヲ論セントス

帝國憲法第五條及ヒ第六條ノ兩條ニ依レハ立法ニ關シ帝國議會ノ有スル權利
 ハ法律案ヲ議決スルニ在リ君主ノ有シ給フ權利ハ帝國議會ノ議決シタル法律
 案ヲ裁可セラレ之ニ法律タルノ効力ヲ與フルニ在リ此二點ニ付テハ上來數バ
 論述シタル所ナレハ復タ茲ニ之ヲ贅セス而シテ帝國議會ノ組織及ヒ其權限等
 ハ憲法第三章ニ於テ之ヲ規定セリ今其大要ヲ述フレハ帝國議會ハ貴族院ト衆
 議院トノ兩院ヲ以テ成立シ而シテ其權限中最モ重要ナルモノハ法律案及ヒ歲
 出入豫算案ヲ議決スルニ在リ此他尙ホ帝國議會ノ權限ニ屬スルモノ數種アレ
 トモ是レ唯瑣事ノミ抑モ亦枝葉ノミ

今ヤ本論ニ入ルニ先タ茲ニ余ハ諸君ト共ニ研究スヘキ憲法學上立法權ニ關
 スル一大問題アリ何ソヤ曰ク議會ハ一局院ヲ可トスルヤ將タ二局院ヲ可トス
 ルヤ如何即チ是ナリ請フ試ミニ之ヲ論セン
 現今歐米諸國ニ行ハレツ、ア、憲法ヲ案スルニ其一二ヲ除クノ外舉テ二局議
 院制ヲ採用セサルハナシ余カ今記憶スル所ニ依レハ一局議院制ヲ採用セルハ

一局議院
 二局議院
 ノ可否

唯セルピヤノ一小王國アルノミ此他亞米利加及ヒ澳太利ノ小邦中一二ノ國ハ
 尙ホ一局議院制ヲ用ユト雖トモ苟モ一國ヲ以テ目スヘキ邦國ニ於テハ一局院
 制ヲ用ユルモノ殆ント之ナシト云フモ敢テ過言ニアラサルナリ
 然リト雖トモ一局議院ノ制度タル一時熾シニ行ハレタルコトアリ佛國ニ於テ
 ハ千七百九十一年及ヒ千八百四十八年ノ憲法ニテ之ヲ採用シ又北米中ウエル
 モント州ニ於テハ千八百三十六年ニ至ルマテペンシルバニア州ニ於テハ千
 八百三十八年ニ至ルマテ又墨西哥國ニ於テハ千八百七十四年ニ至ルマテポリ
 ビヤニ於テハ千八百七十八年ニ至ルマテ又埃及國ニ於テハ千八百七十三年ニ
 至ルマテ孰レモ一局議院ノ制度ヲ用ヒタリ
 斯ノ如ク一局議院制ノ一時熾シニ行ハレタルニモ拘ハラズ現今ニ在テハ實ニ
 寥々晨星モ僅ナラス既ニ各國ノ實驗上之ヲ廢棄シ以テ二局議院制ヲ採用セル
 今日ニ至テ其可否ヲ論究スルハ宛モ死兒ノ年齡ヲ算フルカ似クナレトモ我邦
 尙ホ喋々論難ヲ試ムル者アリ理論上茲ニ其大要ヲ論究スルハ亦敢テ無益ノ業
 ニ非サルヘシ

蓋シ各國ノ國體如何ニ由テ上下兩院ノ組織ノ如キモ固ヨリ同一ナラス看ヨ彼
 ノ北米合衆國ノ如キハ聯邦體ノ國ナリ故ニ上院ハ各獨立國ナル聯邦ノ各自ヲ
 代表シ下院ハ米國人民ノ全體ヲ代表スルカ如ク又英吉利及ヒ普魯西ノ如キハ
 上院ハ一種特別ノ種族ヲ代表シ下院ハ國民ヲ代表スルカ如ク又佛蘭西及ヒ白
 耳義ノ如キハ上下兩院共ニ國民ヲ代表スルカ如キ是ナリ
 又各國ノ歴史上止ムヘカラサル必要ヨリシテ上下兩院ノ制度ヲ用ヒタル國ニ
 付テハ固ヨリ其可否ヲ論究スルノ要ナカルヘシ何トナレハ彼レ兩院ヲ設クル
 ニ至リタルハ勢ノ然ラシムル所亦奈何トモ爲スヘカラサルニ出ツレハナリ例
 ヘハ北米合衆國ノ如キハ聯邦各自ト國民ノ全體トヲ代表セシムルノ必要アル
 ニ由レリ又英國ノ如キ上院ハ純然タル貴族院ニシテ是レ亦歷史上ノ必要ヨリ
 起レリ曾テ英國ニ於テハ王家ノ權力ニ抵抗シ以テ人民ノ權利ヲ伸暢シタルハ
 實ニ貴族ノ力ナルカ故ニ代議政體ヲ行フニ當テモ亦人民ヲ保護センカ爲メニ
 貴族ヲ代表スル所ノ上院ヲ設クルハ勢ヒノ然ラシムル所ナルヘシ然レトモ今
 日ニ在テハ既ニ上院組織ノ改良ヲ論議スル者アリ現ニ上院議員中ニモ其人ア

リ有名ナル改進黨ロールド、ローズベリトノ如キ即チ是ナリ
 斯ノ如ク國體上又ハ歴史上ヨリシテ二局議院ヲ要スル國ニ在テハ固ヨリ其是
 非得失ヲ論究スルノ要ナシト雖トモ上下兩院共ニ國民ノ全體ヲ代表スルモノ
 ト看倣ス國ノ如キ又殊ニ一種族ヲ代表セシムルノ必要ナク議會ヲ以テ單一
 個ノ政務機關ト爲ス國ノ如キニ至テハ須ラク之ヲ論究セサルヘカラス
 余ハ信ス佛國ノ如ク上下兩院ヲ以テ共ニ國民ヲ代表スルモノハナリト爲ス國ニ
 在テモ又我邦ノ如ク主權全ク天皇ニ存シ議會ハ單一ノ政務機關ニ過キス
 ト爲ス國ニ在テモ等シク二局議院制ヲ採用スルヲ以テ可ナリト請フ左ニ其理
 由ヲ辯セン

主權國民ニ在リトスル國ニ於テ一局議院說ヲ主張スル論者ノ言ヲ聞クニ乃チ
 曰ク凡ソ法律ハ本來人民一般ノ意思ヲ表彰スルモノナリ而シテ人民ノ意思ハ
 必スヤ一ニシテ決シテ二アルヘキノ理ナク隨テ其之ヲ發表スル所ノ議院モ亦
 一局ナラサルヘカラスト此說タル佛國ニ於テ千七百八十九年ノ大革命ノ時ニ
 際シ其名ヲ藏カセタル彼ノシエース氏ノ大聲疾呼セシ所ニシテ嘗ニ其革命ニ

一大勢力ヲ與ヘタルノミニ止マラス其後ニ至テモ尙ホ大ニ勢力ヲ有シ千八百
 四十八年ノ憲法ノ如キ乃チ此說ヲ採用シタルモノナリ
 然リト雖トモ此說タル固ヨリ取ルニ足ラサルナリ今假リニシエース氏ノ言ニ
 從ヒ法律ハ乃チ國民ノ意思ナリトスルモ而モ議院二局ナルヲ以テ國民ノ意思
 亦二ナリト云フヲ得ヘキカ試ミニ茲ニ一ノ法律案アリト假想セヨ之ヲ議院ニ
 於テ可決セサル間ハ未タ以テ法律ト爲ス可カラス一ノ法律案ニ過キサルナリ
 而シテ其法律案ニシテ法律トナルニハ實ニ議院ノ之ヲ可決シタル後ニ在リ然
 ラハ則チ法律案ヲ一局院ニ於テ議決スルモ將タ二局院ニ於テ議決スルモ共ニ
 之カ討議中ニ在テハ未タ一草案タルノミ之ヲ目シテ直チニ法律タリ國民ノ意
 思ナリト謂フヘカラス而シテ議院ニ於テ既ニ之ヲ可決センカ是レ乃チ法律タ
 リ既ニ法律タランカ是レ乃チ國民ノ意思ナリ何ソ必スシモ二局院ヲ經タルト
 一局院ニ止マルトヲ問フヲ要センヤ其成立ノ後ハ唯一ノ法律タルノミ國民ノ
 意思亦唯一ナルノミ知ルヘシ法律ハ國民ノ意思ナリトスルモ議院二局ノ爲メ
 ニ國民ノ意思亦二アリト言フノ不當ナルヲ

右ハ假リニ法律ハ國民ノ意思ナリ國民ノ意思ハ唯一ナリト言ヘルシエース氏ノ說ニ一步ヲ譲リテ之ヲ辯駁セリト雖トモ其所謂法律ハ國民ノ意思ナリ國民ノ意思ハ唯一ナリトノ立論亦毫モ價值ナキモノナリ思フニ此說タル國民ト國會トヲ以テ全ク同一ナリト信シタルニ職由スルナラン果シテ然ラハ是レ實ニ迷想ノ太甚シキモノト評セサルヲ得ス寔ニ國會ハ國民ヲ代表セルモノタルヤ必セリ然レトモ亦決シテ同一視スヘカラサルナリ請フ試ニ其證ヲ舉ケ更ニ之ヲ辯駁セシ

今ソレ國民カ國會議員ヲ撰擧スルニ當リ被撰擧者タル議員ト撰擧者タル國民トハ全ク同一ノ意思ヲ有シタリト假定スルモ數年ノ間或ハ國民ノ意思變スルヤ保スヘカラス又縱令ヒ國民ノ意思ハ毫モ變セストスルモ或ハ其代表者タル議員ノ意思變スルヤ亦保スヘカラス若シ孰レカ其意思ヲ變センカ既ニ國民ト國會トハ同一ノ意思ヲ有セサルナリ果シテ斯人如クシハ縱シヤ一局議院タルモ議員ノ意思ハ乃チ國民ノ意思ナリト斷言スル能ハス况ンヤ彼我全ク相反スルヤモ亦未タ知ルヘカラサルニ於テチヤ

又反對論者ニ數步ヲ譲リ議員ノ在職中ハ撰擧者タル國民ノ意思毫モ變セスト假定スルモ其撰擧ノ當時總テノ點ニ關シ全ク同說ヲ把持セリトハ信スル能ハサルヘシ或ハ當時既ニ起リタル重要ナル問題或ハ當時豫想シ得ヘキ重要ナル問題ニ付テハ彼我協議シ以テ其意ヲ同フシタルヤ知ルヘカラスト雖トモ數年ノ久シキ其間如何ナル問題ノ提出セラル、ヤ得テ知ルヘカラス此等ノ問題ニ至ルマテ尙ホ其意ヲ同フシタリトハ彼レ強硬ナル反對論者ト雖トモ恐ラクハ然リト答フルヲ肯ンセサルヘシ

被撰擧者タル議員ト撰擧者タル國民トノ間何事ニ付テモ徹頭徹尾同一ノ意思ヲ有スルモノナリト云フヲ得サルヤ其レ斯クノ如シ而シテ此言タル敢テ余一己ノ空想ニ出テタルニアラス諸君モ夙ニ知ラル、ナラン瑞西國ニ於テ「レフエラントム」(Referendum)ナル制度ノ行ハレタルヲ蓋シ此制度タル或ル重要ナル法律ニ關シテハ國會ノ議決ヲ經タル後之ヲ公布スル前ニ於テ國民ニ向ヒ直接ニ其可否ヲ諮問スルニ在リ然ルニ數次此方法ヲ用ヒタルニ國會ニ於テ現ニ可決シタル法律案ヲモ往々國民ノ否決スル所ト爲レリ是レ國會ト國民トハ必ス

シモ同一ノ意思ヲ把持セサル所以ニシテ此制度ノ實驗ハ以テ自ラ余カ言ノ誤
 リナキヲ證明スルニ足ルヘシ
 既ニ國會ト國民ノ意思トハ常ニ相符合スルモノニ非ストセンカ國會ハ必スシ
 モ一局院ナラサルヘカラストノ說其當ヲ得サルヤ必セリ
 以上ハ主權國民ニ在リ國會ハ乃チ主權者ヲ代表スルモノナリト爲ス國ニ付テ
 一局議院ノ不可ナル所以ヲ辯駁シタルナリ以下更ニ我帝國ニ於ケルカ如ク國
 會ヲ以テ單一ノ政務機關ニ過キスト爲ス國ニ付テ尙ホ一局議院ノ不可ナル
 所以ヲ辯駁セン

國會ヲ以テ單一ノ政務機關ニ過キスト爲ス國ニ於テ一局議院說ヲ主張スル
 論者ノ言ニ曰ク議院二局ヲ設クルハ不用ニシテ且ツ却テ弊害アリト
 何故ニ不用ナルカ彼レ曰ク若シ議院二局アリテ其說各同一ナルトキハ法律ヲ
 制定スルニ方リ徒々手數ヲ繁雜ナラシムルノミニシテ決シテ之カ必要アルヲ
 見スト實ニ論者ノ謂ヘルカ如ク兩議院ノ說ニシテ徹頭徹尾何事ニ付テモ同一ナ
 ルニ於テハ議院二局ヲ設クルノ必要ナカルヘシ然リト雖トモ今日ニ至ルマテ

二局議院ノ行ハルハ諸國ノ實例ニ徵シテ之ヲ見ルニ上下兩院ノ說徹頭徹尾同
 一ナリシコト決シテ無ク即チ下院ニ於テ可決シタル法律案ニテモ上院ニ於テ
 或ハ否決シ或ハ大ニ修正増補スルコトアリ是ヲ以テ二局議院ハ法律ヲ制定ス
 ルニ方リ徒々手數ヲ繁雜ナラシムルモノナリトノ說ハ到底是認スルコト能
 ハサルナリ

又何故ニ議院二局ヲ設クルハ國家ノ爲メニ有害ナルカ彼レ曰ク若シ上下兩院
 ノ議決ニシテ相符合セサルトキハ法律ヲ制定スルニ方リ非常ナル滯滯ヲ來タ
 スヘク其甚シキニ至テハ竟ニ法律ヲ制定スルコト能ハサルカ如キ結果ヲ見ル
 ニ至ルヘシ故ニ議院二局ヲ設クルハ甚々不可ナリト論者カ所謂二局議院ノ弊
 害ハ果シテ眞ノ弊害ト認ムヘキモノナルカ其滯滯トハ果シテ眞ニ憂フヘキモ
 ノナルカ余ハ以テ然ラスト信ス蓋シ上下兩院ノ圓滑ナラサルハ或ハ其組織ノ
 相異ナルヨリシテ生スルコトアリ例ヘハ下院ニテハ撰擧權ノ最モ廣キ撰擧人
 カ撰出セル所ノ議員ニ由テ成立シ上院ニテハ守舊ノ說ヲ抱持スル議員ヲ以テ
 組織スル等ニ因リ常ニ上下兩院ノ間ニ軋轢ヲ生スル事アルヘキヤモ知ルヘカ

此の如きハ上下兩院アルニ因リ始メテ然ルニアラス是レ唯上下
 兩院ノ組織其宜シキヲ得サルカ爲メノミ若シツレ上下兩院ノ組織其宜シキヲ
 得テ尙ホ然ランカ此時ニ在テハ必スヤ他ニ其議決ノ相符合スヘカラサル理由
 アリテ存セシ是レ多クハ其法律ヲ制定スルノ時期未タ到來セサルモノナルヘ
 シ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ法律ヲ制定スルノ時期未タ達セヌ又熟セサルモ
 ノト看做シテ可ナリ且ツヤ一ノ法律案ニシテ眞ニ國家ノ爲メニ緊要欠クヘカ
 ラサルモノナランカ恐ラクハ上下兩院ヲ通過セサルコト之ナカルヘキナリ
 又反對論者ニ一步ヲ譲リ此ノ如キ場合ニ在テモ尙ホ上下兩院ノ意見相符合セ
 サルコトアリト假定スルモ亦之ヲ調停スルノ途サキニアラス若シ其法律案ニ
 シテ必スシモ之ヲ制定セサルヘカラサルノ要アランカ左ノ二箇ノ方法ニ由テ
 之ヲ制定スルコトヲ得ヘシ

其一 上下兩院ノ協議會ヲ開キ以テ其多數說ニ從フニシテ規則ヲ設ク
 又ハ上下兩院ヨリ各若干名ノ委員ヲ撰出シ其委員ニ全權ヲ與ヘ以テ其議決
 ニ從フヘントノ規則ヲ設クルニ於テハ乃チ兩院ヲ一致ヲ見ルヘキナリ

其二 下院ヲ解散シ以テ上下兩院ノ意見相符合セサル所ノ問題ニ付キ國民ノ
 意見ヲ問フヘシ即チ解散セラレタル議員ト同說ヲ抱持セル者再ヒ議員ニ撰
 舉セラレタルトキハ其議員ノ說ニ從フヘントノ規則ヲ設クルモ可ナリ
 右二箇ノ方法ニ依リ上下兩院ノ不和ヲ解クコトヲ得ヘシ然レトモ此ノ如キ極
 端ノ方法ヲ用井サルモ十中ノ八九ハ協議ノ相調フモノナリ又今日ニ至ルマテ
 各國ニ行ハルノ所ノ實例ニ徴スレハ上下兩院ノ不和ニシテ全ク解ケサリシコ
 トハ甚タ罕ナリ即チ伊太利ニ於テ刑法ノ改正ニ付キ下院ニ於テ可決シタル草
 案ヲ二十五年間上院へ提出スル毎ニ否決セラレタルカ如キ實例アレトモ此ノ
 如キハ甚タ稀レナリ且又此法律案ト雖トモ其後遂ニ上院ヲモ通過シ法律ト成
 ルヲ得タリ

以上述フルカ如ク一局議院說ヲ主唱スル論者カ所謂二局議院ノ弊害トスル所
 ハ十分ノ根據ナキモノト謂ハサルヲ得ヌ之ニ反シテ余若シ論者ノ說ニ從ヒ議
 院一局ナルトキハ却テ重大ナル二个ノ弊害アリ即チ左ノ如シ
 其一 法律ノ制定甚カ不完全ナルニ至ルコト是ナリ反對論者ハ此弊害ヲ防カ

ンカ爲メニハ數讀會ノ方法ヲ以テ足レリ即チ一讀會、二讀會、三讀會等數次ニ於テ討議スルトキハ十分ニ法律案ヲ査定スルコトヲ得ヘシト主張スルモ一局議院ニ於テ同一ノ法律案ニ付キ數回討議スルモ以テ十分ニ其欠點ヲ發見スル能ハサルコト猶ホ宛モ一人カ自己ノ意見ヲ再思三考スルモ未タ以テ欠點アルヲ發見シ能ハサルカ如シ又一ノ法律案ヲ他ヨリ見ルトキハ往々欠點アルモ議院ニ於テハ更ニ之ヲ欠點ト做サ、ルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テ議院一局ナルトキハ甚タ不完全ナル法律案ヲモ其欠點ヲ補充スルコトナクシテ遂ニ通過セシムルノ恐アレトモ若シ議院二局ナルトキハ即チ此弊害ヲ防クコトヲ得ヘキナリ

其二、權力分立ノ原則ヲ實行スルニ甚タ困難ナルコト、是ナリ余ノ既ニ述ヘタル如ク凡ソ一國內ニ於テ十分ニ自由制度ヲ實行センニハ必スヤ權力分立ノ原則ヲ遵守シ以テ立法行政ノ二大權互ニ相侵犯セサルヲ要ス若シコレ立法部ニシテ行政部ヲ侵害シ或ハ行政部ニシテ立法部ヲ侵害スルカ如キコトアラシカ其極竟ニ專制政治ニ陥ルハ勢ヒ免ルヘカラサル所ナリ然ルニ一局議

院ノ制度ヲ採ルトキハ立法部ト行政部トノ間ニ衝突ヲ來シ或ハ立法部勝ヲ制シテ行政部ヲ壓シ或ハ行政部勝ヲ制シテ立法部ヲ壓スルニ至ルコト歐米ノ歴史ニ徴シテ明カナリ現ニ佛國ニ於テ一局議院ノ制度ヲ用井タルコト二回アリタリ即チ千七百九十二年及ヒ千八百四十九年是ナリ千七百九十二年ニハ立法部勝ヲ制シテ行政部ヲ蹂躪スルニ至リ又千八百四十九年ニハ行政部勝ヲ制シテ立法部ヲ抑壓スルニ至レリ而シテ其結果ハ何人カ先ツ迷惑ヲ蒙ムルカ是レ實ニ人民ナリ要スルニ立法部勝ヲ制スルモ又行政部勝ヲ制スルモ孰レモ等シク無限ノ權力者ヲ生スルモノナレハ勢ヒ壓制政治ヲ行フニ至ルハ復タ多辯ヲ俟タスシテ知ルヘキナリ

斯ノ如ク一局議院ナルトキハ却テ弊害アリ然ルニ若シ人民ヨリ直接ニ選舉セラレタル所ノ議院ト行政部トノ間ニ尙ホ一ノ議院アルトキハ其民撰ニ成リタル議院ト行政部トノ間直接ニ衝突ヲ來タスコト薄ラキ即チ行政部若シ己レノ權力ヲ張ラント欲スルトキハ上院ハ下院ト一致シテ之ヲ抑ヘ又下院若シ其權力ヲ恣マニセントスルトキハ上院ハ行政部ヲ扶ケテ之ニ當ラン故ヲ以テ上院

ハ或ハ行政部ノ專横ヲ防キ或ハ下院ノ擅恣ヲ止メ各政務機關ヲシテ能ク其權
 衡ヲ保持スルコトヲ得セシムルモノナリ
 論者或ハ曰ハシ上院ハ常ニ行政部ヲ扶ケテ國民ヲ代表スル所ノ下院ヲ抑制セ
 シトスルノ傾向アリト寔ニ然リ古來ノ歴史ニ徵スレハ或ハ此ノ如キ事實全ク
 之ナキニアラス然レトモ是レ上院アルカ故ニ然ルニアラス唯上院ヲシテ行政
 部ヲ扶助セシムルカ如ク組織スルカ爲メノミ約言スレハ上院ノ組織其當ヲ得
 サルニ基因ス故ニ若シ上院ノ組織ニシテ其宜シキヲ得タランニハ決シテ此ノ
 如キ弊害アルコトナシ
 上來述フルカ如ク學理上ヨリ論スルモ又各國ノ經驗上ヨリ論スルモ孰レモ一
 局議院ノ弊害多クシテ二局議院ノ利益多キコト以テ知ルベキノミ然レトモ二
 局議院ノ制度ヲ採リ其利益ヲ十分ニ生シメンニハ須ラク各院ノ組織ニ注意
 セサルヘカラス我帝國憲法ニ於テハ前既ニ一言セシカ如ク二局議院ノ制度ヲ
 用非タリ而シテ各議院ノ組織果シテ其當ヲ得タリヤ否ヤ是レ大ニ論議スヘキ
 モソアリ此點ニ付テハ帝國議會ノ組織ヲ説クニ方リテ研究スヘキ

帝國議會
ノ組織

憲法上一局議院二局議院ノ可否ヲ研究スルハ甚ク必要ナリト信セシヲ以テ上
 來之ヲ論シタリ此問題ニ付テハ尙ホ種々論究スヘキ點アレトモ元長ニ失スル
 ヲ以テ之ヲ畧シ以下本論ニ入テ講述セン
 余ハ本章ヲ別テ四節トナス第一節帝國議會ノ組織第二節帝國議會ノ職權第三
 節天皇ノ裁可權第四節帝國議會ノ閉會停會及ヒ衆議院ノ解散

第一節 帝國議會ノ組織

我帝國憲法第三十三條ニ曰ク
 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

貴族衆議兩院ノ組織ハ貴族院令衆議院議員撰舉法及ヒ議院法ノ三法律ニ於テ
 之ヲ規定セリ今此ノ三法律ニ規定セル所ヲ詳論センニ幾多ノ日子ヲ要スル
 ヲ以テ余ハ唯其大要ヲ述フルニ止メントス
 本節ヲ更ニ細別シテ三款トナス第一款貴族院ノ組織第二款衆議院ノ組織第三
 款貴衆兩院議員ノ特權

第一款 貴族院ノ組織

余ハ既ニ二局議院ノ制度ヲ以テ善良ノモノナリト論セリ然レトモ今二局議院ヲ設ケ以テ眞ニ善良適實ナル政務機關ヲラシムルニハ上下兩院ノ組織其宜キヲ得サルヘカラス殊ニ上院組織其宜キヲ得サルトキハ上院ハ無用ノ長物ト化シ了ランノミ

然ラハ即チ上院ノ組織ハ果シテ如何セハ可ナルカ此ノ問題ヲ決定センニハ須ラク上院ハ如何ナル目的ノ爲メニ之ヲ設ケタルヤヲ論究セサルヘカラス何トナレハ上院ヲ設クルノ目的如何ニ由テ之ヲ組織スルノ方法モ亦隨テ異ナラサルヘカラサレハナリ

古來歐米諸國ニ行ハル、上院ノ實相ヲ觀察スルニ其目的トスル所ハ甚々區々ニ涉リ決シテ同一ナラス或ハ上院ヲ以テ行政部ノ機關ト爲シ以テ下院ヲ抑壓スルノ要具ヲラシメタルモノアリ佛國奈翁第一世及ヒ同第三世時代ニ於ケル上院ノ如キ即チ是ナリ或ハ之ヲ以テ王家ニ當リ却テ君主ノ擅權ヲ禦付シタル

コトアリ英國ニ於ケル上院ノ如キ即チ是ナリ或ハ又下院ノ過失ヲ矯正シ其專恣ヲ防禦センカ爲メニ之ヲ設ケタルモノアリ佛蘭西白耳義ニ於ケル今日ノ上院ノ如キ即チ是ナリ或ハ又建國ノ沿革上ヨリ止ムヲ得ス或ル元素ヲ代表セシメンカ爲メニ之ヲ設ケタルモノアリ北米合衆國ニ於ケル上院ノ如キハ即チ是レナリ

上院ヲ設クル目的ノ區々ナルコト其レ斯ノ如シ隨テ其之ヲ組織スルノ方法モ亦種々アリ然レトモ今日マテ歐米諸國ニ行ハル、上院組織ノ方法ヲ案スルニ大約之ヲ三種ニ區別スルコトヲ得ヘシ何ツヤ曰ク君主ノ任命曰ク法律ノ指定曰ク撰舉即チ是ナリ而モ此中ノ各個一種ヲ用ユル邦國ハ甚々罕ニシテ多ク此三種ヲ混用セリ以下各種ノ利害得失ニ付キ聊カ之ヲ論究セン

第一 君主ノ任命

君主ノ任命ニ依テ上院議員ヲ撰定スルノ方法ハ唯立君國ニノミ行ハル、所ノモノタルヤ勿論タリ然レトモ既ニ述フルカ如ク全ク此種ノ方法ノミヲ用ユル邦國ハ甚々罕ニシテ今其實例ヲ舉クレハ佛國ニ於テ奈翁第一世路易第十八世

テハ上院議員の全ク君主ノ任命ニ依レリ
 又英吉利、普魯、西、地、利、及、西、班、牙、ノ、如、キ、國、於、テ、尚、ホ、君、主、ノ、任、命、ニ、依、リ、議、員、ナ、キ、ニ、ア、ラ、サ、レ、ト、モ、總、テ、ノ、議、員、舉、テ、然、ル、ニ、ア、ラ、ス、是、レ、唯、其、一、部、分、ノ、ミ、殊、ニ、英、國、ノ、如、キ、上、院、ハ、主、モ、世、襲、貴、族、ヲ、以、テ、組、織、セ、リ、然、レ、ト、モ、君、主、ハ、特、ニ、爵、位、ヲ、授、與、ス、ル、コ、ト、ヲ、得、而、シ、テ、爵、位、ヲ、有、ス、ル、者、ハ、當、然、議、員、ト、ス、ル、ヲ、得、ル、ヲ、以、テ、乃、チ、其、結、果、ハ、恰、モ、君、主、ノ、任、命、セ、ラ、レ、タ、ル、ト、同、一、ニ、歸、ス、若、シ、其、任、命、ノ、方、法、ハ、若、シ、撰、定、其、宜、ヲ、得、タ、ラ、ン、右、君、主、ノ、任、命、ヲ、以、テ、上、院、議、員、ヲ、撰、定、ス、ル、ノ、方、法、ハ、若、シ、撰、定、其、宜、ヲ、得、タ、ラ、ン、ニ、ハ、實、ニ、忠、愛、オ、シ、良、議、員、ヲ、舉、グ、ル、コ、ト、ヲ、得、ヘ、シ、是、レ、此、方、法、ノ、利、益、ト、ス、ル、所、ナ、リ、然、リ、ト、雖、ト、モ、上、院、議、員、ノ、撰、定、ヲ、以、テ、之、ヲ、一、ニ、君、主、ニ、放、任、ス、ル、ハ、寧、ロ、弊、害、多、シ、ト、爲、ス、蓋、シ、此、種、ノ、方、法、ヲ、用、ユ、ル、ト、キ、ハ、君、主、ノ、隨、意、ニ、其、親、昵、ス、ル、所、ノ、者、ヲ、撰、任、シ、テ、以、テ、議、院、ヲ、組、織、ス、ル、コ、ト、ヲ、得、ル、カ、故、ニ、上、院、ハ、或、ハ、君、主、ノ、奴、隸、ト、ス、ル、ヲ、得、ヘ、シ、又、管、ニ、君、主、ノ、奴、隸、ト、ナル、ノ、ミ、ナ、ラ、ス、時、ノ、政、府、ニ、在、ル、者、ハ、其、欲、ス、ル、所、ノ、人、物、ヲ、推、舉、シ、テ、以、テ、之、ヲ、組、織、ス、ル、コ、ト、ヲ、得、ル、カ、故、ニ、或、ハ、亦、當、局、者、ノ、奴、隸、ト、ス、ル、

ルニ至ルコトアルヘシ
 論者或ハ曰ク君主ノ任命ニ依テ議員ヲ撰定シ上院ヲ組織スルトモ君主ノ權
 カヲシテ確固タラシメ即チ之ヲ以テ人民ヨリ撰舉シテ組織スル所ノ下院ニ對
 抗セシメシカ爲メニ實ニ緊要ナル機關ト爲スコトヲ得ヘシト蓋シ誤謬ヲ見下謂
 フヘシ古來各國ノ經驗ニ徴スレハ君主任命ノミニ因テ成ル所ノ上院ハ人民ノ
 公撰ニ因テ成ル所ノ下院ニ對シ實際ニ其權力甚ク薄弱ニシテ往々下院ニ壓倒セ
 ラル、ノ實跡アリ其然カ所以ノモ合カ何レ是レ他ナシ下院ハ國民全体ノ輿論
 ヲ代表スルヲ以テ上院ハ此ノ強大ナル勢力ニ當ルベカラスナルニ由ル是故ニ一
 朝事アルノ秋ニ際シテハ此ノ如キ上院ハ決シテ國家ヲ支配スルノ實力ナシ故
 ニ之ヲシテ下院ニ對抗セシメント欲スルハ甚ク難シトス
 然ラハ則チ此ノ如キ上院ハ君主若クハ行政部ニ對シテ如何ナル權力ヲ有スル
 ヤ曰ク其權力ノ微弱ナル素ヨリ論ヲ俟タス前既ニ述フルカ如ク君主若クハ行政
 部ニ從順ナル人物ヲ以テ之ヲ組織スルカ故ニ議員ハ政府ニ對抗スルノ氣力殆
 ンド無ク又偶々之アルモ其任命ノ實權行政部ニアル以上ハ或ハ新ニ議員ヲ

任命シテ以テ上院ノ多數ヲ政府黨ニ占メセシムルコトヲ得ヘク或ハ上院議員ノ數ヲ變スルコトヲ得ヘシ此ノ如キ實例ハ歐洲ノ歷史上往々散見スル所ナリ現ニ佛國ニ於テ千八百二十七年ニ一時ニ七十六人ノ上院議員ヲ任命シ多數ノ椅子ヲシテ政府黨ニ占領セシメタルコトアリ又降テ千八百八十三年ニ埃地利ニ於テモ亦殆ント之ト同一ノ實例アリタリ又英國ニ於テモ上院ニシテ數ハ内閣ノ意ニ逆フトキハ議員ヲ脅迫スルニ新任議員ノ増加ヲ以テシタルコトアリ此方便ヲ以テ法律案ヲ通過セシメタルコト其例ニ乏シカラス

斯ノ如ク上院議員ノ撰定ヲ君主ノ任命ニ一任スルトキハ種々ノ弊害アルヲ免レス而シテ此弊害ヲ矯正スル爲メニハ一二ノ救濟策ヲキニアラス即チ左ノ如シ

其一 人民ヲシテ數名ノ候補者ヲ撰擧セシメ君主ハ其候補者中ヨリ議員ヲ任命スルコト是ナリ此方法ハ曾テ佛國ニ於テ行ハレタルコトアリ

其二 法律ヲ以テ上院議員タルヘキ人物ノ種類ヲ限定シ君主ハ其制限内ニ屬スル者ニ非サレハ之ヲ任命スルヲ得サルコト是ナリ例ヘハ軍人ニ付テハ將校

以上ニシテ現今非職中ニ在ル者又裁判官ニ付テハ曾テ大審院判事ヲ勤メ現今休職中ニ在ル者ト云フカ如シ此方法モ亦曾テ佛國ニ於テ千八百三十一年頃行ハレタルコトアリ

右ノ方法ヲ用ユルトキハ多少君主任命ノ弊害ヲ防止スルヲ得ト雖トモ尙ホ未ダ全ク之ヲ除去スルコトヲ得サルナリ

第二 法律ノ指定

法律ノ指定トハ法律ヲ以テ何々ノ資格ヲ有スル者ハ當然上院議員タルヘシト定ムルモノ是ナリ例ヘハ某々ノ爵位某々ノ官位ヲ有スル者又ハ學識アル者富裕ナル者若クハ社會ニ於テ高等ノ地位ヲ占ムル者ハ當然上院議員タルヘキカ如シ

此方法ニシテ若シ其資格ヲ學識富裕若クハ經驗勳勞等ニ因リ社會ノ上流ニ立ツ所ノ者ノミニ限ランカ前段君主ノ任命ニ比スレハ愈ニ勝ル所アリト謂フヘシ爵位若クハ官位ノ如キハ何時ニテモ君主之レヲ授與スルコトヲ得ルカ故ニ尙ホ間接ニ君主ノ任命ニ因ルモノト謂ハサルヲ得ス隨テ君主直接ノ任命方ト

多少同一ノ弊アルヲ免カレサルナリ何トナレハ爵位若クハ官位ノ如キハ何時ニテモ君主之ヲ授與スルコトヲ得ヘケレハナリ而シテ今日ニ至ル等テ全ク此方法ノミヲ用井タル邦國トテハ絶テ無ク彼ノ埃地利普魯西及ヒ西班牙ノ如キハ多少此方法ヲ用ヒタルトモ尙ホ他ノ方法ト混用セザルモ以テ如キハ...

第三 撰舉

今若シ上院ヲ以テ下院ノ過失ヲ矯正シ其專恣ヲ防禦スルノ政務機關ヲラシメント欲セバ須ラク國民ニ對シテ有形無形ノ權力ヲ有スル議會ヲ組織セサルヘカラス國民ノ衷情眞ニ尊重恭敬シテ其爲ス所ノ事ヲ喜シテ之ニ服從シ且ツ其代表者タル下院ニ對シテ實ニ權力ヲ有スヘキ上院ヲ組織セント欲セハ必スヤ其議員ハ尙ホ國民ヨリ撰舉セサルヘカラス是レ上院モ尙ホ人民ノ撰舉ニ因レル議員ヲ以テ組織スルニ主唱スル論者ノ論據ハ此所ノ要點ナリ

其一 下院議員ニ於ケルト同一ノ撰舉法ヲ用ユルコトアリ此方法ハ現ニ白耳義國ニ行ハル、所ニシテ同國ニ於テ上院議員下院議員トハ唯其齡ノ高低ト在職期間ノ長短トノ差アルノミ而シテ此方法タル決シテ其當ヲ得タルニモ非ス何トナレハ同一ノ撰舉人カ同一ノ方法ニ依テ議員ヲ撰舉スルトキハ兩院全ク同一ノモノヲ生シ上院ヲ設ケルノ効用甚々薄弱ニシテ其結果殆ント一局議院タルト同一ニ歸スレバナリ...

ノ經驗ニ依レハ兩國孰レモ好結果ヲ得タリト聞ク
 其三 上院議員ヲ下院議員撰舉ニ於ケルト同一ノ撰舉人ヲシテ上院議員ヲ撰
 舉セシメ而シテ被撰者ノ資格ヲ制限スルノ方法是ナリ例ヘハ何年間某官職又
 ハ會社ノ重役ヲ勤續シタル者若クハ何年間代言事務ニ從事シタル者等其種類
 ヲ限定シ此種ノ者ニ非サレハ撰舉セラルハヲ得スト定ムルカ如シ此方法ハ千
 八百七十三年ノ頃佛國ニ於テ有名ナルチエール氏ノ主唱セシ所ニシテ現ニ西
 班牙ニ於テハ今日上院議員ノ半數ハ此方法ニ依テ撰舉セリ
 右ノ外尙ホ種々ノ方法アリ或ハ納稅額ヲ以テ撰舉人及被撰人ノ資格ヲ制限
 スルカ如キ或ハ大學學士會院代言人組合及ヒ商業會議所等ニ各其代表者ヲ得
 セシメンカ爲メニ上院議員中ノ幾名ハ此等ノ者ヲ以テスルカ如キ是ナリ然レ
 トモ今日マテ歐米各國ニ行ハル所ノ上院議員ノ撰舉方法ハ大概子以上ノ三
 種ニ歸着スルモノト知ルヘシ而モ前既ニ一言シタルカ如ク此三个ノ方法中孰
 レカ其一ヲ專用セル國ハ甚タ罕ニシテ即チ之ヲ混用セルモノトス塊地利伊太
 利普魯西西班牙ノ如キ舉テ然ラサルハナシ

上院議員ノ任期

上院ノ組織ニ關シ尙ホ研究スヘキ問題アリ何ツヤ曰ク上院議員ノ任期ノ事是
 ナリ詳言スレハ上院議員ノ在職期間ハ下院議員ニ於ケルト同一タラサルヘカ
 ラサルヤ將タ下院議員ノ在職期間ヨリ長カラサルヘカラサルヤ又君主ノ任命
 ニ依レル邦國ニ在テハ世襲議員タラサルヘカラサルヤ將タ終身議員タラサル
 ヘカラサルヤ如何是レ亦上院ノ組織ニ關シ重大ナル一問題ナリトス
 今日歐米各國ニ行ハル所ノ制度ヲ見ルニ先ツ撰舉ノ方法ヲ用ユル邦國ニ於
 テハ大率子上院議員ノ任期ヲ若干年ニ限定セリ北米合衆國白耳義瑞典那威墨
 西哥及ヒボリヅ非一國ノ如キ是ナリ又佛國ノ如キハ曾テ千八百七十五年ノ憲
 法ニ於テハ上院議員三百人ノ中二百二十五人ハ其任期ヲ九年トシ自餘ノ七十
 五人ハ終身議員ト爲シタリシカ其後千八百八十五年憲法改正ノ際ニ至リテ終
 身議員ノ制度ヲ全廢セリ又西班牙及ヒ丁抹國ノ如キハ尙ホ上院議員ノ一部分
 ノミ任期ヲ若干年ニ限定セリ
 上院議員ヲ撰定スルニ君主ノ任命又ハ法律ノ指定ヲ以テスル邦國ニ於テハ或
 ハ世襲議員ノ制度ヲ採リ或ハ終身議員ノ制度ヲ用ヒタリ而モ上院ヲ組織スル

ニ全ク世襲議員ノミヲ以テシ又ハ終身議員ノミヲ以テスルカ如キハ絶テ之ナク孰レモ此等數種ノ方法ヲ混用セリ諸君モ知ラルカ如ク英國ノ上院ハ純然タル貴族院ニシテ即チ英國蘇格蘭及ヒ愛蘭ノ三貴族ヲ以テ組織シ而シテ其大部分ヲ占ムル所ノ英國ノ貴族ハ總テ世襲議員タリ又蘇格蘭ヨリ出ツル議員ハ下院議員ト其任期ヲ同フシ(同國下院議員ノ任期ハ七箇年トス然レトモ實際七ケ年間繼續シタル下院ハ甚々罕ナリ)愛蘭ヨリ出ツル議員ハ總テ終身議員ナリトス

右ノ外普魯西、奧地利及ヒ匈牙利等ノ諸國ニ於テハ上院議員ノ一部分ノミ世襲ノ制度ヲ用非タリ又終身議員ノ制度ハ伊太利、西班牙、葡萄牙、丁林等其他概テ立君國ニ於テハ少ナクモ上院議員ノ一部分ニ付テハ此制度ヲ用非タリ又佛國ニ於テハ曾テ千八百三十年ノ憲法ニテハ此終身議員ノ制度ヲ採用シタリキ今日歐米各國ニ行ハル所ノ實況其レ斯ノ如シ今ヤ理論上ヨリ觀察ヲ下シ此等數種ノ方法ノ利害得失果シテ如何世襲議員制ハ弊害多クシテ毫モ利益ナキカ終身議員制ノ利害如何又議員ノ在職期間ヲ若干年ニ限定スルノ得失ハ如何

請フ以下此等ノ點ニ付キ聊カ所見ヲ陳ヘン

先ツ世襲議員制ノ利害ヲ論センニ今ツレ豊富ナル貴族ヲ以テ世々上院ノ議員ヲラシムルハ未タ必スシモ有害無益ノ制度ナリト速斷ス可カラズ諸君モ夙ニ知ラルカ如ク現ニ英國ニ於ケル上院ノ如キハ數百年間世襲議員ノ制度ヲ用ヒ來レリ然ルニ上院議員中有爲ノ人物決シテ少ナシトセス如何ナル時代如何ナル性質ノ内閣ト雖トモ多少上院議員之カ椅子ヲ占ム是レ必ス其原因ナクンハアラス

凡ツ衆庶黎民ノ上ニ立チ以テ國家ノ政機ヲ運轉スルハ實ニ容易ノ業ニ非サルナリ蓋シ有爲ノ政治家ヲラシニハ管ニ機敏ナル才能該博ナル學識アルヲ以テ未タ足レリトセス才能學識アル上ニモ尙ホ不羈獨立ノ氣象ト公平無私ノ眼孔トヲ具有セサルヘカラス然ルニ人苟モ斯ノ不完全ナル人類社會ノ一分子タル以上ハ如何ニ才學兼備ノ士ト雖トモ充分ニ資産ヲ有セサルニ於テハ時ニ或ハ不清廉不潔白ノ行爲アルヲ免レ難ク是レ唯今世ニ於テ然ルノミナラス昔時ニ在テモ亦其例ニ乏シカラサル所ナリ先哲曰ハズヤ「無恒産者無恒心」ト亦以テ千

古渝ル無キ金言ト謂フヘシ
 且ツソレ有爲ノ政治家タランニハ歲月ノ久キ間高等ナル學科ヲ研究シ又諸國
 ニ周歴シテ各國政治社會ノ實況等ヲ熟察シ以テ鞠躬盡瘁身ヲ國事ニ委ネ得ル
 ノ餘裕ナカルヘカラス而シテ此ノ如キハ資産乏シキ輩ノ得テ企テ及フ所ニア
 ラサルナリ然ルニ今若シ豐富高貴ノ一種族ヲ以テ世々國家ノ政治ニ干與セシ
 ムルノ制度ヲ設クルニ於テハ乃チ斯業ノ教育ヲ受ケ敏腕有爲ノ良政治家ヲ養
 成スルコトヲ得ヘシ是レ英國等ノ如キ世々貴族ヨリ有名ナル政治家ノ出ツル
 所以ニシテ此等ノ事實ニ徴シテ考察スレハ政治家タルノ性質モ亦一種ノ遺傳
 トモ謂フヘキニ似タリ
 右ハ貴族ヲ以テ世々上院ヲ組織スヘシト主張スル政治家學者等ノ論據トスル
 所ニシテ此説タル近世佛國ニ於テ英傑ト稱セラレタル夫ノチエールギゾーガ
 千八百三十年頃路易非立第一世ノ憲法ヲ制定スルニ際シ熱心ニ唱道セシ所ナ
 リ
 世襲議員制ノ利益トスル所其レ斯ノ如シト雖トモ其弊害モ亦決シテ尠少ナラ

サル大リ英國ノ如キ貴族組織ノ確然タル邦土ニ在テハ或ハ前述ノ如キ好結果
 ヲ見ルヲ得ヘシ然レトモ如何ナル邦國ニ至リテモ亦必スシモ然リト斷言スル
 能ハサルナリ前ニ述ヘタル如ク元ト上院ハ下院ノ過失ヲ矯正シ其專恣ヲ防禦
 センカ爲メニ設クルモノナルカ故ニ上院ハ可及的學識經驗ニ富ミ最モ優等ナ
 ル人物ヲ以テ組織セサルベカラス然ルニ今若シ世襲貴族ヲ以テ之カ議員タラ
 シメンカ甚タ不安心タルヲ免レス何トナレハ必ス貴族ヨリ世々有爲ノ人物出
 ツルヤ否ヤ是レ固ヨリ保スヘカラサレハナリ且ツソレ英國ノ如キ貴族中常ニ
 自由黨アリ急進黨アリ又保守黨アル所ニ在テハ世襲貴族ヲ以テ上院議員ト爲
 スモ亦敢テ妨ケナシト雖トモ通常一種族ヲ以テ世襲議員ト爲ス曉ニハ彼輩國
 民全般ノ利害ヨリモ寧ロ自家ノ利害ニ汲々トシ爲メニ國利民福ニ反スルノ
 政略ヲ爲スコトナキニ非ス否此ノ如キハ歴史ニ徴シテ往々見ル所タルヲ奈何
 セン

次ニ終身議員制ノ利害ヲ論センニ君主ノ任命ニ依テ議員ヲ撰定スル邦國ニ在
 テハ上院議員ノ在職期間ヲ終身ト爲スハ甚タ利益アル制度ナリト謂ハサルヘ

カラス若シ其レ然ラサルニ於テハ議員ノ地位ヤ實ニ不安全ニシテ之ヲ詳言ス
 レハ若シ斯々ノ演説ヲ爲サハ或ハ免黜セララルコトアラシク若シ斯々ノ投票ヲ
 爲サハ恐ラクハ次期ノ國會ニ議員ノ椅子ヲ占ムルコトヲ得サラン杯ト云ヘル
 カ如キ畏怖心ヲ抱クニ至ラン果シテ斯ノ如クハ議員ニ最モ緊要ナル不羈獨
 立ノ精神何ヲ以テ維持スルコトヲ得シヤ固ヨリ數多キ議員舉テ然リト云フヘ
 カラサルモ是レ亦不完全ナル人類社會ニ在テハ得テ免ルヘカラサル情弊ナリ
 ト謂フヘシ且ツ其レ在職期間ヲ終身ト爲スニ於テハ議員タルモノ乃チ其終身
 國政ニ參與スルノ特權ヲ有スルヲ以テ拮据黽勉身ヲ國事ニ委テ專ラ斯業ニ從
 フヘシ是レ君主ノ任命ニ依テ議員ヲ撰定スル國ニ在テハ其任期ヲ終身ト爲ス
 ハ大ニ利益アリト謂ヒシ所以ナリ
 然リト雖トモ唯終身議員制ノ弊害トスル所ハ若シ君主ノ撰任其宜キヲ得サラ
 シカ國民ハ永久不適當ナル上院議員ヲ戴カサルヘカラス且ツ新陳代謝スル無
 キカ故ニ常ニ世ノ進歩ト伴隨セサルコト即チ是ナリ是レ終身議員制度ノ弊害
 ト謂フヘシ

本邦貴族
院ノ組織

以上、上院ノ組織ニ關シ歐米各國ノ實況及ヒ學理上ヨリ生スル二三ノ問題ニ付
 大略之ヲ研究シ了レルヲ以テ是レヨリ本邦ノ制度ニ付キ所見ヲ陳ヘン
 我貴族院ノ組織ニ關スル原則ハ載セテ憲法第三十四條ニアリ該條ニ曰ク
 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ
 組織ス

而シテ貴族院令第一條ニ依レハ乃チ貴族院ハ左ノ五種ノ議員ヲ以テ組織スル
 モノトス

- 一 皇族
- 二 公侯爵
- 三 伯子男爵各其同爵中ヨリ撰舉セラレタル者
- 四 國家ニ勲勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者
- 五 各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付キ多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ
 中ヨリ一人ヲ互撰シテ勅任セラレタル者

右列記セル中前二種ノ議員ニ付テハ特ニ論スヘキコトナク唯此二種族ハ所謂

世襲議員ナリト云ハシテ而シテ後三種ノ議員ハ其任期有爵互撰議員ハ七年勅撰議員ハ終身又多額納稅議員ハ七年ナリトス是レ我貴族院組織ノ大要ナリ今ヤ之ヲ歐米諸國ノ實例ニ比シ又學理ニ照スニ我貴族院ノ組織ニ付テモ猶ホ歐米諸國ニ於ケルカ如ク數種ノ方法ヲ混用セルモノト謂ハサルヘカラス即チ我貴族院ハ英國ニ於ケルカ如ク或ハ世襲議員アリ或ハ撰舉ニ出ツル有期議員アリ又西班牙及ヒ伊太利國等ニ於ケルカ如ク君主ノ任命ニ依レル終身議員アリト知ルヘシ

又斯ノ組織ニ由テ我憲法ノ精神ヲ案スルニ乃チ我貴族院ハ古來國家ニ勳勞アリタル或ル種族及ヒ今日國家ニ勳勞アル者又ハ學識アル者ヲ以テ組織シ且ツ之ニ加フルニ國家ノ一大元素タル資産家ヲ以テスルニ在リ故ニ其組織ノ全体ヨリ觀察スレハ有爵議員ヲ以テ古來國家ニ勳勞アリタル者ヲ代表セシメ勅撰議員ヲ以テ今日國家ノ勳勞者及ヒ學識家ヲ代表セシメ又多額納稅議員ヲ以テ國家ノ財本ヲ代表セシムルノ精神ニ出テタルモノト似シ之ヲ要スルニ我貴族院ハ所謂全國最優等ノ人物ヲ以テ組織セシムルヲ欲シタルモ

ニシテ此ノ種ノ方法ハ業既ニ今日ニ至ルマテ歐米諸學者ノ往々主唱シタル所ナリ又余カ前既ニ一言シタルカ如ク議員ノ撰定ヲ君主ノ任命ニ委ヌルトキハ爲メニ不羈獨立ノ氣象ニ乏シク時ノ權門家ニ阿諛スルカ如キ弊害生シ易キヲ以テ我貴族院令ニ於テハ勅撰議員ニ限リ終身制ヲ採用セリ立法者カ注意ノ周到ナル亦以テ其一班ヲ窺ヒ知ルニ足ル然リト雖モ右ノ組織ハ果シテ今日我邦ノ情勢ニ適當ナルヤ否ヤ前既ニ述ヘタル如ク上院ヲ設クルノ目的ハ蓋シ一方ニ於テハ行政部ノ行爲ヲ監督シ他ノ一方ニ於テハ下院ノ過失ヲ矯正スルニ在リ既ニ上院ヲ設クルノ目的果シテ此ニ在リトセハ今日我邦貴族院ノ組織ハ乃チ能ク斯ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘキヤ余輩甚タ疑ヒナキ能ヒサルナリ先ツ我貴族院議員ノ過半数ヲ占ムル所ノモノハ所謂有爵者是ナリ然ルニ今日我邦有爵者ノ實狀果シテ如何我邦ノ有爵者ハ高貴豊富ナルト共ニ眞個ノ政治家タリ立法者タルノ技術見識ヲ具フルヤ此點ニ付テハ余輩啞然亦敢テ論辯ヲ試ミサルヘシ

憲法

貴族院ノ組織ニ付テハ余輩啞然亦敢テ論辯ヲ試ミサルヘシ

次ハ勅撰議員是ナリ此勅撰議員中ニハ或ハ學識經驗ニ富ミ或ハ國家ニ勳勞アル者アラシク然リト雖トモ余私カニ憶ヘラク勅撰ノ方法ヲ以テ果シテ有爲ノ人物ヲ網羅シ盡スコトヲ得ヘキヤ否ヤ是レ甚タ疑ヒナキニアラス

又國家ノ財本ヲ代表ヒシメシカ爲メニ多額納稅者中ヨリ若干數ノ議員ヲ撰出スルノ制度ヲ用非タリ然リト雖トモ此制度タル果シテ我國情ニ適セルヤ否ヤ歐米諸國ニ於テハ資産家ニシテ學識經驗ヲ兼備セル者多キヲ以テ此種ノ制度ヲ設クルモ或ハ然ルヘキ好人物ヲ得ルコトアラシク而モ我國ノ實況ニ就テ之レヲ見ルニ所謂資産家ナル者或ハ祖先傳來ノ財産ヲ守リ或ハ一世巨萬ノ財産ヲ獲シ者ニシテ一國ノ政治家立法者ニ任シ一方ニ於テハ行政部ノ行爲ヲ監督シ又他ノ一方ニ於テハ衆議院ノ失策ヲ矯正シ得ルニ足ル有爲ノ人物此富豪家中果シテ幾人カアル是レ亦層一層疑ヒナキニアラサルナリ

是ニ由テ之ヲ觀レハ我貴族院ノ組織ハ或ハ現時我邦ノ實狀ニ適セサルヤノ感ナキ能ハス余ハ今日諸君ニ向テ貴族院組織ノ改正案ヲ提出スルノ場合ニモ非ス且ツ亦敢テ之ヲ述フルヲ欲セス然リト雖トモ今若シ余輩ノ希望スル所ヲ言

ハシメハ余ハ應ニ謂ハントス有爵議員及ヒ勅撰議員ノ數ヲ減少シ之ニ代フルニ國民中ヨリ其公撰ヲ以テスル所ノ議員ノ數ヲ增加スヘシト而シテ其増減ノ數如何及ヒ公撰ノ方法如何等ノ如キ點ニ至テハ茲ニ辯セス今ハ唯上院組織ニ關シ余ノ希望スル所ヲ告グルニ止メテ以テ諸君ノ參考ニ供スルノミ

我貴族院ノ組織ニ關シテハ種々論究スヘキモノアレトモ茲ニ悉ク之ヲ盡スヲ得ス唯一昨年ノ初會期ニ於テ生シタル夫ノ有名ナル自撰投票ノ問題ニ付キ聊カ所見ヲ陳ヘントス

自撰投票ノ效力

諸君モ知ラルカ如ク曩日貴族院ニ於テハ自撰投票ヲ以テ無効ナリト議決セリ此議決ハ果シテ貴族院令ノ明文ヲ正當ニ解釋セシモノナリヤ又其精神ト適合セルモノナリヤ

此問題ニ付キ貴族院ニ於テハ種々ノ議論アリシカ其中最モ勢力ヲ得タルモノハ穂積陳重君ノ法理論及ヒ加藤弘之君ノ道徳論是ナリ余ハ貴族院ノ議決ニ正反對ノ意見ヲ抱持スルモノナルヲ以テ以下兩君ノ說ヲ駁撃セント欲ス而シテ

自撰投票ノ效力

先ツ穂積君ノ説ヲ辯駁センニ同君カ自撰投票ヲ以テ無効ナリトセラレ、論據ハ要スルニ左ノ二點ニ在ルモノ、如シ何ツヤ互撰ナル文字ノ解釋及ヒ代表ノ原則ニ違反スト謂ヘルコト是ナリ

第一論據 穂積君曰ク今ツレ互撰ナル文字ヲ最モ平易ニ解釋シ何人モ先ツ思想ニ浮フ所ノモノハ互ニ他人ヲ撰フノ意ニシテ決シテ自分カ自分ヲ撰フノ義ニアラス若シ然ラスト唱フル者ハ是レ未タ法理ノ何物タルヲ解セサル未熟専門家流ノ言ノミ固ヨリ取ルニ足ラサルナリト

余ハ姑ク君ノ所謂未熟専門家流ノ一人ト爲リ試ミニ君ノ説ニ反對セントス貴族院令ニ所謂互撰ナル文字ハ抑モ如何ナル意義ヲ有スルヤ我邦現行ノ法律規則中互撰ナル文字ヲ用ユル者ノ一ニシテ止マラス議院法第四條第二十一條第六十條及ヒ貴族院成立規則第五條第七條等ノ如キ是ナリ今此等數條ニ付キ互撰ナル文字ノ意義ヲ見ルニ孰レノ場合ニ於テモ撰フ權ヲ有スル者ハ亦撰ハル、權ヲ有スルトノ意ヲ示スニ過キス換言スレハ一人ニシテ撰舉人タリ及ヒ被撰人タルノ權利ヲ有スルノ意ヲ示スニ過キサルナリ而シテ貴族院令第一條ニ用ユ

ル所ノ互撰ナル文字モ亦全ク之ト同一義ニシテ同條ハ即チ各府縣ノ多額納稅者十五人ハ各撰舉人タリ被撰人タルノ資格ヲ有スル旨ヲ規定シタルモノナリト云ハサル可カラス此点ニ付テハ彼レ反對論者ト雖トモ恐ラクハ異議ヲ唱フルコト能ハサルヘシ
斯ノ如ク互撰ナル文字ハ撰舉權ヲ有シ且ツ被撰權ヲ有スルモノナリトノ意義ニ解釋センカ自撰投票ノ有效ナリヤ將タ無効ナリヤハ多辯ヲ俟タスシテ明カナラン蓋シ撰舉權ノ貴重ナルコトハ衆人ノ認許スル所ナリ而シテ投票ナルモノハ乃チ此貴重ナル撰舉權ノ實行ナリ既ニ投票ヲ以テ撰舉權ノ實行ナリトセハ之ヲ無効ト爲サンニハ必スヤ法律ノ規定ナカルヘカラス然ルニ貴族院令及ヒ其他ノ法律ニ於テ此種ノ投票ヲ無効ト爲スノ明文アルカ否斯ノ如ク明文アルコトナシ既ニ明文ナキ以上ハ決シテ之ヲ無効ト爲スヲ得サルヤ理ノ當サニ然ルヘキ所ナリ
穂積君ハ之ヲ難シテ曰ク是レ反對推理ノ論法ナリ反對推理ノ論法ハ甚タ危險ニシテ若シ此種ノ論法ヲ濫用スルトキハ往々誤謬ヲ生スルコトアリ故ニ此説

敢テ從フヘカラスト實ニ君カ言ノ如ク反對推理ノ論法ハ法律ノ條文ヲ解釋スルニ當リ濫リニ用ユヘキニ非ス殊ニ法律ノ原則ニ反スル場合ニ於テ之ヲ用ユルトキハ甚タ危險ナリ然レトモ反對推理ノ論法ヲ用ヒ法律ノ原則ヲ適用スルノ便ニ供スルトキハ之ヲ用ユルモ毫モ妨ケアルコトナシ然ルニ本問題ノ場合ニ於テ法律ノ原則ハ何レニアルヤ正當ノ資格アル撰舉人ノ爲シタル投票ハ之ヲ以テ有効ナリトナスニアルカ又ハ無効ナリトナスニアルカ貴族院令ト云ヒ衆議院議員撰舉法ト云ヒ孰レモ正當ナル資格アル撰舉人ノ爲シタル投票ヲ以テ有効ナリトナスヲ以テ其ノ原則トナシ無効ナリトナスヲ以テ例外トナス果シテ然ラハ自撰投票ノ有効無効ヲ論スルニ當リテ反對推理ノ論法ヲ用ユルモ何ノ不可カ之アラシ故ニ曰ク貴族院令ハ自撰投票ヲ以テ無効ナリト明言セサルヲ以テ之ヲ有効ナリト斷定セサル可カラスト若シ我立法者ノ精神互撰ノ場合ニ於テ自撰投票ヲ以テ無効ト爲スニ在ランカ必スヤ之ヲ明言セシナラン然ルニ當ニ其明文ナキノミナラス却テ暗ニ之ヲ有効ト認ムルノ規定アリ貴族院成立規則第五條ノ如キ是ナリ同條ニ依レハ「全院委員長ノ撰舉ハ無名投票ヲ以

テ之ヲ行ヒ云々」トアリ^ト全院委員長ヲ撰舉スルハ即チ互撰ニ依ル故ニ若シ立法者ノ精神自撰投票ヲ以テ無効ト爲スニ在ランカ必スヤ記名投票ヲ用ヒサルヘカラス然ラスンハ其投票者ノ氏名ヲ知ル能ハス隨テ自撰投票ナリヤ否ヤヲ審查スルコト能ハサレハナリ之ニ由テ之ヲ觀レハ立法者ノ意蓋シ知ルヘキナリ之ヲ要スルニ余カ解釋スルカ如ク互撰ナル文字ハ一人ニテ撰舉權及ヒ被撰權ヲ併有スルノ意ヲ示ス爲メニ用ヒタルモノトスレハ法律ノ明文ヲ以テ自撰投票ヲ無効ト爲サル以上ハ其投票ハ總テ有效ナリト斷定セサルヲ得ス

第二論據 穂積君又曰ク多額納稅者ノ撰舉ハ所謂代表撰舉ニシテ適任撰舉ニ非ス然ラハ則チ自分カ自分ヲ代表スルカ如キハ理ニ於テ爲シ能ハサル所ナリ故ニ自撰投票ハ無効ナリト而シテ君ハ代表撰舉ナリトナスノ理由ヲ聞クニ曰ク我立法者ノ精神タル多額納稅者十五人中一人ノ當撰議員ヲシテ財産ヲ代表セシメンカ爲メナリ決シテ其一人カ政治家タリ立法者タルニ適當ナル人物トシテ之ヲ撰出セシムルノ意アルニアラス是レ此撰舉ヲ適任撰舉ニ非スシテ代表撰舉ナリト謂フ所以ナリト

穂積君ノ言ニ依レハ多額納税議員ノ撰舉ノ代表撰舉タル所以ノモノハ當撰議員ヲシテ財産ヲ代表セシムル爲メニシテ撰舉人其人ヲ代表スル爲メニアラサルカ如シ果シテ然リトセハ余ハ何故ニ自撰投票ノ無効ナルヤヲ發見スル能ハサルナリ若シ撰舉人其人ヲ代表セシムルノ目的ナリセハ自分ニテ自分ヲ代表スル能ハストノ議論或ハ生シ得ヘシト雖モ既ニ撰舉人其人ヲ代表セシムルニアラスシテ唯其財産ヲ代表セシムルニ過キサルモノトセハ之ニ代理ノ原則ヲ適用スル能ハサルヤ論ヲ俟ヌシテ明カナリ

今穂積君ニ一步ヲ譲リ多額納税者ノ互撰ヲ以テ代表撰舉ナリト假定スルモ尙ホ自撰投票ヲ無効トスルヲ得ヌ多額納税者十五人ノ中一人ヲ撰出シ其一人ハ乃チ撰舉人ヲ代表スルモノナリセトハ當撰議員ハ必スヤ撰舉人ノ全數即チ十五人ノ代表者タラサルヘカラス然ルニ今若シ自撰投票ヲ以テ無効ナリトセシカ當撰議員ハ撰舉人中十四人ナラテハ代表セス切言スレハ撰舉人中一人ハ代表セラレサルニ至ラシ法律ノ明文ナクシテ豈ニ此ノ如キ結果ヲ生セシムルコトヲ得ンヤ

之ヲ要スルニ一人ニシテ法律上二個ノ資格ヲ併有スルトキハ常ニ其所爲ヲ別個ニ觀察シ以テ正否ヲ判定セサルヘカラス詳言スレハ一人カ撰舉人トシテ爲シタル所爲ハ果シテ他ノ撰舉人カ爲シタル所爲ト同一ノ條件ヲ具備スルヤ否ヤヲ觀、又被撰人トシテ爲シタル所爲モ果シテ他ノ被撰人カ爲シタル所爲ト同一ノ條件ヲ具備スルヤ否ヤヲ察シ以テ其所爲ノ有效ナルヤ將タ無効ナルヤヲ判定セサルヘカラス試ミニ想ヘ一人ノ松方伯ニシテ總理大臣タリ又大藏大臣タルカ如ク又一人ノ蜂須賀侯ニシテ東京府知事タリ又東京市民タルカ如キ時ニ自分ヨリ自分ニ請願シ且ツ自分カ自分ニ許可スルカ如キ奇觀ヲ呈スルコトアリト雖トモ法律上ニ於テハ各、其資格ヲ異ニスルカ故ニ此ノ如キ事アルモ決シテ怪ムニ足ラサルナリ互撰ニ於ケルモ亦然リ一人ニシテ撰舉人タリ且ツ被撰人タルノ資格ヲ併有スルモノナルヲ以テ其所爲ノ有效無効ヲ論スルニハ須ラク視線ヲ兩面ニ注キ各別ニ之ヲ判定スヘシ斯ク詮シ來ラハ自撰投票ノ無効ニ非サルコト此ニ至テ瞭然タラン

次ニ加藤君ノ道德論ヲ辯駁センニ道德上ヨリ論スルモ自撰投票決シテ罪スヘ

キモノニ非ス蓋シ代議政体ノ治下ニ在テハ各人苟モ自己ヲ以テ代議士タルニ適當ナリト信スルニ於テハ自ら進ンテ候補者ト爲リ手ニ唾シテ撰舉場裡ニ臨ミ以テ中原ノ鹿ヲ爭フカ如キ氣象アルニ非スハ眞正ナル代議政体ノ實行ヲ見ル能ハサルナリ故ニ區々タル謙遜退讓ハ却テ其徳ニ非ス且ツ其レ自撰投票ヲ以テ道德ニ背クモノナリトセンカ自ラ進ンテ候補者ト爲ルカ如キモ既ニ背徳ノ所業ト謂ハサルヲ得ス而モ袖手傍觀徒ラニ他人ノ推舉スルヲ待ツヘキカ愚モ亦太甚シト評スヘシ代議政体ノ世豈ニ斯ノ如クニシテ其レ可ナランヤ君カ嗽々セラル、道德論ノ如キハ固ヨリ齒牙ニ掛クルニ足ラサルナリ故ニ余復タ多ク辯セス

終リニ一言セン自撰投票ノ有效ナルヤ將タ無効ナルヤヲ論争スルニ最モ利益アル場合ハ他ナシ其一票ヲ爲メニ當撰議員タルヲ得ルト否トニ關スル時はナリ尙ホ極言スレ、其一票ヲ爲メニ主義ノ勝敗政黨ノ盛衰ニ關シ其結果一議案ノ法律ト成ルト否トノ點ニ至ルマテ波及スルモノトス自撰ノ二票貴重ナルコト其レ斯ノ如シ故ニ余ハ切望ス貴族院カ速カニ其議決ヲ改メ以テ自撰投票ノ

有效ナルコトヲ表示センコトヲ

衆議院ノ組織

第二款 衆議院ノ組織

我衆議院ハ撰舉法ノ定ムル所ニ依リ各府縣ノ撰舉區ニ於テ公撰シタル三百ノ議員ヲ以テ組織セラル、モノナリ故ニ衆議院ノ組織ヲ詳論センニハ須ラク先ツ衆議院議員撰舉法ノ規定如何ヲ説明セサルヘカラス然レトモ今ヤ諸君ノ面前ニ於テ精密ニ之ヲ口述スルカ如キハ到底時間ノ許サ、ル所ナルヲ以テ余ハ唯撰舉法ノ中憲法ヲ研究スルニ最モ必要欠クヘカラサル點ノミニ就キ聊カ所見ヲ述フルニ止メントス

衆議院議員ノ撰舉ニ關シテ最モ重要ナル點三アリ何ツヤ曰ク撰舉人及ヒ被撰人ノ資格如何曰ク當撰者ヲ定ムルノ方法如何曰ク撰舉ノ區畫如何即チ是ナリ請フ逐次之ヲ論セン

第一 撰舉人及ヒ被撰人ノ資格

其一 撰舉人ノ資格

撰舉人ノ資格

憲法

我衆議院議員撰舉法ニ依レハ撰舉人タルニハ左ノ條件ヲ備フルコトヲ要ス(同法第六條)

第一 日本臣民ノ男子ニシテ年齢滿二十五歳以上ノ者

第二 撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ仍ホ引續キ住居スル者

第三 撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍ホ引續キ納ムル者

但所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍ホ引續キ納ムル者ニ限ル

右ノ條件中其尤モ重要ナルモノヲ約言スレバ日本臣民滿二十五歳以上ノ男子ニシテ直接國稅十五圓以上ヲ納ムル者はナリ今ヤ此規定ヲ以テ現時歐米各國ニ行ハル、所ノ學說及ヒ其實例ニ對照シテ聊カ之ヲ論究センニ撰舉資格ニ關シテ就中重要ナル問題ニアリ撰舉權ハ吾人天賦ノ權利ナルカ將タ一國ノ公民ニ屬スル職務ナルカ(佛語ニテ所謂 Electorship)ハ一ノ Droit ナルヤ將タ Function ナルヤ

撰舉權ハ吾人天賦ノ權利ナルカ將タ一國ノ公民ニ屬スル職務ナルカ

ノ問題はレナリ)及ヒ撰舉權ハ國民一般ニ附與スヘキモノナルヤ將タ一部ノ國民ニ制限スヘキモノナルヤ即チ是ナリ

第一問 撰舉權ハ吾人天賦ノ權利ナルカ將タ一國ノ公民ノ職務ナルカ

此問題ノ決定如何ニ因リ撰舉法全体ノ規定ニ實ニ大ナル影響ヲ及ホスモノトス今ツレ撰舉權ヲ以テ一個人ニ屬スル天賦固有ノ權利ナリトセンカ撰舉權ハ單ニ成年ノ男子ノミニ限ルヘカラス如何トナレハ男子タルト女子タルトヲ問ハス又成年者タルト未成年者タルトヲ論セス苟モ人類タル以上ハ等シク此權利ヲ有スルコト猶ホ恰モ結婚權若クハ所有權ニ於ケルト同一理ヲサレハカラサレハナリ而シテ若シ女子又ハ未成年者ハ此權利ヲ實行スルニ適當ナル能力ヲ有セストセハ宜シク其後見人ヲシテ之ヲ實行セシムヘシ決シテ女子タリ未成年者タルノ故ヲ以テ此權利ヲ剝奪スヘカラザルナリ之ニ反シ撰舉權ヲ以テ一國ノ公民ニ屬スル職務ナリトセンカ立法者ハ適宜ニ制限ヲ設クルモ毫モ妨ケアルコトナシ何トナレハ國民中必スヤ其職務ニ堪ユル者ト否トノ別アルヘキヲ以テナリ

又選舉權ヲ以テ一個人ニ屬スル天賦固有ノ權利ナリトセンカ此權利ノ享有者ハ私益ノ爲メニ隨意ニ之ヲ利用スルヲ得ヘキコト猶ホ財產ノ所有者カ自己ノ隨意ニ其財產ヲ處分スルヲ得ヘキト同一ナルヘシ之ニ反シテ若シ選舉權ヲ以テ公益ニ關スル一ノ職務ナリトセンカ立法者ハ其職務ノ區域ヲ定メ斯々ノ限度内ニ非サレハ之ヲ使用スルヲ得スト謂ヘルカ如キ制限ヲ附スルコトヲ得ヘキナリ

此他尙ホ選舉權ヲ以テ一ノ權利ト認ムルト一ノ職務ト認ムルトニ因リ其結果トシテ種々ノ差異ヲ生スヘキモ其最モ重要ナル點ハ即チ右ノ如シ此三點ヲ以テモ既ニ之ヲ論定スルノ利益アルヲ見ルヘシ
選舉權ヲ以テ人類天賦ノ權利ナリト主張スル論者ノ言ニ曰ク主權ハ人民固有ノ權利ナリ而シテ代議士ヲ選舉スルハ乃チ主權ヲ實行スル一ノ手段ニ過キス故ニ選舉權ノ人類天賦ノ權利ナルコト明カナリ隨テ此權利ハ立法者ノ制定ヲ待テ後創メテ生スルモノニ非ス其以前既ニ存在シ憲法又ハ法律ハ單ニ既存ノ權利ヲ認定スルニ過キサルナリト是レ其大要ナリ

選舉權ヲ以テ一ノ公務ナリト主張スル論者ノ言ニ曰ク凡ソ選舉ノ目的トスル所ハ抑モ何ソヤ是レ他ナシ政務機關ノ一タル議院ヲ組織スル爲メニ要スル所ノ人物(即チ議員)ヲ國民中ヨリ撰出セシムルニ在リ果シテ然ラハ選舉權ハ立法者カ國民ニ附與シタル特別ノ權利ニシテ即チ公民タルノ職務ヲ盡ス爲メニ要スル所ノ權利ニ過キサルナリ詳言スレハ是レ唯一個人ノ利益ヲ代表セシムルカ爲メ設ケタルモノニ非スシテ實ニ國家公益ノ爲メニ設ケタルモノト謂ハサル可カラス隨テ選舉權ハ公益ノ必要ニ應シ憲法又ハ法律ヲ以テ或ハ之レヲ國民一般ニ附與シ或ハ之レヲ一部ノ國民ニ制限スルコトヲ得ヘシト是レ其要點ナリ
右第一說ハルソー派ノ學者ノ稱道スル所ニシテ又第二說ハ英國ノスチユアルト、ミル佛國ノラブレール等ノ主唱スル所ナリ而シテ余ハ第二說ヲ以テ可ナリト信ス殊ニ我邦ノ如キ主權君主ニ在リトスル國體ノ下ニ在テハ選舉權ヲ以テ人民固有ノ權利ト論スルヲ得ス實ニ衆議院ナル一ノ政務機關ヲ組織スル爲メニ憲法法律ヲ以テ特ニ國民ニ附與シタル權利ナリト謂ハサルヘカラサル

撰舉權ハ
國民一般
ニ附與ス
ヘキカ將
タ制限ス
ヘキカ

ナリ
第二問 撰舉權ハ國民一般ニ附與スヘキモノナルカ將タ一部ノ國民ニ制限
スヘキモノナルカ

此問題ハ前第一問ト實ニ密着ノ關係ヲ有ス即チ若シ第一說ノ如ク撰舉權ヲ以
テ人民天賦ノ權利ナリト謂ハンカ必スヤ國民一般ニ撰舉權ヲ附與セサルヘカ
ラス否之ヲ剝奪スヘカラサルナリ然レトモ又第二說ニ從ヒ撰舉權ハ國家公益
ノ爲メニ憲法、法律ヲ以テ特ニ國民ニ附與セル所ノ權利ナリト認ムルトキハ之
ヲ國民一般ニ附與スルモ又一部ノ國民ニ制限スルモ固ヨリ施政上ノ便宜ニ出
ツルモノナルヲ以テ理論上之ヲ左右スルヲ得サルナリ蓋シ今日各國ノ撰舉法
ヲ通觀スルニ其撰舉資格ニ於ケル規定ノ甚タ區々タルハ職トシテ此等ノ事情
ニ由ルナラン

然リト雖トモ今ヤ代議政體ノ行ハル、諸國ノ實況ニ徴シ經驗上ヨリ觀察ヲ下
ストキハ彼此ノ間自ラ利害ノ存スル所アルヲ發見スヘシ是故ニ余ハ一應、普通
撰舉及ヒ制限撰舉ノ可否ヲ研究スルハ甚タ利益アリト信スルヲ以テ聊カ茲ニ

之ヲ論究セント欲ス

普通撰舉ノ行ハル、國ハ歐洲ニ在テハ極メテ少數ニシテ今余ノ記憶スル所ニ
依レハ單ニ獨逸帝國、佛蘭西、噠馬、希臘、瑞西ノ五國ニ過キス此他ハ皆制限撰舉ヲ
用ユ

制限撰舉ヲ用井ル國ニ於テハ大概子納稅額ニ由テ撰舉權ヲ制限シ且ツ其納稅
額ハ直接國稅ヲ以テ基礎トセリ今二三ノ例ヲ舉クレハ白耳義ハ四十二フラン
ク三十二サンチム^(凡我) 伊太利ハ十九リール^(凡我) 西班牙ハ二ポンド^(凡我)
澳太利ハ五フロリン^(凡我) 等是ナリ此他英吉利及ヒ獨逸聯邦ノ如キ種々
ノ規定アレトモ茲ニ枚舉セス

又納稅ノ外尙ホ文字ヲ解シ得ルヲ以テ一條件ト爲セル國アリ伊太利及ヒ伯西
ノ如キ是ナリ但伯西ハ未ダ王國時代ニ於ケル事ナレトモ今日ハ既ニ共和國ト
爲リシヲ以テ撰舉法ノ如キモ自然改正セシナルヘシ此他或ル學位ヲ有シ若ク
ハ幾年間或ル公務ニ從事シタル者ハ納稅ノ條件ヲ要セス當然撰舉人タルノ資
格ヲ有スル制度ヲ用井ル國アリ西班牙及ヒ葡萄牙ノ如キ即チ是ナリ

普通選舉
制限選舉
利害得失

亞米利加ノ諸共和國ニ在テハ一般ニ普通選舉ヲ用ユ但北米合衆國ノ或ル州ニ於テハ多少制限選舉ヲ行フト云フ諸君ハ既ニ普通選舉及ヒ制限選舉ノ何モノタルコト並ニ現今各國ニ行ハルハ所ノ實例如何ヲ了知セラレタルナラント信スルヲ以テ余ハ是ヨリ進ンテ普通選舉及ヒ制限選舉ノ利害得失ニ付キ聊カ論述セン先ツ普通選舉ヲ主張スル論者カ論據トスル所ヲ聞クニ乃チ曰ク凡ソ立法者カ國民ニ選舉權ヲ附與スル所以ノモノハ抑モ何ソヤ憶フニ被治者ニシテ立法事業ニ參與セシメ併ヒテ治者ノ行爲ヲ監督セシムルノ意ニ外ナラス若シ果シテ然ランカ可及的國民一般ニ選舉權ヲ附與セサルヘカラス何トナレハ被治者ハ悉ク立法事業ニ參與スルニ付キ又治者ノ行爲ヲ監督スルニ付キ利害ノ關係ヲ有スルヲ以テナリ彼レ制限選舉ヲ主張スル論者ハ選舉人ノ資格ヲ制限スルニ或ハ納稅額ノ多寡ヲ以テシ或ハ教育程度ノ高低ヲ以テスルモ此等ノ制限タル甚タ專斷ナル定メ方ト謂ハサルヘカラス如何トナレハ其制限ノ標準トスル所ハ決シテ確乎タルモノト爲スニ足ラサレハナリ

今日制限選舉法ノ行ハレツ、アル國ニ於テ最モ一般ニ用井ラル、所ノモノハ納稅額ニ因テ選舉資格ヲ定ムルニ在リ現ニ我邦ノ如キモ直接國稅十五圓以上ヲ納ムル者ヲ以テ選舉人ト爲セリ然ルニ納稅額ヲ以テ制限ト爲ストキハ其標準ノ定メ方ニ至リテモ亦甚タ曖昧タルヲ免レス看ヨ我立法者ハ何故ニ其制限ヲ十五圓ト爲シタルヤ直接國稅ヲ十五圓納ムル者ト十四圓九十九錢納ムル者トノ間ニ其能力ニ付キ果シテ如何ナル差異アルヤ是レ實ニ專斷ナル定メ方ニ非スシテ何ツヤ前段既ニ述フルカ如ク制限ノ程度ハ國々ニ因テ千種萬様ナリト雖トモ孰レノ國ノ標準ニ付テモ亦右ノ如キ批評ハ決シテ免レ難キ所ナリ納稅額ヲ以テ標準ト爲スノ非ナルコト其レ斯ノ如シ右ト倅シク伊太利ノ如キ教育ノ程度ヲ以テ標準ト爲シタル國ニ付テモ亦同一ノ批評ヲ下スコトヲ得ヘシ前既ニ一言シタルカ如ク伊太利其他一二ノ國ニ於テハ選舉人タルニハ必ス讀書シ得ルヲ要スト定メタリ然レトモ實際或ハ讀書スルヲ得サルモ尙ホ代議士ヲ選舉スルノ能力ヲ有スル者アルヘク或ハ縱ヒ讀書シ得ルモ選舉人タルノ能力ヲ有セサル者アルヘシ豈ニ之ヲ以テ選舉人タル

ニ適當ナルヤ否ヤヲ判別スルコトヲ得ンヤ
 又若シ反對論者ノ言フカ如ク納稅額ノ多寡又ハ教育程度ノ高低ヲ以テ撰舉資格ヲ制限スルヲ要ストセンカ納稅額ノ多寡又ハ教育程度ノ高低ニ因テ各撰舉人カ有スル投票ノ數モ亦隨テ増減セサルヘカラサルノ理ナリ尙ホ本邦ノ例ニ付テ之ヲ論セハ直接國稅十五圓ヲ納ムル者ハ撰舉人タルコトヲ得ルトスル以上ハ三十圓ヲ納ムル者ハ二個ノ投票ヲ有セサル可カラサルコト猶ホ恰モ株式會社ニ於ケル株主カ各其有スル株券ノ數ニ應シテ投票權ヲ有スルカ如クナラサル可カラス詳言スレハ多額ノ納稅者ニハ多數ノ投票權ヲ與フルコト當サニ然ルヘキ所ナラン若シ其レ爾カセサランカ到底制限撰舉ノ論理ヲシテ貫徹セシムルコト能ハサルナリ制限撰舉ヲ主張スル論者ト雖トモ蓋シ斯ノ如キ極點マテ其論理ヲ推及スルヲ肯ンセサルヘシ何トナレハ若シ斯ノ如クスルニ於テハ國家ノ權力舉テ財產家ノ手ニ歸スヘケレハナリ
 之ヲ要スルニ制限撰舉法ヲ用井ルトキハ其標準ヲ納稅額ニ採ルニモセヨ將タ教育程度ニ依ルニモセヨ孰レモ專斷ナル規定タルヲ免レス不公平ナル結果ヲ

生スルコトアルヲ免カレスト是レ普通撰舉ヲ主張スル論者カ論據トスル所ノ大要ナリ

次ニ制限撰舉ヲ主張スル論者カ論據トスル所ヲ聞クニ乃チ曰ク凡ソ人ニ貧富賢愚ノ別アルハ人類ノ免ルヘカラサル常態ナリ然ルニ貧者、富者、賢者、愚者ノ差別ナク之ニ同等ノ權利ヲ與フルハ甚タ解シ難キ所ナリ若シ其レ貧富、賢愚ヲ混淆シ徒々頭數ヲ以テ國家ノ政治ヲ左右スルヲ得ンカ一國中貧者ハ富者ヨリモ多ク愚者ハ賢者ヨリモ多キカ故ニ所謂多數ノ壓制ニ由リ劣等ノ人物ヲシテ勢力ヲ有セシムル至ルヤ必然タリ斯ノ如キ結果ノ生スルハ決シテ國家ノ大計ニ非サルナリ實ニ撰舉權ハ國家ノ政治ヲ行フ一ノ機關一ノ要具ナリ果シテ然ラハ此權利ハ宜シク國家ノ政治ニ利害ノ關係ヲ有スル者ニ與ヘサルヘカラス又此權利ヲ實行スルニ適當ノ能力ヲ有スル者ニ與ヘサルヘカラサルナリ
 今若シ反對論者ノ言フカ如ク一般ノ國民ヲシテ悉ク撰舉權ヲ有セシムルトキハ國家ノ爲メニ甚タ危險ナリト謂ハサルヲ得ス如何トナレハ財產ナキ者ハ責任ノ思想ニ乏シク又國家ノ秩序ヲ重ンスルノ思想ニモ乏シキカ故ニ此等ノ無

責任者ニ撰舉權ヲ與フルトキハ彼レ之ヲ實行スルニ當リ毫モ國家ノ公益ヲ顧
 ミス徒ラニ一己ノ私益ヲ爲メニ左右セラレ、ノ恐レアレハナリ是故ニ多少財
 産ヲ有スル者ヲ以テ撰舉人ト爲サ、ルヘカラス又教育ヲ以テ撰舉人ノ資格ヲ
 制限スルノ理ニ至リテモ亦同シ即チ教育ノ有無ハ事物ノ是非曲直ヲ判別スル
 ノ能力ニ大ナル差等ヲ生スルヤ亦爭フヘカラザル所ナリ勿論教育ナキ者ハ絶
 對的ニ是非曲直ヲ判別スルノ能力ナシト謂フヘカラスト雖トモ教育ハ以テ事
 物ノ判斷力ニ大ナル影響ヲ及ボスヘキヤ復タ多辯ヲ俟タズシテ明ナリ
 斯ノ如ク財產及ヒ教育ノ有無ハ責任ノ思想事物ノ判斷力ニ大ナル影響ヲ及ボ
 スベキモノタル以上ハ此等ノ原素ヲ以テ撰舉資格ヲ制限スル一ノ標準ト爲ス
 モ決シテ不當ノ規定ニ非サルナリ又反對論者ノ辯難スルカ如ク財產又ハ教育
 ヲ以テ撰舉資格ヲ制限スルトキハ其標準ヲ設クルニ方リ多少專斷ニ涉ルノ譏
 リヲ免ル、能ハス、雖トモ元是レ人爲ニ出ツル事ハ到底絶對的ノ完美ヲ要ム
 ヘカラザルコトヲ知ラハ此ノ如ク撰舉法ニ多少ノ欠點アルモ豈ニ之ヲ以テ排斥
 セサルヲ得サルノ理アルヘケンヤト是レ制限撰舉ヲ主張スル論者カ證據トス

ル所ノ大要ナリ

尙ホ此他普通撰舉ニモ又制限撰舉ニモ孰レモ種々ノ理由アレトモ上來述
 フル所ハ乃チ其證據ニシテ他ハ徒タ之ヲ敷衍シタルニ過キス抑モ亦枝葉ノ議
 論タルニ

夫レ斯ノ如ク普通撰舉及ヒ制限撰舉ノ二者共ニ各多少ノ理由アリ然リト雖ト
 モ今ヤ學理上ヨリ論スルモ又歷史上ヨリ考フルモ余ハ代議政体ノ發達其極度
 ニ達シタル曉ニハ必スヤ一般ニ普通撰舉ノ行ハル、コト、信ス願ミテ今日ニ
 至ルマテ各國ニ於テ行ハレタル普通撰舉ノ實蹟ニ付テ其利害得失ヲ觀察スル
 ニ普通撰舉ノ弊害モ亦決シテ少トモ殊ニ其最モ大ナル弊害ハ普通撰舉ノ
 行ハル、國ニ在テハ政体ハ變動甚ク激烈ナルコト、是ナリ其然ル所以ノモノハ
 蓋シ人民ナルモノハ道理ヨリモ寧ロ感情ニ制セラル、ノ傾向アルヲ以テ是非
 曲直ヲ判斷スルノ邊マナクシテ往々極端ヨリ極端ニ奔ルノ弊アリ請フ先ツ歷
 史上ノ事實ニ付テ之ヲ証明セン

諸君モ知ラル、カ如ク佛國ニ於テハ會テ千八百四十八年ルウ井、フ井リツブ王

ノ政府ヲ顛覆スルヤ爾來直チニ普通撰擧法ヲ行ヒタルニ未タ數年ヲ出テスシテ奈翁第三世カ帝位ニ即クコト、爲レリ看ヨ若シ佛國ノ人民ニシテ當時道義心ニ因テ支配サレタルモノナラシニハ僅々二三年前ニルウ井フ井リツプ王ノ政府ヲ顛覆シ何爲ソ其政府ヨリモ尙ホ一層太甚シキ壓制主義ヲ行フ所ノ奈翁第三世ノ説ヲ贊成スルカ如キ理アラシヤ然ルニ當時ノ實況ニ付テ之ヲ看レハ佛國人民ノ大多數ハ奈翁ノ新政府ヲ贊成スルノ意ヲ表ヒリ

又近年ノ事實ヲ舉クレハ彼ノ佛國武將軍騷動ノ如キ是レ最モ賭易キ一例ナラシ人民ハ一時ノ感情ニ制セラレブレラシゼ一ノ如キ奸黠ノ奴輩ヲ以テ國家ニ忠實ナル蓋世ノ英傑ナリト迷信シ到ル處之ヲ撰擧シテ其代議士ト爲スニ至リシカ是レ亦數旬ヲ出テスシテ全ク反對ノ現象ヲ呈シタリ

此他普通撰擧ノ一般ニ行ハレタル南米諸國ノ實例ニ徴スルモ亦右ト同一ノ景狀アリ一世紀中屢ハ政府ヲ顛覆シ數回ノ革命ヲ來スカ如キ是レ人民ヲ一團体トシテ通觀スレハ實ニ其一團体ハ道理上ヨリモ寧ロ感情ニ制セラル、ノ傾向アルヨリシテ生スル所ノ結果ナリト云ハサル可カラサルナリ

他國ノ例ニ付
 一般ノ撰擧
 第三世ノ説
 佛國人民ノ
 大多數ハ奈
 翁ノ新政府
 ヲ贊成スル
 ノ意ヲ表ヒ
 リ
 又近年ノ事
 實ヲ舉クレ
 ハ彼ノ佛國
 武將軍騷動
 ノ如キ是レ
 最モ賭易キ
 一例ナラシ
 人民ハ一時
 ノ感情ニ制
 セラレブレ
 ラシゼ一ノ
 如キ奸黠ノ
 奴輩ヲ以テ
 國家ニ忠實
 ナル蓋世ノ
 英傑ナリト
 迷信シ到ル
 處之ヲ撰擧
 シテ其代議
 士ト爲スニ
 至リシカ是
 レ亦數旬ヲ
 出テスシテ
 全ク反對ノ
 現象ヲ呈シ
 タリ

斯ノ如ク代議政体ノ行ハル、國ニ於テ普通撰擧ヲ用井ルトキハ種々ノ弊害殊ニ最モ厭フヘク忌ムヘキノ弊害アルヤ今日マテノ史乘ニ徴シ決シテ蔽フヘカラサル事實ナリ然リト雖トモ前既ニ一言シタルカ如ク代議政体ヲ實行シツ、漸ヲ以テ發達スルニ隨ヒ勢ヒ普通撰擧ヲ用井ルニ至ルヤ必然タラン是レ余ノ信スル所ナリ

先ツ理論上ヨリ之ヲ論センニ苟モ代議政体ヲ以テ最良善美ノ政体ナリト仮定スル以上ハ實ニ普通撰擧ハ代議政体自然ノ結果ナリト謂ハサルヘカラス蓋シテ代議政体ノ主眼トスル所ハ人民ヲシテ立法權ノ實行ニ參與セシメ以テ治者ノ行爲ヲ監督セシムルニ在リ然ルニ立法權ノ實行ニ參與シ治者ノ行爲ヲ監督スルニ付キ利害ノ關係ヲ有スルモノハ國民全体舉テ然ラサルハナシ換言スレハ國家ノ各分子タル個々ノ人民ハ總テ此等ノ点ニ付キ利害ノ關係ヲ有スルモノナリ果シテ然ラハ撰擧權ノ如キモ亦決シテ之ヲ制限スヘキノ理アラサルナリ彼レ制限撰擧ヲ主張スル論者ノ言ヘルカ如ク人ニ貧富賢愚ノ差別アルハ得テ免ルヘカラサル所ナリト雖トモ抑モ亦何ヲ以テ標準トシ其分界ヲ定ムルコト

國史の歴史を研究するに於ては、その時代の背景を十分に理解する必要がある。...

ヲ得ヘキヤ是レ甚タ至難ナル業ニシテ若シ強テ其分界ヲ定メシト欲セハ勢ヒ
專斷ニ陥ラサルヲ得ス是故ニ相對的ニ論スルトキハ尙ホ多少ノ弊害アルニ拘
ハラス寧ロ國民一般ニ撰舉權ヲ附與スルヲ以テ最モ公平ナル制度ト謂フヘキ
ナリ

次ニ歴史上ヨリ之ヲ論スレハ普通撰舉ノ勢力殆ト當ルヘカラサルカ如シ何レノ
國ニ於テモ代議政体ヲ實行シタル當初ニ在ツテヤ必ス多少ノ制限ヲ設ケタリ
ト雖トモ爾來其制限ヲ減縮シ漸次普通撰舉ニ近ツキタリ今日尙ホ納稅額ヲ以
テ撰舉資格ヲ制限セル國ニ在テモ之ヲ其國ニ於テ代議政体ヲ實行シタル當初
ニ比スレハ其額大ニ輕少セルヲ見ル彼ノ英吉利ノ如キ世ニ有名ナル保守國ニ
於テモ今世紀ノ首メヨリ既ニ三回ノ大改革ヲ斷行シ現今ニ至リテハ殆ト普通
撰舉ト同様ノ有様ナリ所謂三回ノ大改革トハ第一次ハ千八百三十二年第二次
ハ千八百四十七年第三次ハ千八百八十四年ニ在リ千八百三十二年頃マテハ全
國撰舉人ノ數僅カニ十萬ニ過キサリシカ最後ノ改革即チ千八百八十四年後ハ
其數五百十七萬餘ト爲レリ此ノ如キ事蹟ニ徴シテ考察スルトキハ代議政体ヲ

實行シツ、アル國ニ於テハ早晚普通撰舉ニ推移スルノ勢ヒアリト謂フモ決シ
テ不當ノ言ニアラサルヲ知ラン

爾レハ我邦ノ如キニ在テハ果シテ如何余ノ見ル所ニ依レハ尙モ憲法政治ヲ實
行シ來ル以上ハ猶ホ他ノ諸國ニ於ケルカ如ク撰舉權ハ漸次擴張セラレ竟ニハ
普通撰舉ニ臻ルナラント是レ今日ヨリ豫言シテ太過ナキヲ信スル者ナリ然リ
ト雖トモ今日我邦ニ於テ普通撰舉ヲ行フノ利害得失如何ニ至リテハ甚タ疑ヒ
ナキニ非ス而モ是レ學理上ノ問題タランヨリモ寧ロ實際上ノ問題ニ屬スルヲ
以テ余ハ茲ニ之ヲ詳論セサルヘシ

被撰人ノ資格

我衆議院議員撰舉法第八條ニ曰ク

被撰人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歲以上ニシテ撰舉人名簿
調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其撰舉府縣内ニ於テ直接納稅十五圓以上ヲ納
メ仍引續キ納ムル者タルヘシ但所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿
三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

憲法

撰舉資格ト被撰資格トノ間

此規定ニ依レハ我邦ニ於テハ撰舉人タル者ト被撰人タル者トハ略ホ同一ノ條件ヲ要シ唯年齢ノ点ニ付キ彼ハ滿二十五歳以上此ハ滿三十歳以上タルノ差アルノミ
年齢ノ点ニ付テハ何レノ國ノ法律ト雖トモ多少撰舉人タルト被撰人タルトノ間ニ差異ヲ設ケタリ是レ一般ノ通則ナリ然レトモ亦或ル國ニ於テハ彼此共ニ同一ナルモノアリ殊ニ有名ナル實例ハ英國ニ於テ夫ノフランクスピット等ノ如キ成年ニ達スルヤ否ヤ直チニ議員ニ當撰サレタリ就中福氏ノ如キハ十九歳ノ時既ニ當撰サレタルモ未成年ノ爲ニ議院内ニ入ルコトヲ得サリント云フ今日英國ニ在テハ彼此ノ間年齢ニ差異ナキコト、記憶セリ
又被撰資格ニ付テハ舊ニ年齢ノ点ノミニ止マラス尙ホ他ノ條件ニ至リテモ往々撰舉資格ヨリモ嚴重ナルヲ以テ通則トス殊ニ納稅額ノ如キモ各國ノ法律孰レモ之ヲ高フセリ但我國ニ在テハ彼此全ク同額ナリト知ルヘシ
撰舉資格ト被撰資格トノ間ニ差異ヲ設クルノ可否果シテ如何先ツ理論上ヨリ論センニ余ハ決シテ差異ヲ設クルノ理ナシト信ス如何トナレハ若シ撰舉資格

ニ差異ヲ設クルノ可否

ニ付キ或ル條件ヲ設クルノ必要アリト認メ且ツ之ヲ設ケタル以上ハ撰舉人ハ議員ヲ撰舉スルニ十分ノ能力ヲ有スルモノト仮定セサル可カラズ而シテ既ニ法律ニ於テ撰舉權ヲ實行シ得ルノ能力アリト認定シタル以上ハ之ニ十分ノ自由ヲ與フルモ毫モ妨ケアルコトナシ又實際上ヨリ論スルモ納稅額ノ如キハ殆ント有名無實ニ歸センノミ如何トナレハ若シ撰舉人ニ於テ必ス何某ヲ撰舉セント欲セハ其候補者ノ爲メニ宛モ納稅セルカ似ク擬爲スルコトヲ得ヘケレハナリ現ニ我邦三百ノ議員中數十人ハ即チ此手段ニ因テ撰出セラレタルモノナリト聞ク故ニ余ハ信セリ若シ撰舉人タルノ條件ヲ設クルノ必要アリテ既ニ之ヲ設ケタル以上ハ被撰資格ニ付キ殊ニ特別ナル條件ヲ設クルノ必要ナク且ツ之ヲ設クルニ於テハ倍ス撰舉ノ自由ヲ妨害シ而シテ毫モ其利益ナシト尙ホ被撰資格ニ付テ論スヘキ点ニアリ何ソヤ曰ク官吏ノ議員タルコトヲ得ルノ可否及ヒ拘留又ハ保釋中ニアル者ニ被撰人タルコトヲ禁スルコト可否即チ是ナリ請フ以下試ミニ之ヲ論セン
其一 官吏ノ議員タルコトヲ得ルノ可否如何一般ニ官吏モ亦議員タルコトヲ

官吏ヲシ
テ議員タル
ラシムル
ノ可否

得ルトノ規定ハ歐洲ニ於テ曾テ行ハレ又或ル國ニ至リテハ現ニ今日行ハレツ
ハアル所ナリ而シテ之ヲ可トスルノ論者ハ乃チ曰ク政府部内ニハ秀才有爲ノ
人物アリ眞乎タル議員ニ最モ適當ナル能力ヲ有スル者アリ故ニ此等ノ者ヲシ
テ議員ト爲シ以テ立法事業ニ干與セシメバ其利益亦甚々大ナリト是レ官吏ヲ
以テ議員ト爲ス利益ノ主モナル所ナリ然リト雖トモ余ハ官吏ヲ以テ議員ト爲
スノ規定ハ甚々其當ヲ失スルモノナリト信ス
本邦ノ如ク未タ代議政体ニ慣熟セス隨テ其弊害モ尙ホ十分ニ發達セサル時ニ
在ツテハ敢テ大ナル弊害ナキモ漸ク代議政体ノ運轉ニ巧妙ナルニ隨ヒ官吏ヲ
シテ議員タルヲ得セシムルトキハ實ニ太甚シキ弊害ノ生スルコトアリ是レ余
ノ多辯ヲ俟タス諸君ノ夙ニ了察セラル、所ナラン即チ議員ノ多數ニ依テ國家
ノ政治ヲ左右スル曉ニ方リ若シ官吏ヲシテ議員タルヲ得セシムルニ於テハ政
府ハ種々ノ策畧ヲ用非官吏ヲシテ議員タルヲシメ自黨ノ輩ヲ以テ議員ノ多數ヲ
占ムルコトヲ得ヘシ果シテ斯ノ如キ弊害アリトセハ尙ホ多少ノ利益アルニモ
セヨ此種ノ規定ハ斷然之ヲ拒絕セサルヲ得ス

拘留又ハ
保釋中ニ
在ル者ニ
被選人タ
ルコトヲ
禁スルノ
可否

又官吏カ議員ト爲リテ議場ニ出ツルニ當リ縱シヤ政府ノ權力ニ頼リテ之ヲ撰
舉セシメタルニ非ストスルモ尙ホ他ニ大ナル不都合アルヲ奈何セン何ツヤ他
ナシ官吏ニシテ議員タル者ハ議員ニ最モ緊要ナル不羈獨立ノ思想ヲ抱持セサ
ルコト即チ是ナリ是レ官吏ト雖トモ敢テ一己ノ意見ヲ有セサルニ非ス之ヲ有
スルモ尙モ職ヲ政府ニ奉スル以上ハ其間ニ種々情實ノ纏綿スルアリテ自己ノ
意見ヲ公ケニスルヲ得ス又時ニ公ケニスヘカラサルモノアラン此ニ至テ官吏
ヲシテ議員タルヲ得セシムル規定ノ非ナルコト彌ヨ明カナラン
斯ノ如ク何レノ點ヨリ論スルモ官吏ヲシテ議員タルヲ得セシムルノ規定ハ弊
害多クシテ利益少ナキモノト斷定セサルヲ得ス爾レハニヤ今日歐米諸國中ニ
就キ尙モ自由制度ノ行ハル、國ニ在テハ此ノ如キ規定ハ絶テ見サル所ナリ
其二 拘留又ハ保釋中ニ在ル者ニ被選人タルコトヲ禁スルノ可否如何是レ我
撰舉法第十七條ノ規定スル所ナリ今若シ一般ニ之ヲ論スルトキハ正當ノ手續
ニ依リ刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ニ一時撰舉權及ヒ被撰權ヲ奪
フカ如キハ實ニ至當ノ規定ト謂ハサルヘカラス然リト雖トモ之ニ撰舉前何日

問若クハ何月間ト云フカ如キ期日ヲ設クルコトナク單ニ刑事ノ訴ヲ受ケ拘留
 又ハ保釋中ニ在ル者ト爲スカ如キハ大ニ撰舉人ノ自由ヲ奪ヒ且ツ人民ニ不安
 心ヲ與フルモノト評セサルヲ得ス如何トナシハ前段既ニ一言シタルカ如ク我
 邦ニ在テモ漸ク代議政体ノ運轉ニ慣熟スルニ隨ヒ因テ生スル所ノ弊害モ亦之
 ニ伴ヒテ發達スヘク此時ニ當リ政府ニ在ル者若シ或ル候補者ヲシテ議員タラ
 シムルヲ欲セサルニ於テハ何時ニテモ口實ヲ設ケテ刑事上ノ訴ヲ起シ以テ之
 ヲ拘留スルコトヲ得ヘケレハナリ勿論同條ニ依レハ其裁判確定ニ至ルマテト
 アルヲ以テ多少候補者ノ利益ヲ保護セルモ此ノ如ク自由ヲ束縛セラレトキ
 ハ反對黨ノ候補者ニ對シテ甚タ不利ナル位地ニ陥ラサルヘカラス是故ニ右ノ
 規定ニ加フルニ須ラク撰舉前何日間若クハ何月間ト云ヘルカ如キ期日ヲ以テ
 スヘシ然ラサルニ於テハ時ニ或ハ大ナル弊害ヲ生スルノ憂アリ

當選議員
 ヲ指定ス
 ル方法

第二 當選議員ヲ指定スル方法

衆議院ノ組織ニ關シテ最モ重大ナル問題ハ如何ニシテ當選議員ヲ指定スルヤ
 ノ點是ナリ凡ソ選舉法ノ目的トスル所ハ可及的選舉人全体ヲ代表スル議員ヲ

得且ツ最モ立法者タルニ適當ナル人物ヲ舉クルニ在リ然リ而シテ今日歐米諸
 國ニ於テ一般ニ行ハル所ノ選舉法ヲ見ルニ即チ選舉人多數ノ投票ヲ得タル
 者ヲ以テ當選議員ト爲スノ制度所謂多數選舉ノ制ヲ用フ此制度ニ過半数制ト
 最多數制トノ二種アリ過半数制トハ選舉人半数以上ノ投票ヲ得タル者ヲ以テ
 當選議員ト爲スノ方法ニシテ例ハ選舉人一千人ナリト假定セハ五百一以上
 ノ投票ヲ得タル者ヲ以テ當選議員ト爲スカ如シ又最多數制トハ比較的ニ最モ
 多數ノ投票ヲ得タル者ヲ以テ當選議員ト爲スノ方法ナリ例ハ選舉人一千人
 ニシテ甲乙丙三人ノ候補者アリテ甲ハ四百乙ハ三百五十丙ハ二百五十ノ投票
 ヲ得タリト假定セヨ此場合ニ於テ甲ハ選舉人半数以下ノ投票ヲ得タルニ過キ
 サレトモ三人ノ候補者中ニ在テ最モ多數ヲ得タルモノナルカ故ニ甲ヲ以テ當
 選議員ト爲スカ如シ現今歐米諸國ニ於テ一般ニ採用セル所ハ前者即チ過半数
 制ニシテ我邦ハ之ニ反シテ後者即チ最多數制ヲ採用セリ(選舉法第五十八條今
 ヤ歐米諸國到ル處ニ行ハル、多數選舉ノ制度ハ果シテ選舉ノ目的ヲ達シ得タ
 リヤ如何請フ聊カ之ヲ論セム

余ノ見ル所ニ依レハ過半数制ニセヨ又最多數制ニセヨ孰レモ選舉人ノ全体ヲ代表セシムルコト能ハサルハ勿論往々其半数ヲスラ代表セシムルコト能ハサルナリ是レ佛蘭西、白耳義ノ如キ過半数制ヲ用井ル所ノ實例ニ徴シテ寔ニ明カナル事實ナリ而シテ今其著明ナルモノヲ示サンニ佛國ノ如キ千八百七十七年ノ總選舉ニ於テハ選舉人百人ニ付キ代表者ヲ得タル者ハ四十九人、又千八百八十一年ノ總選舉ニ於テハ四十五人、又千八百八十五年ノ總選舉ニ於テハ僅カニ四十三人ニ過キサリキ蓋シ此ノ如キ不公平ナル結果ノ生スルハ第一選舉人中ニ棄權者ノ多キコト第二各候補者ニシテ過半数ノ投票ヲ得サルモ當選スルコトアリ是レ即チ其原因タラスンハアラス

(一) 選舉人中ニ棄權者アルトキハ縱令ヒ過半数制ヲ用井ルモ尙ホ當選議員ハ選舉人ノ半数以上ヲ代表セシムルコト能ハス例ハ茲ニ選舉人一千人ノ中二百人棄權シズリト仮定セヨ此場合ニ於テ投票ノ半数ハ四百ナルヲ以テ即チ四百一票ヲ得タル候補者ハ當選議員ト爲ルヘク而シテ選舉ニ失敗シタル三百九十九人ト棄權者二百人トハ其代表者ヲ得ヘカラス換言セハ選舉人百人ニ付キ

四十一人ハ代表者ヲ得テ他ノ五十九人ハ議院内ニ其代表者ヲ得サルカ如キ結果ヲ生スルニ至ルナリ

(二) 過半数制ヲ用フルト雖トモ若シ選舉ノ當日過半数ノ投票ヲ得ル者ナキトキハ更ニ最多數制ニ依テ選舉ヲ行フカ故ニ當選議員ハ僅カニ選舉人ノ少數ヲ代表スルニ過キス例ハ選舉人一千人ニシテ候補者三人アリ再選舉ニ於テ一人ハ四百一人ハ三百五十、他ノ一人ハ二百五十ノ投票ヲ得タリト假定セヨ此場合ニ於テ四百ノ投票ヲ得タル候補者ハ比較的多數ノ投票ヲ得タルヲ以テ即チ當選議員ト爲ルヘシ而シテ此議員タル實ニ選舉人中ノ少數ヲ代表スルニ過キササルナリ

其レ然リ故ニ縱シヤ佛國ノ如ク過半数制ヲ用井ルモ當選議員ハ實ニ選舉人ノ少數ヲ代表スルニ過キス况ンヤ我邦ノ如キ最多數制ヲ以テ當選議員ヲ指定スルニ於テヲヤ今第一回ノ總選舉(即チ明治二十三年七月)ノ調査ニ依レハ實ニ左ノ如クナリキ

日本全國選舉人ノ有スル投票總數

五十七万一千五百九十六

當選議員三百人ノ得タル投票總數 二十七万二千八百七十六
 此統計ニ依レハ選舉人ノ有スル投票總數五十七万一千五百九十六ノ内二十九
 万八千七百二十ハ議院内ニ代表者ヲ得サルモノニシテ即チ衆議院三百ノ議員
 ハ實ニ全國選舉人ノ半數以下ナラテハ代表セサルモノト謂フヘシ更ニ各府縣
 ニ就テ之ヲ看察スレハ尙ホ一層太甚キモノアリ左ニ其二三ヲ示サシ

東京府

選舉人ノ有スル投票總數

五千七百十五

當選議員ノ得タル投票總數

二千三百八十一

兵庫縣

選舉人ノ有スル投票總數

二万六千八百七十八

當選議員ノ得タル投票總數

一万二千二百五十六

埼玉縣

選舉人ノ有スル投票總數

三万二千百五十八

當選議員ノ得タル投票總數

一萬一千四百七十六

右ノ中埼玉縣ノ如キハ殊ニ太甚ク即チ議院内ニ代表者ヲ有スル撰舉人ハ殆ト
 三分ノ一ニ過キスシテ其三分ノ二ハ代表者ヲ有セサリシナリ是レ實ニ不公平
 ナル結果ト謂フ可キナリ尙ホ全國ノ各選舉ニ付テ仔細ニ吟味スレハ之ニ類ス
 ルモノ亦尠カラス當時余カ「衆議院議員ハ國民全體ヲ代表セスト」題シ國民ノ友
 及國家學會雜誌ニ掲載シタル論文ヲ參看スヘシ而シテ此ノ如キ結果ノ生スル
 ハ是レ實ニ撰舉法其宜キヲ得サルカ爲メノミ蓋シ撰舉ノ目的ニシテ余カ前ニ
 述フルカ如ク可及的國民全般ヨリ其代表者ヲ撰出セシムルニ在リトセハ多數
 撰舉ノ制度ハ決シテ其目的ヲ達スルコト能ハサルナリ昨年衆議院ニ提出セラ
 レタル撰舉法改正案ノ如キ種々ノ點ニ付テ改良ヲ加ヘタリト雖トモ當撰議員
 ヲ指定スル方法ニ至リテハ依然最多數制ヲ採用セリ其提出者ノ説明ニ依レハ
 撰舉區畫ヲサヘ擴張スレハ最多數制ヲ用井ルモ國民全体ヲ代表スル議員ヲ出
 サシムルコトヲ得ヘシト言フト雖トモ其實然ラス若シ撰舉區畫ヲ擴張スレハ
 今日ヨリモ尙ホ一層太甚シキ不公平ノ結果ヲ生スルニ至ルヘキナリ其詳細ハ
 請フ後段ニ至リテ之ヲ述フヘシ

多數選舉ノ弊害ヲ矯正スルノ策

以上論スル所ニ依レハ多數選舉ノ制度ハ過半数制ニセヨ又最多數制ニセヨ其ニ公平善良ナル結果ヲ得ルコト能ハス縱シヤ過半数制ヲ用非實際上一人ノ棄權者モアルコトナク且ツ當選議員タルニハ必ス半数以上ノ投票ヲ得ルヲ要スト假定スルモ尙ホ之ヲ以テ完全ナル方法ト謂フヲ得ス何トナレハ僅カ一二票ノ爲メニ殆ト半数ノ選舉人カ其代表者ヲ得ル能ハサル如キ結果ノ生スルコトアレハナリ前例一千人ノ選舉人中五百一人ハ其代表者ヲ得テ他ノ四百九十九人ハ其代表者ヲ得サルカ如ク又一選舉區ニ甲乙二黨アリ甲黨ニ屬スル選舉人五百五十人ニシテ乙黨ニ屬スル選舉人四百五十人ナル場合ニ於テ其間僅カニ五十人ノ差アルカ爲メニ乙黨ハ全ク其代表者ヲ出タス能ハサルカ如キ即チ是ナリ豈不公平ノ結果ナリト云ハサルヲ得ンヤ
是ニ於テカ歐米諸國ノ學者ハ一千八百五十年以來多數選舉ノ弊害ヲ矯正シ少數ノ選舉人ニモ其代表者ヲ得セシメンカ爲メニ種々ノ選舉方法ヲ案出セリ而シテ其方法中或ハ既ニ世ニ行ハル、モノアリ或ハ將ニ世ニ行ハレントスルモノアリ就中其最モ著名ナルモノハ四トス曰ク有限投票法曰ク積聚投票法曰ク

有限投票法

商數投票法曰ク比例分配連名投票法是ナリ請フ試ミニ之ヲ論セン

其一、有限投票法 此方法ハ先ツ一ノ撰舉區ヨリ數人ノ議員ヲ撰出スルノ制度ヲ用非而シテ各撰舉人ニ其區ヨリ撰出スヘキ議員總數ノ爲メニ投票スルコトヲ許サス例ヘハ一撰舉區ヨリ三人ノ議員ヲ撰出スヘキモノト假定セヨ此場合ニ於テハ各撰舉人ハ二人ノ議員ノ爲メニ非サレハ投票スルコトヲ得サルカ如シ故ニ今其撰舉區甲乙二政黨ニ分レ總撰舉人一千人ノ内甲黨ニ屬スル者六百人乙黨ニ屬スル者四百人ナル場合ニ於テ若シ今日行ハル、所ノ多數撰舉ノ方法ヲ用ユルトキハ三人ノ議員ハ悉ク甲黨ヨリ出テ總撰舉人ノ殆ト半数ニ近キ乙黨ハ一人ノ代表者ヲモ有スル能ハサルカ如キ結果ノ生スルコトアルヘシ然ルニ此有限投票法ヲ用非ルトキハ前示ノ如ク此場合ニ於テハ各撰舉人ニ二個ノ投票ニ非サレハ之ヲ與ヘサルカ故ニ勢ヒ三人ノ議員中二人ハ甲黨ヨリ出テ他ノ一人ハ必ス乙黨ヨリ出ツルコト、ナルヘシ
此有限投票法ハ瑞西ノカルトレ、ナル人ノ始メテ案出セシ所ノモノニシテ現ニ之ヲ實行シタル國モ亦尠カラズ今其著明ナルモノヲ舉グレハ英國ニ於テハ

千八百六十七年ヨリ千八百八十五年ニ至ルマテ試験ノ爲メ十三撰舉區ニ限リテ之ヲ施行シタリ又伯刺西爾ニ於テハ千八百七十五年ノ撰舉法ヲ以テ此方法ヲ採用シタリ但シ其後千八百八十一年ニ至リテ撰舉法ノ改正ニ際シ之ヲ廢止セリ又伊太利ニ於テハ千八百八十二年三月十三日ノ法律ヲ以テ三十五撰舉區ニ限リ此方法ヲ用井タリ而シテ此等ノ撰舉區ニ於テハ各區ヨリ五人宛ノ議員ヲ撰出スヘキモノトシ其各撰舉人ハ四人ノ議員ノ爲メニ非サレハ投票スルコトヲ得サルモノト規定セリ又西班牙ニ於テモ二十六撰舉區ニ限リテ此方法ヲ用井タリ但シ同國ノ制度ハ伊國ヨリモ較煩雜ニシテ即チ三人ノ議員ヲ撰出スヘキ撰舉區ニ於テハ各撰舉人ハ二個ノ投票權ヲ有シ四人又ハ五人ノ議員ヲ出スヘキ區ニ於テハ各三個六人ノ議員ヲ出スヘキ區ニ於テハ各四個七人ノ議員ヲ出スヘキ區ニ於テハ各五個又八人ノ議員ヲ出スヘキ區ニ於テハ各六個ノ投票權ヲ有スルコト、爲セリ此割合ニ依レハ少數ノ撰舉人モ右二十六撰舉區ヨリ少クモ二十九人ノ代表者ヲ出タスコトヲ得ヘシ

右有限投票法ハ多數撰舉ノ制度ニ比スレハ其相優ルコト數等ナリト雖トモ未

積聚投票法

タ以テ十分ナル撰舉方法ト謂フヘカラス何トナレハ法律ヲ以テ豫メ各選舉人ノ有スヘキ投票數ヲ定ムルモ其割合往々實際ノ狀況ト相齟齬スルコトアレハナリ且ツソレ或ル撰舉區ニ至リテハ其撰舉人ノ全數殆ト一黨ニ歸スルヤモ知ルヘカラス然ルニ此方法ヲ用井ルトキハ極メテ少數ナル撰舉人ニモ尙ホ其代表者ヲ與フルニ至リ却テ不公平ナル結果ヲ生スルコトアルヲ免レス

其二積聚投票法 此方法ニ於テモ亦一撰舉區ヨリ數人ノ議員ヲ撰出スルノ制度ヲ用井而シテ各撰舉人ハ其撰舉區ヨリ撰出スヘキ議員ノ數ニ應シテ投票權ヲ有スレトモ必スシモ各候補者ニ一票ツ、與フルヲ要セス其有スル投票ノ全數ヲ或ハ專ラ一人ノ候補者ニ與フルコトヲ得ヘク或ハ第一ノ候補者ニ二票ヲ與ヘ第二ノ候補者ニ一票ヲ與フル等之ヲ數人ニ分與スルコトヲ得ヘク又或ハ各候補者ニ一票ツ、與フルコトヲモ固ヨリ爲シ得ヘキモノトス故ニ例ヘハ茲ニ三人ノ議員ヲ出タス一撰舉區アリテ其區ノ撰舉人總數一千人ノ中、甲黨ニ屬スル者七百人、乙黨ニ屬スル者三百人ナリト假定セヨ此場合ニ於テ甲黨ノ撰舉人カ自黨ニ屬スル候補者三人ヲ撰定シ其候補者ニ各一票ツ、與フルトキハ即

チ甲黨ノ候補者ハ各七百ノ投票ヲ得ヘシ然ルニ乙黨ニ於テハ選舉人ノ數三百ナルヲ以テ若シ候補者三人ヲ撰定シ各一票ツ、ヲ與フルトキハ自黨ノ候補者ハ僅カニ三百ノ投票ヲ得ルニ過キスシテ到底當撰サル、コトナシ是故ニ乙黨ニ在テハ唯一人ノ候補者ヲ撰定シ之ニ各撰舉人ノ有スル投票ノ全數ヲ與フルトキハ乃チ九百ノ投票ヲ得ヘク而シテ最多數ニ依テ當撰議員ヲ定ムルトキハ第一ニ乙黨ノ候補者當撰シ自餘ノ二人ハ甲黨ノ候補者中ヨリ出ツルコト、爲ルヘシ

此投票法ハ英國ノ學者ゼームス、ガルス、マルシヤルナル人ノ始メテ主唱セル所ニシテ此方法ヲ實行シタル國ハ北米合衆國ノイリノイス州是ナリ此州ニ於テハ千八百七十二年以來此方法ヲ用井タリ又西班牙、葡萄牙ノ兩國ニ於テモ多少之レニ依レリ即チ西班牙ニ於テハ各撰舉區ニ於テ得タル投票少數ナルカ爲メニ當撰サル、ヲ得サリシ候補者ト雖トモ若シ全國ノ總撰舉區ニ於テ一萬以上ノ投票ヲ得タルトキハ十人ニ限り當撰議員ト爲ス是レ亦一ノ便法ト謂フヘシ何トナレハ全國ニ於テ一萬以上ノ投票ヲ得タル者ハ國中多少名望アル人士ト

看做サ、ルヘカラス而シテ此ノ如キ名士ヲ議員ト爲サ、ルハ國家ノ爲メ實ニ惜ムヘキノ至リナレハナリ葡萄牙ニ於テモ此亦制度ヲ用井タリ是レ畢竟積聚投票法ヲ稍、潤色シタルモノニ過キス

右積聚投票法モ亦少數者ニ代表者ヲ與フルノ點ニ付テハ今日一般ニ行ハル、所ノ多數代表ノ原則ヨリモ其相優ルコト數等ニシテ又有限投票法ニ比スルモ尙ホ大ニ優ル所アリト謂ハサルヘカラス如何トナレハ撰舉人ニシテ巧ミニ投票ノ分配ヲ爲ストキハ孰レノ黨派モ皆多少ノ代表者ヲ出タスコトヲ得ヘケレハナリ然リト雖トモ又他ノ一方ヨリ觀察スルトキハ其投票ノ分配タル實際上甚タ困難ナルヲ以テ或ハ其割合ヲ誤リ爲メニ各黨間ニ却テ不公平ナル結果ノ生スルコトアルヲ免レス故ニ此方法モ未タ以テ完全ノ制度ナリト謂フヘカラスルナリ

商數投票法

其三、商數投票法 此方法ハ英國ノ學者トーマス、ヘヤーナル人ノ始メテ主唱セルモノニシテミール等ノ大ニ賛成シ一時世ヲ震動シタル所ナリ而シテ此方法モ亦一撰舉區ヨリ數人ノ議員ヲ撰出スルノ制度ヲ用井撰舉人ノ總數ヲ其區ヨ

リ出タスヘキ議員ノ總數ヲ以テ除シ其得タル所ノ商ヲ以テ一人ノ議員ヲ出タスニ足ルノ定數ト爲シ各候補者ニシテ此定數ノ投票ヲ得タルトキハ乃チ之ヲ以テ當撰議員ト爲スノ制度ナリ例ヘハ茲ニ一千人ノ撰舉人アリテ十人ノ議員ヲ出タス一撰舉區アリト假定セヨ此場合ニ於テハ撰舉人ノ總數一千ヲ議員ノ總數十ヲ以テ除スルトキハ其商百ヲ得ヘシ故ニ各候補者ニシテ百個ノ投票ヲ得タルトキハ即チ當撰議員タルコトヲ得ヘキカ如シ

茲ニ注意スヘキハ通常一撰舉區ヨリ數人ノ議員ヲ撰出スルノ制度ナルトキハ各撰舉人ハ其區ヨリ出タスヘキ議員ノ數ニ應シテ投票權ヲ有ス前段ニ述ヘタル有限投票法及ヒ積聚投票法ニ於テモ亦皆然リ然ルニ此商數投票法ニ依レハ尙ホ一撰舉區ヨリ數人ノ議員ヲ出タスノ制度ナルニモ拘ハラズ撰舉人ハ各一個ノ投票ニ非サレハ有セス是レ此方法ノ前數者ト大ニ相異ナル所ナリ

此商數投票法ヲ用非ルトキハ縱ヒ撰舉人中幾多ノ黨派ニ分ル、モ其一團體ニシテ尙モ一人ノ議員ヲ出タスニ足ルヘキ定數ニ達ズルトキハ必ス其代表者ヲ出タスコトヲ得ヘシ是レ此法ノ主眼トスル所ニシテ乃チ各撰舉人ヲシテ應分

ノ代表者ヲ得セシムルニ在リ然リト雖トモ若シ撰舉人ノ一團體ニシテ其定數ニ達セサルトキハ決シテ自己ノ代表者ヲ得ルコト能ハサルカ故ニ豫メ候補者ヲ撰定シ以テ定數ニ達スヘキ投票ヲ得セシメサルヘカラス而シテ之ヲ豫撰シ之ヲ當撰セシメンニハ必ス撰舉人間ニ於テ十分ノ協議ヲ遂ケサルヘカラス然ルニ此事タル撰舉人ノ數僅少ナル場合ニ於テハ甚タ容易ナリト雖トモ歐洲諸國ニ於ケルカ如ク撰舉人ノ多數ナル場合ニ至リテハ到底十分協議ヲ遂クルコト能ハサルナリ是ニ於テカトーマス、ヘヤーハ此不都合ヲ避クルカ爲メ一ノ便法ヲ發見セリ即チ各撰舉人ヲシテ其撰舉セント欲スル所ノ候補者ノ外ニ尙ホ數多ノ豫備候補者ヲ指定セシメ若シ第一ノ候補者ニシテ他ノ撰舉人ノ投票ニ由リ既ニ當撰議員ト爲ルヘキ定數ニ達シタルトキハ第二ノ候補者ノ爲メニ投票シタルモノト看做シ又第二ノ候補者モ既ニ他ノ投票ニ由リ當撰サレタルトキハ更ニ第三ノ候補者ノ爲メニ投票シタルモノト看做シ其候補者ヲ以テ當撰議員ト爲スコト是ナリ此ノ如クスルトキハ宛モ撰舉人間ニ於テ豫メ協議ヲ遂ケタルト略ホ同様ノ結果ヲ生スルニ至ルヘシ左ニ一例ヲ舉ケテ之レヲ詳カニ

セシ

前例一千人ノ撰舉人アル一撰舉區ヨリ十人ノ議員ヲ撰出スル場合ニ於テ其區若シ甲乙丙丁ノ四政黨ニ分レ甲黨ノ撰舉人四百人乙黨ノ撰舉人三百人丙黨ノ撰舉人二百人丁黨ノ撰舉人百人ナリト假定セハ先ツ甲黨ハ四人ノ議員ヲ得ルノ割合ナルヲ以テいろはに四人ノ候補者ヲ指定シ投票用紙ニ順次之ヲ列記スヘシ而シテ此例ニ依レハ各候補者ハ百個ノ投票ヲ得タルハ即チ當撰議員タルカ故ニ第一候補者ハ四百人ノ撰舉人中ニ於テ初ノ百人ノ投票ヲ得テ當撰議員ト爲リ又第二候補者ハ次ノ百人ノ投票ヲ得テ同ク當撰議員ト爲リ其他第三及ヒ第四候補者ハモ亦此割合ヲ以テ悉ク當撰議員ト爲ルコトヲ得ヘシ次ニ乙黨丙黨及ヒ丁黨ニ至リテモ亦之ト同一ノ理ニ依リ各其撰舉人ノ數ニ應シテ代表者ヲ得ヘキナリ

右商數投票法ハ學理上ヨリ論スルトキハ實ニ善良ナル制度ト謂ハサルヘカラス然リト雖トモ實際上一撰舉區ノ撰舉人ニシテ數千人乃至數萬人ノ多キニ及フトキハ縦ヒ右ノ便法ヲ用井ルモ尙ホ或ハ候補者ノ指定區々ニ涉リ或ハ其列

記ノ順序一定セス爲メニ撰舉ヲ再三行フニ非サレハ以テ當撰議員ヲ確定スルコト能ハサルカ如キ困難アルヲ免レサルナリ故ニ此方法ハ議院ニ於ケル委員撰舉地方ニ於ケル縣會議員若クハ常置委員ノ撰舉株式會社ニ於ケル役員ノ撰舉等ノ如キ撰舉人ノ少數ナル場合ニ用井ルハ甚タ公平ノ結果ヲ生スヘシ現ニ英國ニ於テハ地方學務委員ノ撰舉ニ此投票法ヲ用ユト云フ而シテ議員選舉ノ爲メニ略ホ之ト同様ノ方法ヲ用井タルハ丁抹是ナリ同國ニ於テハトーマスヘヤーカ此說ヲ世ニ公ケニ爲セシ以前即チ一千八百五十五年當時ノ大藏大臣アンドレー氏之レヲ發議シ同年十月二日ノ法律ト爲レリ爾來屢々撰舉法ヲ變更セシモ或ル一部ニ於テハ今日尙ホ此方法ヲ用井頗ル好結果ヲ得タリト云フ

其四、比例分配連名投票法 此方法ハ瑞西ニ於テ發見シタルモノニシテ爾來諸學者種々ノ修正ヲ試ミ今日ニ在テハ殆ト完全無缺ノ投票法ト爲レリソレ代議政体ノ行ハル、國ニ於テハ必ス種々ノ政黨アリ、是レ勢ヒ免ルヘカラサル所ニシテ亦必ス無カルヘカラサルモノナリ故ニ須ラク各政黨ヲシテ議院内ニ其代

比例分配
連名投票
法

表者ヲ得セシメサルヘカラス然ルニ余ノ上來述ヘタル種々ノ投票法ハ今日一般ニ行ハル、所ノ多數代表ノ制度ヨリモ其相優ルコト數等ナリト雖トモ孰レモ多少ノ弊害アリテ存シ未タ以テ十分ナリト謂フヘカラス然リ而シテ此比例分配連名投票法ハ代議政体ノ實相ヨリ案出シタルモノニシテ其目的トスル所ハ蓋シ左ノ二點ニ在リ

第一 各政黨ヲシテ其撰舉人ノ數ニ應シテ代表者ヲ得セシムルコト

第二 各政黨内ニ於テ最モ名望高キ者ヲシテ其黨ノ代表者ヲラシムルコト

第一ノ目的即チ各政黨ヲシテ其撰舉人ノ數ニ應シテ代表者ヲ得セシムルニハ之ヲ如何スヘキヤ曰ク一撰舉區ヨリ數人ノ議員ヲ撰出スルノ制度ヲ用井其撰出スヘキ議員ノ數ヲ以テ諸候補者カ得タル投票ノ總數ヲ除シ之ニ因テ得タル商數ヲ以テ各黨ノ候補者カ得タル投票ノ數ヲ除スルトキハ各黨ヨリ出タスヘキ議員ノ割合ヲ得ヘシ今一例ヲ舉テ之ヲ詳カニセシ一撰舉區内ニ甲乙丙丁ノ四政黨アリ甲黨ノ候補者ハ三萬ノ投票ヲ得乙黨ノ候補者ハ二萬丙黨及ヒ丁黨ノ候補者ハ各一萬ノ投票ヲ得合計各黨ノ候補者カ得タル投票ノ總數七萬ナリ

ト假定セヨ此場合ニ於テ其撰舉區ヨリ七人ノ議員ヲ出サ、ルヘカラストセハ先ッ議員ノ數七ヲ以テ投票總數七萬ヲ除スヘシ然ルトキハ其商數一萬トナルカ故ニ此數ヲ以テ更ニ各黨ノ候補者カ得タル投票ノ數ヲ除スレハ即チ各黨ヨリ出タスヘキ議員ノ數ヲ得ヘシ其割合左ノ如シ

甲黨	投票者	三萬人	議員	三人
乙黨	同	二萬人	同	二人
丙黨	同	一萬人	同	一人
丁黨	同	一萬人	同	一人
合計	同	七萬人	同	七人

右ノ方法ヲ以テ各黨ヨリ出タスヘキ議員ノ數ヲ定ムルトキハ孰レノ政黨ニ於テモ決シテ不平ヲ唱フルノ理ナカルヘシ何トナレハ各黨其力ニ應シテ相當ノ代表者ヲ得レハナリ

第二ノ目的即チ各政黨内ニ於テ最モ名望ノ高キ者ヲシテ其黨ノ代表者ヲラシムルニハ之ヲ如何スヘキヤ曰ク各黨ノ候補者中最モ多數ノ投票ヲ得タル者ヲ

以テ當撰人ト爲スヘシ今ツレ同黨ニ屬スル撰舉人中ニ於テモ候補者ヲ撰定スルニ付キ各嗜好スル所ヲ異ニスルコトアリ前例ニ就テ之ヲ言ヘハ甲黨三萬ノ撰舉人中ニ在テモ或ル一部分ハ候補者ヲ以テ最モ能ク自黨ヲ代表スルニ足ルモノト信シ他ノ一部分ハ候補者ヲ以テ最モ適當ノ人物ナリト認ムルコトアルヘシ故ニ其候補者中自黨ヨリ出タスヘキ議員ノ數ニ滿ルマテ順次最多數ノ投票ヲ得タル者ヲ以テ當撰人ト爲スヘキナリ

右ハ諸君ヲシテ了解シ易カラシメンカ爲メニ極メテ簡便ナル一例ヲ假設シテ之ヲ説明シタリト雖トモ實際此投票法ヲ適用スルニ當リ甚タ困難ナルコトアルヘシ請フ更ニ一例ヲ示サン茲ニ一撰舉區ヨリ七人ノ議員ヲ出タスヘキ場合ニ於テ其區甲乙丙ノ三政黨ニ分レ左ノ如キ結果ヲ生シタリト假定スヘシ

甲黨	投票者	八千四百十五
乙黨	同	五千六百八十
丙黨	同	三千七百二十五
合計		一萬七千五百五十

然ルニ前述ノ方法ニ依リ議員ノ總數七ヲ以テ投票ノ總數一萬七千五百五十ヲ除スルトキハ二千五百零七ナル商數ヲ得ヘシ此數ヲ以テ更ニ各黨カ得タル投票ノ數ヲ除スルトキハ甲黨ハ三ト六百二十四ノ殘數ヲ得、乙黨ハ二ト六百六十六ノ殘數ヲ得又丙黨ハ一ト千二百十八ノ殘數ヲ得ヘシ故ニ其撰舉區ヨリ七人ノ議員ヲ出タサ、ルヘカラサル前示ノ計算ニ依レハ當撰議員ハ六人ニ過キス爾レハ自餘ノ一人ハ孰レノ政黨ヨリ之ヲ出タスヘキガ曰ク其最モ簡便ナル方法ハ殘數ノ最モ多キ政黨ヨリ之ヲ出タスニ在リ此例ニ依レハ丙黨ノ殘數最モ多キカ故ニ其一人ハ丙黨ヨリ之ヲ出スヘシ

然レトモ右ノ方法ヲ用井ルトキハ甚タ不公平ノ結果ヲ生スルヲ免レス看ヨ前例甲黨ハ投票者八千四百四十五ニシテ三人ノ議員ヲ出タスカ故ニ二千七百十五人ニ付キ一人ノ議員ヲ得タルノ割合ナリ又乙黨ハ投票者五千六百八十ニシテ二人ノ議員ヲ出タスカ故ニ二千八百四十人ニ付キ一人ノ議員ヲ得タルノ割合ナリ然ルニ丙黨ハ投票者僅カニ三千七百二十五ニシテ二人ノ議員ヲ出タストキハ即チ千八百六十二人ニ付キ一人ノ議員ヲ得タルノ割合ト爲リ彼レ甲乙ノ

兩黨ニ比スレハ實ニ莫大ノ差アリト謂ハサルヘカラス
 是ニ於テカ右不公平ナル結果ヲ矯正センカ爲メニ白耳義ノ學者ドント氏ハ一
 選舉區ヨリ選出スヘキ議員ノ全數ヲ各政黨間公平ニ分配スルヲ得ヘキ一定ノ
 法數ヲ發見スルノ方法ヲ案出セラレタリ氏ハ其法數ヲ稱シテ分配數(Chiffre de
 partiteur)ト呼ヘリ今此法數ヲ以テ各黨ノ候補者カ得タル投票ノ數ヲ除シ其得タ
 ル所ノ商數ヲ合スレハ即チ議員ノ全數ト同數タルヘシ然ラハ則チ如何ニシテ
 此分配數ヲ得ヘキヤ曰ク先ツ一二三四五等ノ數ヲ以テ各黨ノ候補者カ得タル
 投票ノ數ヲ除シ其得タル所ノ商數ヲ大小ニ依リ順次並列シテ其選舉區ヨリ出
 タスヘキ議員ノ全數ト同順ニ當ルモノハ是レ即チ分配數ナリ請フ前例ニ付テ
 之ヲ詳カニセン
 甲黨ノ候補者ハ八千四百四十五、乙黨ノ候補者ハ五千六百八十、丙黨ノ候補者ハ三
 千七百二十五ノ投票ヲ得タリ今此三个ノ數ヲ一二三四五等ヲ以テ除スルトキ
 ハ即チ左ノ如キ商數ヲ得ヘシ

甲黨	
$8145 \div 1 = 8145$	
$8145 \div 2 = 4072$	
$8145 \div 3 = 2715$	
$8145 \div 4 = 2036$	
$8145 \div 5 = 1629$	
乙黨	
$5680 \div 1 = 5680$	
$5680 \div 2 = 2840$	
$5680 \div 3 = 1893$	
$5680 \div 4 = 1420$	
丙黨	
$3725 \div 1 = 3725$	
$3725 \div 2 = 1862$	
$3725 \times 3 = 1241$	

此商數ヲ其大小ニ依リ順次並列スルトキハ即チ左ノ如シ

- 第一 八千四百四十五
- 第二 五千六百八十
- 第三 四千零七十二
- 第四 三千七百二十五
- 第五 二千八百四十
- 第六 二千七百十五
- 第七 二千零三十六
- 第八 一千八百九十三
- 第九 一千八百六十二

- 第十 一千六百二十九
- 第十一 一千四百二十
- 第十二 一千二百四十一

然ルニ其選舉區ヨリ七人ノ議員ヲ出タスヘキモノト假定セシヲ以テ右第七ノ數即チ二千零三十六ハ是レドント氏ノ所謂分配數ナリ試ミニ此數ヲ以テ甲乙丙ノ各黨候補者カ得タル投票ノ總數ヲ除スレハ即チ左ノ如シ

$$\begin{array}{r} \text{甲黨} \\ \hline 8145 \div 2036 = 4 \\ \\ \text{乙黨} \\ \hline 5680 \div 2036 = 2 \\ \\ \text{丙黨} \\ \hline 3725 \div 2036 = 1 \end{array}$$

故ニ甲黨ハ四人、乙黨ハ二人、丙黨ハ一人合計七人ノ議員ヲ算定スルコトヲ得ヘシ而シテ此方法ヲ以テ各黨ヨリ出タスヘキ議員ノ數ヲ定ムルトキハ孰レノ政黨ト雖トモ決シテ不平ヲ唱フルノ理ナシ何トナレハ各黨共ニ同一ノ準繩ヲ以テ其數ヲ定ムレハナリ但シ此方法ヲ用井ルモ尙ホ多少ノ幸不幸アルヲ免レス

モ是レ實ニ已ムヲ得サルノニ他ニ上策ナキヲ奈何セン
右比例分配連名投票法ハ政黨ノ組織確立スルニ非サレハ以テ之ヲ行ヒ難キヤノ感ナキニ非ス然レトモ是レ唯皮想ノ見タルノニ余カ上來常ニ政黨ヲ以テ選舉人ノ種類ヲ區別シタルハ諸君ヲシテ了解シ易カラシメシカ爲メニシテ必スシモ政黨ノ組織アルヲ要セス今ツレ選舉人カ選舉場裡ニ臨ンテ勝利ヲ得ント欲セハ必ス一ノ團體ヲ組織セサルヘカラス而シテ其結合ノ一時ノモノタルト永久ノモノタルトハ固ヨリ問フ所ニ非サルナリ果シテ然ラハ尙モ代議政体ノ治下ニ在テハ此投票法ヲ行ヒ得ヘキヤ知ルハキノミ

此比例分配連名投票法ハ今日ニ至ルマテ歐米諸國ノ學者カ發明シタル選舉法中最モ代議政体ノ本旨ニ適合シタルモノト謂ハサルヘカラス然レトモ其發見セラレテヨリ日尙ホ淺キヲ以テ之ヲ實行セル國未タ多カラス余ノ知ル所ニ依レハ獨リ南亞米利加アルジャヤンタイン共和國ノプユエノゼール州アルノミ同國千八百七十三年ノ憲法第四十五條ニ於テ比例代表ノ原則ヲ規定シ其後千八百七十六年十月二十三日ノ法律ヲ以テ比例分配連名投票法ヲ採用シ今日ニ至

ルマテ尙ホ之ヲ實行シ來レリ又現今白耳義及ヒ瑞西ニ於テハ熾ニ此投票法ヲ主張セリ殊ニ白國ニ於テハ既ニ議院ニ提出セリト聞ク惟フニ此等ノ國ニ於テハ數年ヲ出テスシテ實行スルニ至ルナラン

之ヲ要スルニ比例分配連名投票法ハ歐米ノ學者中種々ノ反對說ナキニ非スト雖トモ今日マテ實行シ來レル他ノ投票法ニ比スレハ數等優リタルモノト謂ハサルヘカラス而シテ之ヲ一見スルトキハ頗ル複雑ナルカ如シト雖トモ是レ唯理論上然ルノミ實際之ヲ行フニ當テハ敢テ困難ナルヘシト信ス而モ今日ニ至ルマテ歐米諸國ニ於テ此投票法ノ行ハレ難キ最大原因トモ云フヘキハ蓋シ現在多數選舉ノ原則ニ依リテ選出セラルタル議員ノ爲メニ甚ク不利益ナルヲ以テナリ尙ホ此投票法ノ事ニ付テハ種々論スヘキモノアリト雖トモ冗長ニ尖スルノ嫌アルヲ以テ此ニ止メシ諸君若シ余カ詳說ヲ知ラント欲セハ請フ余ノ著多數選舉ノ弊附矯正策ト題スル小冊子ニ就テ之ヲ看ラレヨ

第三 選舉ノ區畫

議員ヲ選舉スルニ付キ一ノ緊要ナル問題ハ選舉區畫ノ事是ナリ此問題ヲ分拆

選舉ノ區

選挙ノ區
選挙ノ區畫
選挙ノ區畫
選挙ノ區畫

連名投票說

スレハ即左ノ如シ

- 一、選舉區ヨリ一人ツハ議員ヲ出タスヘキヤ將テ連名投票ヲ用ヒ一選舉區ヨリ數人ハ議員ヲ出スヘキヤ

更ニ之ヲ換言スレハ

選舉者一人ニ一個ノ投票權ヲ與フヘキヤ將テ數個ノ投票權ヲ與フヘキヤト謂フノ論點ニ歸着ス此問題ハ佛蘭西等ニ在テハ非常ニ露々タリシ所ニシテ二者孰レモ利害得失アリ且ツ各有力ナル主唱者アリ近世雷名ヲ轟カセタル彼ノガンベッタ氏カ時ノ内閣總理大臣ヲ辭セシムルニ至リタル如キモ實ニ此問題ニテアリシナリ

連名投票說即チ撰舉區畫ヲ廣クセヨト主張スル論者ノ論據トスル所ヲ聞クニ乃チ曰ク今ツレ撰舉區畫ヲ狹少ニ爲スルハ一地方ノ事情非常ニ勢力ヲ有シ僅カニ一部分ノ事情ニ因テ議員ヲ撰舉スルニ至ル詳言スレハ其撰舉區ニ在リテ或ハ巨額ノ財産ヲ所有シ或ハ其區内ニ於テ權力ヲ有スル者ハ毎子ニ當撰サルハコト是ナリ而シテ其ニ地方ノ一部分ニ於テ撰舉人ニ對シ勢力ヲ有スル者ハ

果シテ議員タルニ適當ナル人物ナリヤ否往々不適當ナル人物ノ出ツルコトアリ且ツ撰舉區狹少ナルトキハ撰舉人ヲ腐敗セシムルニ甚タ便利ナリト謂フベシ即チ撰舉區狹少ナルトキハ隨テ撰舉人モ少數ナルヲ以テ賄賂其他ノ術策ヲ施スコト容易ナリ是故ニ撰舉人ヲシテ自由ナル撰舉ヲ行ハシムルヲ得ス然ルニ若シ撰舉區畫ヲ廣大ニシ例ヘハ一府縣ヲ以テ一撰舉區ト爲ストキハ第一賄賂ノ弊ヲ防キ且ツ其最モ大ナル利益ハ議院内ニ於テ強大ナル政黨ヲ組織シ得ルコト是ナリ其故何ソヤ他ナシ一府縣ヲ以テ一撰舉區ト爲スカ如ク其區畫ヲ廣大ニスルトキハ必スヤ連名投票ヲ用ヒサルヘカラス既ニ連名投票ヲ用ヒ而シテ選舉人ノ投票ヲ集メンニハ亦必スヤ各候補者中ニ於テ主義ヲ同フスル輩ノミ一致シテ運動ヲ爲サハルヘカラス果シテ然ラハ一府縣内ニ於テ主義ヲ以テ集マル團體少數ト爲リ此ノ如クニシ一大團體ヲ組織シ以テ選舉ヲ行フ曠ニハ議員トシテ選出セラレタル者モ亦議院内ニ於テ主義ヲ以テ集マリ強大ナル團體ヲ組織シ得ルニ至ルヤ蓋シ必然ノ勢ナレハナリト

是ヨリ一名投票説又主張スル論者ノ論據トスル所ヲ述ヘンニ彼レ連名投票ヲ

一名投票説

主張スル論者ノ鐵壁トスル論點ハ選舉區畫ヲ廣大ニシテ連名投票ヲ用ユルトキハ勢ヒ議院内ニ於テ強大ナル政黨ヲ組織シ得ルニ至ルト謂フニ在レトモ實際ノ狀況ニ就テ之ヲ觀レハ大ニ然ラサルモノアリ現ニ佛國ニ於テハ千八百八十五年ニ一名投票ノ制ヲ廢シテ連名投票法ヲ用ヒ同年此法ニ依テ選舉ヲ行ヒタルニ實ニ彼輩論者カ豫想外ノ惡結果ヲ生シタリ何ソヤ極端論ヲ主唱スル無數ノ小政黨カ一致合同シテ以テ國民中最多數ヲ占ムル所ノ大政黨ヲ排斥スルコト是ナリ

連名投票ノ弊害

諸君モ知ラル、如ク佛國ニ於テハ共和帝政ノ二大政黨樹立シ共和黨中亦數派アリ之ヲ大別スレハ穩和派過激派ノ二ニシテ其内最モ勢力アル者ハ穩和共和黨是ナリ而シテ千八百八十五年ノ撰舉ノ際過激共和黨ハ徹頭徹尾共和政府ニ反對セル帝政黨ト合同シ爲メニ穩和共和黨ノ數ヲ非常ニ減少セリ實ニ當年ノ議院内ノ光景ヲ通觀スレハ毫モ從前ト異ナル所ナク帝政穩和共和過激共和ノ數黨派ニ分レ彼レ連名投票論者カ希望セシカ如キ強大ナル政黨ヲ組織スルヲ得ス否一名投票法ヲ用ヒタル時ヨリモ尙ホ一層小政黨ノ紛爭太甚シ

右ノ一例ニ徴シテ之ヲ看ルモ苟モ一國內ニ確然タル大政黨ノ組織セラレサル
限リハ連名投票法ヲ用ユルモ決シテ好結果ヲ生セス管ニ好結果ヲ生セサルノ
ミナラス大ニ弊害ノ存スルモノアリ撰舉人中ノ少數者ニ代表者ヲ得セシメサ
ルコト是レ其一ナリ此点ニ付テハ前段ニ於テ詳論セシヲ以テ復々贅セス唯茲
ニ一言スルニ止ムヘシ夫レ一府縣ヲ以テ一撰舉區ト爲シ而シテ連名投票ヲ用
ユルトキハ其區内ニ通シ其區内ニ在ル所ノ多數者ノミ之カ代表者ヲ得ルニ至
ルヲ以テ勢ヒ少數者ハ其代表者ヲ得ル能ハス然ルニ今若シ一府縣ヲ數多ノ撰
舉區ニ分畫シ而シテ一名投票ヲ用ユルトキハ東區ニ於テハ甲黨勝ヲ制シ西區
ニ於テハ乙黨多數ヲ占メ又南區ニ於テハ東西兩區ニテ失敗シタル丙黨當撰ス
ルカ如クナルニ至ルヲ以テ多數代表法ヲ行フモ亦幾分カ少數者ニ其代表者ヲ
得セシムルノ餘地アリト謂フヘキナリ

又連名投票法ヲ用ユルトキハ撰舉人ト被撰人トノ間ニ相識ノ交ナク世俗所謂
盲目撰舉ヲ爲スニ至ルコト是レ其弊害ノ二ナリ從來撰舉法ノ行ハルノ國ノ實

狀ニ就テ之ヲ看ルニ連名投票ヲ用ユルトキハ孰レモ一府縣ノ首府ニ有志者集
會シテ豫メ若干名ノ候補者ヲ定メ之ヲ其府縣内ニ配布シ撰舉人ヲシテ其候補
者ノ爲メニ投票セシメシコトヲ努ムルモノトス是故ニ實際候補者ヲ撰定スル
ノ全權ハ首府ニ集會セル有志者ノ手ニ歸シ各地方ニ散在スル所ノ撰舉人ハ自
己ノ代議士タルヘキ人ノ面相タモ知ラスシテ投票ヲ爲スコト往々然リ蓋シ代
議政体十分ニ發達シ國民政治上ノ教育程度高クナルニ至リ眞ニ自己ノ代表者
ヲ選定スルノ見識具ハル曉ニハ連名投票法ヲ用ユルコトヲ得ルモ代議政体ノ
未タ幼稚ナル國ニ在テハ頗ル弊害ノアル投票法ナリト謂フヘシ

彼レ連名投票說ヲ主張スル論者ハ頻リニ此法ニ因テ賄賂ヲ防クコトヲ得ト謂
フモ是亦然リト斷言スルヲ得ス知ラス撰舉區ノ廣キニ隨ヒ賄賂ノ普子ク行ハ
ルコトナキヤヲ故ニ撰舉區ノ廣狹如何ニ因テ賄賂ノ弊ヲ論スヘカラス之ヲ
防クノ方法ハ必スヤ他ニ之ヲ索メサルヘカラス

之ヲ要スルニ余ハ今日ノ如ク多數代表法ヲ用ヒ且ツ國民政治上ノ教育未タ發
達セサル我邦ノ如キ寧ロ一區一名ノ制度ヲ用ユルヲ以テ可ナリト信ス前段ニ

於テ之ヲ陳ベタル如ク他國ノ經驗ニ就テ之ヲ見レハ佛國ハ連名投票ノ弊ヲ感シ千八百八十九年ニ既ニ之ヲ廢止シ近年伊國ニ於テモ亦之ヲ廢止シタリ如此各國連名投票ノ弊ニ懲リ之ヲ廢止スルノ時ニ當リ連名投票法ヲ我國ニ輸入セントスルハ策ノ得タルモノト謂フ可カラズ

衆議院ノ組織ニ關シテ研究スヘキ重要ナル問題ハ上來既ニ略述シ了レリ尙ホ茲ニ二三ノ論究スヘキモノアリ議員ノ資格審査議員ノ在職期限及ヒ議員ノ歳費等ニ關スル問題はナリ是レ亦組織ニ關スルヲ以テ本款ニ於テ論スルノ必要アリト信ス

議員ノ資格審査

議員ノ資格審査

衆議院ヲ組織スヘキ議員トシテ議場ニ列席センニハ須ラク法律ノ規定ニ從ヒ正當ニ撰舉セラレタルコトヲ要ス然ルニ今若シ某議員ノ議場ニ列席スルヲ得ルヤ否ヤニ付キ異議ヲ生シタルトキハ之ヲ如何スヘキヤ議員ノ資格審査問題トハ即チ之ヲ謂フナリ現ニ歐米諸國ニ行ハルハ所ノ實例ニ就テ之ヲ看ルニ余ノ記憶スル所ニ依シテ英國ヲ除クノ外何レノ國ニ於テモ議員ノ資格審査權ハ

議院自ラ之ヲ有シ異議ノ生スルト否トニ拘ハラズ先ツ其撰出セラレタル議員ハ果シテ議員タルノ資格ヲ具フルヤ否ヤヲ審査シ而シテ議員タルノ資格ヲ有スルコト確定シタル上茲ニ始メテ本議事ニ着手スルヲ以テ一般ノ常慣トセリ願ミテ我邦議院法ノ規定スル所ニ依レハ其第七十八條ニ曰ク衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付キ異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシト爾レハ我邦ニ於テハ議員ノ資格ニ付キ異議ヲ生シタルトキ之ヲ審査スルモノニシテ彼ノ歐米諸國ノ如ク議員ノ資格ヲ審査決定シタル後ニ議事ニ着手スルモノニアラス歐米諸國ノ制ニ優ルト謂フヘシ何トナレハ異議ナキニモ拘ハラズ空シク數多ノ時日ヲ費ヤスハ實ニ無益ノ業タルヲ以テナリ

右議院法第七十八條ニ依レハ議員ノ資格ニ付キ云々トアルヲ以テ議員タル資格ノ如何ナル点ニ付キ異議ヲ生シタルトキト雖モ總テ之ヲ審査決定スルヲ得ヘキカ如シ然ルニ我衆議院ニ於テハ本條ニ關シ甚タ狹隘ナル解釋ヲ下シ所謂議員ノ資格トハ被撰資格ヲ指示スルモノニシテ之ニ付テ異議ヲ生シタルトキ

和議
の
後
の
議
院
の
組織
に
關
し
て
の
論
議

議員資格
被選資格
ノ別

ノミ審査決定スルノ權アリトノ議決ヲ爲シタリ余ハ此議決ニ付キ甚ク疑ヲ抱クモノナリ否衆議院ハ全ク法文ノ意義ヲ誤解シタリト確信スルモノナリ仍テ以下聊カ其然ル所以ヲ辯明シ以テ爾來衆議院ノ說ヲ變改センコトヲ努メントス我衆議院ニ於テ議員ノ資格審査ニ關シ前示ノ如キ議決ヲ爲スニ至リタルハ實ニ右第七十八條ニ所謂議員ノ資格ナル文字ヲ被選資格ト解セシニ由ル余ノ見ル所ニ依レハ議員ノ資格トハ同法第七十七條ニ所謂被選ノ資格ト全ク其意義ヲ異ニシ決シテ混同スヘキモノニ非スト信ス而シテ此問題ヲ決センニハ須ヲ先ツ議員ノ資格トハ抑モ如何ナルモノナルヤヲ論定セサルヘカラス既ニ議員ノ資格ノ何物タルコト明カナルニ至ラハ蓋シ思ハ半ハニ過キサルノミ余ハ第七十八條ニ所謂議員ノ資格ナル文字ニ左ノ如キ定義ヲ與ヘントス
資格トハ或ル權利ヲ享有スル爲メニ必要ナル條件ヲ謂フ

例ヘハ撰舉資格トハ撰舉法第六條ニ規定セル所ノ總テノ條件ヲ謂ヒ又被選資格トハ同法第八條以下ニ規定セル所ノ總テノ條件ヲ謂フ即チ此等ノ條件ヲ具備スル者ハ或ハ撰舉人タリ或ハ被選人タルノ資格ヲ有スルモノニシテ其撰舉

議員資格
必要ナル
條件

人タリ被選人タルノ權利ヲ享有セシニハ此等ノ必要條件ヲ具備セサルヘカラス議員ノ資格ニ於ケルモ亦然リ議員タルノ權利ヲ享有セシニハ之ニ必要ナル總テノ條件ヲ具備セサルヘカラス其條件トハ何ソヤ曰ク

第一 被選人タルノ資格ヲ具フルコト

第二 合法ノ手續ニ依テ當選シタルコト

是ナリ故ニ若シ此二條件中其一ヲ欠ケハ乃チ眞ニ議員ノ資格ヲ有スルモノト謂フヘカラス如何トナレハ合法ノ手續ニ因テ當選シタルモ若シ被選人タルノ資格ヲ具ヘサルトキハ未タ以テ議員ナリト認ムルヲ得ス又被選人タルノ資格ヲ具フルモ若シ合法ノ手續ニ因テ當選シタルニ非サルトキハ亦以テ議員ナリト認ムルヲ得サレハナリ知ルヘシ眞ニ議員タルノ資格ヲ有センニハ必ス前示二個ノ條件ノ具備スルヲ要スルコトヲ

議員ノ資格ナル意義果シテ斯ノ如クンハ反對論者ノ所謂被選資格トハ全ク別物ナルコト自ラ釋然タラシク試ミニ被選資格ニ必要ナル條件ヲ擧クレハ即チ左ノ如シ(撰舉法第八條以下)

第一 日本臣民ニシテ滿三十歳以上ノ男子タルコト

第二 撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上所得稅ニ付テハ滿三年以上

其撰舉府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍ホ引續キ納ムル者タル

コト

第三 撰舉法又ハ他ノ法律ノ規定ニ依リ被撰入タルヲ得サルニ非サル者タルコト

其レ斯ノ如ク議員ノ資格ト被撰ノ資格トハ全ク別物ナリ隨テ撰舉法第八條以下ニ規定セル所ノ諸條件ヲ具備スルトキハ即チ被撰資格ヲ有スト謂フヲ得ヘキモ未タ以テ議員タルノ資格ヲ有セス議員タルノ資格ヲ有センニハ尙ホ合法ノ手續ニ因テ當撰シタルヲ必要トス爾レハ議院法第七十八條ニ所謂議員ノ資格トハ決シテ被撰資格ヲ指スニ非サルヤ明カナリ若シソレ然ラス立法者ノ精神反對論者ノ所説ノ如ク被撰資格ヲ指スニ在ランカ何爲ソ故ラニ議員ノ資格ナル文字ヲ用非ンヤ看ヨ其前條即チ第七十七條ニハ明カニ被撰資格ナル文字ヲ用非タルニ非スヤ接近シタル條下ニ於テ若シ同一ノ事ヲ言ハント欲セハ必

スヤ亦同一ノ文字ヲ用ユヘシ其用文ノ相異ナルハ實ニ其事ノ相同シカラサルヲ以テナリ反對論者ハ文字ノ相異ナルハ未タ以テ意義ノ相同シガラサル證據ト爲スニ足ラスト説クモ其理由ヲ明言セサリシハ憾ムヘシ
蓋シ右第七十七條及ヒ第七十八條ハ共ニ第十五章退職及ヒ議員資格ノ異議ト題セル中ニ在リ其第一ハ既ニ議員ノ資格ヲ有スル者カ後日ニ至リテ被撰資格ヲ失フニ因リ退職者ト見做サル、事ヲ規定シ第二ハ撰舉ノ當初ヨリ議員ノ資格ニ付キ異議ノ生シタル場合ノコトヲ規定スルモノニシテ前後ノ二者全ク相異ナレリ(第十五章中第七十六條及ヒ第七十七條ハ退職者ニ關シ第七十八條ニ關シ第七十九條乃至第八十條ハ議員ノ資格審査ニ關スル規定ナリト知ルヘシ)而シテ退職者ニ關スル第七十七條ニ被撰ノ資格トアルハ是レ以テアリ其レ法律上退職者ト稱スル以上ハ既ニ一タヒ議員タリシ者カ其職ヲ退クノ義ニシテ其職ヲ退クニ至ルマテハ議員タル正當ノ資格ヲ有セシモノト認定セサルヲ得ス故ニ退職者ニ關シテハ撰舉ノ有效ナルヤ將タ無効ナルヤノ問題ヲ生スルニ由ナシ如何トナレハ撰舉ノ有效無効ハ撰舉ノ當時ニ溯リテ之ヲ判定セサルヘカラス然ルニ當初無効タリシモノカ後日ニ至リテ有效ト爲ルノ理ナク必スヤ有

效無効孰レカ其一ニ居ラサルヘカラサルカ故ニ若シ無効ノ撰舉ニ因テ當撰人ト爲リ後日其事ノ發覺シタル場合ノ如キハ是レ退職者ニ非スシテ當初ヨリ其資格ヲ有セサリシモノナレハナリ是レ第七十七條ニ於テハ被撰ノ資格ナル文字ヲ用ヒシ所以ナリトス

前述ノ如ク我議院法第七十七條ニ於テ被撰ノ資格ナル文字ヲ用ヒタルハ即チ此文字ヲ用ヒサルヘカラサルノ理由アレハナリ又第七十八條ニ於テ議員ノ資格ナル文字ヲ用ヒタルモ同ク此文字ヲ用フルノ要アレハナリ請フ其然ル所以ヲ陳述セン

凡ソ議員タルノ資格ヲ有センニハ必スヤ被撰資格ヲ具ヘ且ツ合法ノ手續ニ因テ當撰シタルヲ要ス是レ既ニ述ヘタル所ナリ故ニ當撰人ニシテ果シテ議員タルノ資格ヲ具備シ議場ニ列席スルヲ得ルヤ否ヤニ付キ異議ノ生スルコトアルハ當ニ被撰資格ニ付テ然ルノミナラス尙ホ撰舉ノ正當ナリヤ否ヤニ付テモ亦然リトス是レ我立法者カ第七十八條ニ於テハ被撰ノ資格ナル文字ヲ用ヒス特ラニ議員ノ資格ト明記シタル所以ナラシ論シテ此ニ至レハ第七十七條ノ被撰

ノ資格ナル文字モ又第七十八條ノ議員ノ資格ナル文字モ其義明了ニシテ枉ケテ解釋スルヲ須クサルナリ

我衆議院ハ議員ノ被撰資格ナラテハ審査スルノ權ナシト主張スル論者ノ言ニ曰ク若シ撰舉ノ當否ニ至ルマテ之ヲ決定スルノ權アリトセハ司法權ト立法權ト相抵觸スルノ恐レアリ且ツ撰舉ノ當否ヲ審査センニハ勢ヒ事實ノ點ニ立入ラサルヘカラス然ルニ立法院ハ時間ヲ有セサルヲ以テ實際之ヲ審査スルコト能ハスト此說タル毫モ取ルニ足ラス今其レ論者ノ言ヲシテ若シ正當ナリトセンカ被撰資格ノ審査ニ至テモ亦倅シク爾カ云フヲ得ヘケレハナリ看ヨ司法裁判所ハ被撰問題ニ付テモ亦之ヲ裁判スルノ權利ヲ有スルニ非スヤ既ニ司法裁判所之ヲ有シ議院亦之ヲ審査スルノ權利アリ然ラハ即チ司法權ト立法權ト相抵觸スルノ辭柄ヲ以テ議院ニ撰舉ノ當否ヲ審査スルノ權利ナシト謂フヲ得サルヤ知ルヘキノミ又被撰問題ニ付テモ猶ホ當撰訴訟ニ於ケルカ如ク勢ヒ事實ノ點ニ立入ラサルヘカラス例ヘハ實際若干ノ稅額ヲ納ムルヤ否ヤ又瘋癲白癡ニ非サルヤ否ヤ等ヲ審査セサルヘカラサルカ如シ

彼レ反對論者カ斯ノ如キ議論ヲ爲スハ實ニ撰擧法ニ規定セル所ノ當撰訴訟ト
 議院法ニ規定セル所ノ資格審査トノ性質ヲ詳カニセサルニ坐ス蓋シ議員ノ資
 格審査權ヲ衆議院ニ附與シタル所以ノモノハ惟フニ真正ナル代議士ニ非ス
 ハ以テ議事ニ參與セシメサルニ在リ而シテ其正否ヲ識別センニハ單ニ被撰資
 格ノ有無ノミニ止マラス尙ホ正當ノ手續ニ依テ當撰シタルモノナルヤ否ヤヲ
 モ之ヲ審査決定セサルヘカラス議院若シ此審査權ナシトセンカ議員タルノ資
 格ヲ具ヘスシテ議場ニ列席スル者アルノ結果ヲ生セン豈慎マサルヘケンヤ
 然ルニ撰擧法ニ規定セル所ノ當撰訴訟ノ目的タル全ク之レト異ナリ當撰ヲ失
 ヒタル一個人ノ權利ヲ保護スルニ在リ即チ當撰訴訟トハ當撰人ト當撰ヲ失ヒ
 タル者トノ間ニ起ル所ノ訴訟ニシテ常ニ當撰人被告タリ當撰ヲ失ヒタル者原
 告タルヲ以テモ尙ホ之ヲ知ルニ足ランカ撰擧法第七十八條以下
 右ノ如ク當撰訴訟ト議員ノ資格審査トハ其性質全ク相異ナリ即チ一ハ議院ノ
 尊嚴ヲ維持センカ爲メニシテ一ハ一個人ノ權利ヲ保護センカ爲メナリ隨テ一
 ハ三十日ヲ以テ出訴ノ期間ト爲シ且ツ訴訟ヲ起シ得ヘキ人ハ單ニ當撰ヲ失ヒ

タル者ノミニ限レドモ資格審査ニ至リテハ異議申立ノ期限ナク且ツ議員タル
 以上ハ何人ト雖トモ異議ヲ申立ツルコトヲ得
 尙ホ外國ノ例如何ヲ觀察スルニ唯英國ヲ除ク外悉ク資格審査權ヲ議院ニ附與
 シタリ又英國ト雖トモ撰擧ニ關スル訴訟ヲ全ク司法裁判所ノ管轄ニ歸シタル
 ハ實ニ近年ノ事ニシテ即チ千八百六十八年以來始メテ此權ヲ司法裁判所ニ與
 ヘタリ然レトモ我衆議院ノ議決セシカ如ク當撰訴訟ハ司法裁判所ニ於テ裁判
 シ被撰問題ハ議院ニ於テ審査スト云フカ如キ制度ハ各國未ダ曾テ有ラサル所
 ナリ
 之ヲ要スルニ各國ノ實例法文ノ解釋及ヒ理論上ヨリ之ヲ觀察スルモ我衆議院
 カ有スル所ノ議員ノ資格審査權ハ實ニ被撰資格ノ有無ノミニ止マラス進ンテ
 撰擧ノ當否ニマテ及フモノナリト斷言セサル可カラズ故ニ余ハ徹頭徹尾我衆
 議院ノ議決ニ反對スルモノナリ
 終リニ臨ンテ尙ホ一ノ論究スヘキモノアリ何ツヤ曰ク立法上ノ可否如何即チ
 是ナリ此點ニ付テハ余ハ寧ロ英法ヲ以テ可トスル論者ナリ他ナシ佛國ノ實例

ニ徴スルニ議院ハ資格審査ヲ口實トシテ撰舉ヲ無効ニシ以テ反對黨ノ議員ヲ
斥クルコト往々之アルヲ以テナリ蓋シ議院ニ資格審査權ヲ附與シタルハ其初
メ行政部ノ干涉ヲ恐レタルニ職由セリ然ルニ今ヤ制度大ニ改革シ司法權全ク
獨立スル曉ニハ舉テ司法裁判所ニ委スルヲ以テ却テ利益アリト信ス

議員ノ數

議員ノ數ハ通例人口ノ割合ニ應シテ之ヲ定ム我邦ニ於テハ凡ソ人口十二萬人
ニ付キ議員一人ノ割合ナリ今之ヲ歐米各國ノ實例ニ比スレハ其數甚タ僅少ナ
リト謂フヘシ議員ノ數ハ各國相同シカラス茲ニ其重モナル所ノ實例ヲ舉クレ
ハ米國ハ三百二十五人、西班牙ハ四百三十一人、伊太利ハ五百八十八人、佛蘭西ハ五百
八十四人、英吉利ハ六百七十人ナリ(最近ノ調査ニ依ル)又議員ノ數ハ時代ニ由テ甚タ差異
アリ今佛國ニ付テ之ヲ看ルニ其最モ多カリシハ千七百八十九年革命頃ノ國會
ニシテ當時議員ノ數千四百四十五人ナリシ又議員ノ數今日ヨリモ尙ホ少ナカリ
シハ千八百十四年ノ頃ニシテ當時ハ僅カニ二百五十八人ニ過キザリキ斯ノ如
ク議員ノ數ハ時ト所トニ隨ヒ甚タ異同アリ且ツ理論上豫メ幾人ト之ヲ概定ス

ルコトヲ得スト雖トモ而モ歐米各國ニ於テ今日マテノ經驗ニ徴スレハ議員ノ
數ヲ多クスルハ甚タ弊害アリトス議員ノ數ヲ多クスルトキハ隨テ其人物全体
ニ劣ルコト是ナリ實ニ多數中ニハ英傑俊秀ナル人物アリ得ルモ尙ホ全体ヨリ
觀察スレハ智識經驗ノ度ニ於テ遙カニ劣ル所アリ且其レ議員ノ數多キトキハ
一種不可思議ナル電氣力議員ノ腦裡ヲ支配スルモノニヤ非常ニ感情ニ制セラ
ルハノ傾向アリ即チ少數ノ人相會スルトキハ虚心平氣ニ事物ヲ考究シ得ヘキ
場合ニモ若シ多數ノ人相會スルトキハ往々一時ノ感情ニ制セラレ各、不本意ナ
ル議決ヲ爲スコトアリ而シテ此事實ハ如何ナル理ニ由テ然ルヤト問ハ、之ニ
答フルノ辭ニ苦ム然リト雖トモ是レ今日ニ至ルマテ歐米各國ノ實例ニ徴シテ
爭フヘカラサル所ノ事實ナリ現ニ佛國ニ於テ議員ノ最モ多カリシハ前示ノ如
ク千七百八十九年ノ國會及ヒ其後三四年經テ選舉セラレタル「コンヴェアンシヨ
ン」(Convention)即チ千七百九十三年ノ國會等是ナリ而シテ其議會ノ狀況ヲ觀ルニ
毫モ實際ノ利害得失ヲ考究スルノ暇ナキカ如ク常ニ一二人ノ雄辯家ニ頤史セ
ラル、カ又ハ一時ノ感情ニ制セラレテ諸般ノ議決ヲ爲スニ至レルカ如シ是故

ニ議員ノ數ハ過多ナラサルヲ以テ可トス學者ノ說ニ依レハ三百人以上四百人以下ヲ以テ程度トセリ今我邦議員ヲ三百人ニ限リシハ蓋シ適當ノ數ナラント信ス

議員ノ任期

議員ノ任期

議員ノ任期モ猶ホ議員ノ數ニ於ケルカ如ク今日各國ニ行ハル、所ノ規定ヲ通觀スルニ甚ク區々ナリ而シテ其短キハ三年、長キハ八年ニシテ其間四年、五年、六年及ヒ七年等ナリ又最モ短キハ二年ノ所モアリ今其實例ヲ舉クレハ合衆國ハ二年、普魯西ハ三年、葡萄牙、和蘭及ヒ佛蘭西ハ四年、伊太利ハ五年、澳地利ハ六年、英吉利ハ七年、丁抹ハ八年ナリ

我撰擧法第六十六條ニ依レハ議員ノ任期ヲ四箇年ト定メタリ而シテ議員ノ任期ハ短キモ又長キモ共ニ弊害アリ若シ其レ議員ノ任期ヲ最モ短クセンカ屢々撰擧ヲ行フカ爲メニ人心常ニ動搖シ心靜カニ國務ヲ處理スルコトヲ得ス且議員モ其任期短キカ爲メニ議員タルノ職ニ習熟スルノ逸マナク隨テ其爲ス所往々國益ニ反スルコトアルヲ免レズ之ニ反シテ議員ノ任期ヲ甚ク長クセンカ議員

ハ其地位ニ安ンシテ充分ノ勉勵ヲ爲サス且輿論ニ如何ナル變動ヲ來タスモ毫モ顧ミルコトナク即チ往々輿論ニ反スル議決ヲ爲スニ至ル是故ニ後段ニ至リテ論スルカ如ク若シ議員全數ヲ改撰スルノ制度ヲ採用スルニ於テハ四年ハ蓋シ適當ノ任期ナリト信ス

議員ノ任期ニ關シテ二個ノ問題アリ

補闕當選議員ノ任期如何

第一問 補闕撰擧ノ場合ニ於テ其當撰シタル議員ノ任期如何

我撰擧法ニ於テハ單ニ議員ノ任期ハ四箇年トス「トアリ爾レハ各議員ハ其撰擧セラレタル時ヨリ四年トスヘキヤ將タ補闕撰擧ノ場合ニ於テハ前議員ノ未ダ了ラサリシ期間ヲ以テ其任期トスヘキヤ例ヘハ茲ニ撰擧後二年ニシテ議員ノ職ヲ退キタル者アリ此場合ニ於テ補闕議員ハ殘餘ノ二年ヲ以テ其任期トスヘキヤ將タ全四年ヲ以テ其任期トスヘキヤト云フニ在リ此點ニ付テハ敢テ大ナル議論アルコトナシ即チ前議員ノ殘餘期間ヲ以テ補闕議員ノ任期トス何トナレハ補闕議員ハ乃チ前議員ノ職ヲ承繼シタルモノナレハナリ

議員任期ノ起算點如何

第二問 議員ノ任期四年ハ如何ナル時ヨリ起算スヘキヤ

憲法

例ハハ七月ニ撰舉アリタルトキハ其七月ヨリ起算シ四年目ノ六月マテヲ以テ四年トスヘキヤ將タ他ニ計算ノ方法アリヤ通常ノ場合ニハ何等ノ困難ヲモ生セス即チ明治二十三年七月ニ撰舉セラレタル議員ハ來ル明治二十七年六月ヲ以テ四年ノ任期了ルモノトス然レトモ茲ニ困難ノ生スルハ議院ノ解散ヲ命セラレタル場合はナリ例ハ廿五年十二月ニ議院ヲ解散シ廿六年二月ニ其改撰ヲ行ヒタリト假定セン此場合ニ於テ任期四年ハ如何ニ計算スヘキカ議員ハ明治二十六年一月ニ撰舉セラレタルモノナルカ故ニ來ル明治三十年一月ヲ以テ四年ノ任期満ツルモノトスヘキヤ若シ其レ撰舉ノ時ヨリ起算シテ四年トセンカ此議員ハ通常會期三回ヲ經ルニ過サルヘシ何トナレハ明治廿六年十一月ニ開始スル會期ヲハ第一會期トスルトキハ二十九年ヨリ三十年ニ涉ル會期ノ半バニ於テ滿四今年ニ達スヘケレハナリ然ラハ則チ此議員ノ任期ハ撰舉ノ時ヨリ起算シテ四年ニ非スシテ四回ノ通常會期ヲ經タル後ニ非サレハ四年ノ任期了ラサルモノナリ是レ本問題ニ因テ生スル所以ナリ

此點ニ付テハ憲法議院法及撰舉法等ニ明交ス以テ規定スル所ナシト雖トモ

改撰ノ方

改撰ノ方
 議院ノ改撰ニ關スルハ其事實四會期ノ義ナリト信ス憲法第四十一條ニ曰ク帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス同第四十二條ニ曰ク帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トスト是ニ由テ觀レハ憲法上議會ニ關スル一箇年トハ通常三箇月ナルコト猶ホ宛モ學校ニ於ケル一學年トハ休暇日ヲ除キ十箇月乃至十一箇月ヲ以テスルカ如ク通常三個月ヲ以テ議會ノ一年度ト解セサルヲ得ス爾レハ會期ノ半バニ於テ改撰セラレタル議員ニ付テハ實際或ハ四今年ヨリモ長キコト之アルヘキモ右四會期ヲ了ヘタル後ニ非サレハ四今年ノ任期ヲ滿タシタルモノト謂フヘカラサルヤ以テ推知スヘキノミ

余ハ議員ノ任期四箇年トセルハ其實四會期ノ義ナリト信ス憲法第四十一條ニ曰ク帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス同第四十二條ニ曰ク帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トスト是ニ由テ觀レハ憲法上議會ニ關スル一箇年トハ通常三箇月ナルコト猶ホ宛モ學校ニ於ケル一學年トハ休暇日ヲ除キ十箇月乃至十一箇月ヲ以テスルカ如ク通常三個月ヲ以テ議會ノ一年度ト解セサルヲ得ス爾レハ會期ノ半バニ於テ改撰セラレタル議員ニ付テハ實際或ハ四今年ヨリモ長キコト之アルヘキモ右四會期ヲ了ヘタル後ニ非サレハ四今年ノ任期ヲ滿タシタルモノト謂フヘカラサルヤ以テ推知スヘキノミ

我衆議院議員撰舉法ノ規定ニ依レハ上來述フルカ如ク議員ノ任期ハ四今年ニシテ其期滿ツレハ議員ノ全數ヲ改撰スルノ制度ヲ採用セリ今ヤ此規定ノ是非得失如何

議員全數ヲ改撰スルヲ以テ是トスル論者ノ言ニ曰ク議會ハ須ラク輿論ト平衡セサルヘカラス而シテ議員ト全國ノ輿論ト果シテ意見ヲ同フスルヤ否ヤヲ驗センカ爲メニハ必スヤ其全數ヲ改撰スルコトヲ要ス然ラスンハ竟ニ議會ト輿

論ト相背馳スルニ至ラント

議員全數ヲ改撰スルノ制度ヲ非トスル論者ハ曰ク「若シ其レ議員ノ全數ヲ改撰スルトキハ往々政治上ニ太甚シキ激變ヲ生スルコトアリ之ヲ詳言スレハ新撰議員ハ常ニ前議員ヨリモ異ナリタル事ヲ爲サントノ考案ヲ抱持スルハ是レ人情ノ免レ難キ所ナルヲ以テ前議員ノ爲シタル事ヲ廢棄シ更ニ新業ヲ起スノ傾向アリ且ツ其レ議員全体ヲ改撰スルトキハ往々輿論ノ激變ニ乘シテ撰舉セラレ、モノナルカ故ニ其議員ハ全ク前議員ト反對ノ政畧ヲ施スコトアリ隨テ一國ノ政治上實ニ激烈ナル變動ヲ生スヘシ而シテ此事タル實ニ國家ノ大計ニアラサルナリ今若シ此弊害ヲ防クノ方法アラハ須ラク之ヲ採ラサルヘカラス其方法トハ何ソ他ナシ議員ノ一部ヲ改撰スルコト即チ是ナリ例ヘハ議員ノ任期ヲ六ヶ年トシテ三年毎ニ其半數ヲ改撰シ又ハ任期ヲ九ヶ年トシテ三年毎ニ其三分ノ一ヲ改撰スルカ如シ即チ此方法ヲ用ユルトキハ輿論ニ隨ヒ漸次新元素ヲ議院ニ注入スルヲ以テ一國ノ政治上ニ急激ナル變動ヲ來タスノ憂ナク且ツ其新議員ハ舊議員ノ薰陶ヲ受ケ自ラ議員タルノ職ニ習熟スルノ便ヲ得ヘシ是

故ニ議員ヲ養成スル點ヨリ觀ルモ又急變ヲ防禦スル點ヨリ論スルモ一部改撰ノ制度ヲ採用スルハ國家ノ爲メニ大ニ利益アル所ナリ」ト
今日歐米各國ニ行ハル、所ノ制度ヲ觀察スルニ或ハ議員全數ヲ改撰スルノ方法ヲ採ルモノアリ或ハ議員ノ半數乃至三分ノ一ヲ改撰スルノ方法ヲ用ユルモノアリ而モ全數改撰ノ制度ヲ採用スル所最モ多シトス然レトモ余ノ見ル所ニ依レハ議員ノ任期ヲ六ヶ年ト爲シ三年毎ニ其半數ヲ改撰スルノ制度ヲ用ユルトキハ蓋シ大過ナカルヘシ

議員ノ歳費

議員ニ歳費ヲ給與スヘキヤ否ヤハ古來歐米各國ニ於テ大ニ議論アリシ所ノ問題ナリ隨テ今日此點ニ關スル各國ノ規定ハ甚タ區々タリ英吉利、獨逸、澳大利及ヒ伊太利ノ如キハ議員ニ歳費ヲ給與セス又白耳義、羅馬尼ノ如キハ唯上院議員ニノミ之ヲ給與セス此他ノ國ニ至リテハ概シテ議員ニ歳費ヲ給與スルノ制度ヲ採レリ我邦ノ如キモ亦然リ(皇族公侯爵議員ヲ除ク)
先ツ理論上ヨリ斷定ヲ下セハ其可否果シテ如何

議員ノ歳費

議員ニ歳費ヲ給與スルヲ以テ不可トスル論者ハ曰ク凡ソ議員ト爲リテ國家ノ爲メニ鞠躬盡力スヘキ人物ハ須ラク不羈獨立ノ精神ナクンハアラス然ルニ今若シ議員ニ歳費ヲ給與スルノ制度ヲ採ルトキハ人往々其歳費ニ戀々トシテ議員タランコトヲ熱望シ隨テ撰舉人ニ阿諛スルニ至リ遂ニ議員タルニ最モ必要ナル不羈ノ氣象腐蝕シ去ランノミ是故ニ議員ヲシテ獨立ノ地位ヲ保タシメント欲セハ無私無慾ノ人ヲシテ之ニ任セサルヘカラス彼レ歳費ニ戀々タル者ノ如キハ寧ロ議員タラシメサルニ如カスト

又歳費給與說ヲ主張スル論者ハ曰ク國家ノ爲メニ盡力スル者ハ貴重ナル時間ト努力トヲ消費ス果シテ然ラハ其努力時間ニ對シテ相當ノ報酬ヲ與フルハ實ニ至當ノ事ナリト謂フヘシ且ツ若シ議員ニ歳費ヲ與ヘサルトキハ如何ニ學識アリ經驗アルニモセヨ資産大キカ爲メニ竟ニ議員タルヲ得サルニ至ラン而シテ此ノ如キハ決シテ國家ノ爲メニ望ムヘキノ事ニ非ス是ヲ以テ議員ニ相當ノ報酬ヲ與フルハ極メテ必要ナリトス又實際上或ハ歳費ノ爲メニ不羈獨立ノ精神ヲ腐蝕セラル、者アルヤモ未ク知ルヘカラスト雖トモ此ノ如キ議員ハ歳費

ヲ給與セサルモ尙ホ其獨立心ヲ維持スルコト能ハサル匹夫タルノミ決シテ歳費其物カ獨立心ヲ失ハシムル直接ノ原因タルニ非サルナリト
右ノ如ク兩說各多少ノ理由アリ今ヤ我邦ニ付テ之ヲ論セハ余ハ議員ニ歳費ヲ給與スルヲ以テ適當ノ方法ナリト信ス如何トナレハ我邦今日ノ状態タル概シテ才學兼備ノ士ハ財産ニ乏シキ者多ク又財産ヲ有スル者ハ議員タルノ技倆ヲ備ヘサル者往々之レアルヲ以テナリ若シ其レ國富増進シ財産ト智識ト相平衡スルニ至ラハ寧ロ議員ニ歳費ヲ給與セサルヲ以テ可トスヘキモ我邦今日ノ如キニ在テハ已ムヲ得ス之ヲ給與セサルヘカラス

議員ノ特權

第三款 議員ノ特權

帝國議會ヲ組成スル所ノ貴族院及ヒ衆議院ノ組織ニ付テハ前來既ニ之ヲ説了セリ今ヨリ進ンテ帝國議會ノ職權ニ論及スルニ先タチ茲ニ議員カ有スル所ノ特權ニ付テ一言セサルヘカラス

凡ソ議員ヲシテ充分ニ其職務ヲ盡サシメンニハ須ラク議院内ニ於テ自己ノ本

心ニ隨ヒ其意見ヲ述ヘ及ヒ表決ヲ爲スノ自由ヲ與ヘサルヘカラス又會期中恣ニ行政官ノ干涉ヲ受ケ其身ヲ束縛セラル、カ如クンハ到底其職務ヲ充分ニ盡スコト能ハサルナリ是ニ於テカ我憲法第五十二條及ヒ第五十三條ヲ以テ貴衆兩議院ノ議員ニ或ル制限内ニ於テ左ノ二個ノ特權ヲ附與シタリ

第一 議院ニ於テ發言シタル意見及ヒ表決ニ付キ院外ニ於テ責ヲ負ハサルコト

第二 現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中議院ノ許諾ナクシテ逮捕セラレサルコト

右二個ノ特權ハ所謂議員ノ無責任 (irresponsability) 及ヒ不可侵權 (inviolability) 是ナリ

(附言) 不可侵ノ語適當ナラス其義議員ハ侵スヘカラサル身ト云フニ在リ

今假ニ世上ノ慣用ニ從フ

議員ノ無責任

第一 議員ノ無責任

憲法第五十二條ニ曰ク

兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及ヒ表決ニ付キ院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其言論ヲ演說刊行筆記又ハ其他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セララルヘシ

本條ニ關シテ論究スヘキ問題ニアリ

第一問 議員ハ如何ナル行爲ニ付キ院外ニ於テ責ヲ負ハサルヤ

議員カ院外ニ於テ責ヲ負ハサル行爲如何

本條ノ規定ニ依レハ議院ニ於テ發言シタル意見及ヒ表決ニ付キ云々トアリ故ニ議員カ議事中ニ於テ發言シタル意見及ヒ表決ニ付テハ其責ヲ負ハサルコト論ヲ俟タスシテ明カナリ然レトモ此他ニモ尙ホ議員カ責ヲ負ハサル行爲有ラサルナキヤ例ヘハ委員ヨリ議院ニ提出シタル報告書等ノ如キモノ是レナリ今若シ本條ヲ文字上ヨリ解釋スルトキハ此ノ如キモノ之ヲ包含セサルカ如シト雖トモ其精神ヨリ論スルトキハ余ハ右報告書ノ如キモ無論同様ニ取扱フヘキモノト信ス又縱シヤ本條ノ文字上ヨリ論スルモ強テ余ノ見ルカ如ク解釋スルコトヲ得サルニ非ス何トナレハ本條ニ所謂議院ニ於テトハ必スシモ議場ノミニ限ラス委員會モ亦議院ト看テ可ナルヘク又發言シタル意見トハ其實表彰シ

此ノ條ノ解釋ハ法律ノ解釋ノ如クシテハ其意ヲ明カニシテ解釋スルコトヲ要ス

タル意見ノ義ニシテ必スシモ口頭ヲ以テ述ヘタル意見ノミニ限ラス書面ヲ以テ述ヘタル意見ヲモ亦包含スルモノト解シテ可ナルヘケレハナリ況ンヤ歐米各國ノ先例ニ徴スルモ亦此ノ如クナルニ於テヲヤ行々レヤ

議院ニ於テ一個人ヲ誹毀スル所ノ言論ヲ發シタルトキハ其言論ニ付キ議員ハ院外ニ於テ責ヲ負フヤ否ヤ此問題ニ付テハ本邦ノ議會ニ於テ未タ先例アルヲ知ラス唯彼ノ後藤大臣事件ノ如キハ議題トナラスシテ消失シ去レリ佛國ニ於テモ此問題ハ曾テ大ニ議論アリシ所ナリ然レトモ余ノ見ル所ニ依レハ縱シヤ誹毀譏謗ニ涉ルノ言論ト雖トモ議員ハ院外ニ於テ其責ヲ負ハサルモノト決セサルヲ得ス如何トナレハ右第五十二條ハ唯汎ク一般ノ原則ヲ規定スルニ止マリ院外ニ於テ責ヲ負フヘキ言論ト否トヲ區別セサレハナリ又此ノ如キ區別ヲ爲スニ於テハ弊害最モ生シ易シトス何トナレハ院外ニ於テ責ヲ負フヘキ言論ト否トノ標準ヲ設クルコト實ニ至難ナレハナリ且其レ譏謗誹毀ノ如キハ院外ニ於テ十分ニ之ヲ制スルコトヲ得ヘシ即チ議院規則以テ之ニ制裁ヲ附スレハ可ナリ是故ニ余ハ如何ナル言論ト雖トモ議員ハ院外ニ於テ責ヲ負フコトナシト斷言セン

○
議員カ院外ニ於テ責ヲ負フ場合如何

ト斷言セン

第二問 議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及ヒ表決ニ付キ院外ニ於テ如何ナル場合ニ其責ヲ負フヤ

此點ニ付テハ第五十二條ノ但書ヲ以テ規定セリ而シテ其規定ニ依レハ議員カ議會ニ於テ爲シタル言論ヲ自ラ世上ニ弘メンカ爲メニ其言論ヲ或ハ演說シ行シ又ハ筆記シ其他新聞紙雜誌等ニ掲載シテ之ヲ公布シタルトキハ通常一般ノ法律ニ依テ處分セラル、モノトス例ヘハ議院ニ於テ他人ヲ誹毀スルカ如キ言論ヲ發シ而シテ自ラ公然之ヲ演說シタルトキハ刑法上誹毀罪ヲ以テ論セラ

ルヘク又朝憲ヲ紊亂スルカ如キ言論ヲ發シ自ラ之ヲ刊行シテ世ニ公布シタルトキハ亦刑法上ノ責ヲ負フヘシ但シ茲ニ注意スヘキハ議員自ラノ語是ナリ故ニ他人カ其言論ヲ公布スルモ議員其責ヲ負フコトナキハ勿論タリ然レトモ此制限ハ實際上ノ適用ニ至リテ其効力甚タ薄弱ナルモノナラント信ス

此點ニ關シ歐米各國ノ法律ハ其規定甚タ區々ニ涉レリ佛國ノ如キハ議員カ院内ニ於テ爲シタル言論ヲ種々ノ方法ヲ以テ之ヲ公布スルモ毫モ妨ケアルコト

其意を以て同定せしむるに於ては、一國の憲法は、その國の歴史、地理、風俗、人情、を以て其の基礎とし、是れを以て其の憲法を制定すべしと云ふ事、其の當然なる事也。然るに、一國の憲法は、其の國の歴史、地理、風俗、人情、を以て其の基礎とし、是れを以て其の憲法を制定すべしと云ふ事、其の當然なる事也。然るに、一國の憲法は、其の國の歴史、地理、風俗、人情、を以て其の基礎とし、是れを以て其の憲法を制定すべしと云ふ事、其の當然なる事也。

ナシ曾テ千八百十四年ノ憲法ノ下ニ在リテハ議院ニ於テ演説ノ刊行ヲ命シタルト否トニ因テ區別セシコトアリ諸君モ知ラル、如ク歐米各國ノ議院ニ於テハ或ル議員ノ爲シタル演説ニシテ特ニ國民一般ニ知ラシムルノ必要アリト認ムルトキハ往々其刊行ヲ命スルコトアリ國務大臣ノ演説ノ如キハ殊ニ然リトス右ノ區別ハ即チ之カ爲メナリ

又英國ノ如キハ其規定全ク本邦ト同一ナリ惟フニ我憲法第五十二條ノ但書ハ其源ヲ英國憲法ニ汲ミシモノナランカ

前既ニ一言シタルカ如ク各國ノ憲法ニ於テ議員カ院內ニ於テ發言シタル所ノ意見及ヒ表決ニ付キ院外ニ於テ責ヲ負フコトナント云ヘル原則ヲ設クルニ至リタル理由ハ實ニ議員ヲシテ充分ニ自己ノ意見ヲ開陳シ以テ眞ニ國民ノ代議士タル職務ヲ盡サシメンカ爲メナリ若シ其レ然ラス院內ニ於テ爲シタル演説又ハ表決ニ付キ院外ニ於テ責ヲ負フトキハ彼レ後難ヲ恐レテ充分ノ意見ヲ表セサルヘシ況ンヤ此ノ如ク無責任タルモ猶ホ種々ノ情實ニ纏綿セラレ爲メニ自己ノ本心ヲ托クル者アルヲヤ是レ各國ノ憲法ニ於テ此原則ヲ採用スルニ至

リシ所以ナリ

斯ノ如ク今日ニ在テハ何レノ國ノ憲法ニ於テモ舉テ議員無責任ノ原則ヲ採用セサルハ莫シト雖トモ抑モ世ニ立憲政体ノ生レシ當初ヨリシテ此ノ如クナリシニハ非サルナリ代議政体ノ母國ト稱セラル、所ノ英吉利ニ於テハエリサベス女王ノ時代ニ至ルマテハ尙ホ前會期ノ始メニ於テ豫メ議員ノ爲メニ言論ノ自由ヲ許與セラレシコトヲ女王ニ請求スルノ慣例ナリシ其後議院ノ權力漸ク増進スルニ及ンテ竟ニ議員無責任ノ原則ヲ確定スルニ至レリ

又佛國ニ於テモ此議員無責任ノ原則ヲ確定スルニ至ルマテハ幾多ノ歲月ヲ經タリキ同國ニ於テハ千八百八十九年革命ノ頃ニ及ンテ漸ク此原則確固ト爲レリ即チ同年六月二十三日ミラボー氏ノ發言ニ因リ此原則ヲ可決シタリ諸君モ知ラル、ナラン千七百八十九年ノ六月二十三日ト云ヘルハ佛國革命史中最モ有名ナル日ナルコトヲ實ニ此日ハ佛國ノ議院カ其權力ヲ確定シタルノ日ナリ當時議院ノ舉動タル動モスレハ王室ニ反對セントスル徵候アルヨリシテ王室ニ於テハ乃チ議院ノ權力ヲ減殺センカ爲メニ從來貴族僧侶及ヒ國民ノ三種族

相集合シテ會議ヲ開キタリシニ此際各別個ニ會議ヲ開クヘキ旨ヲ命シタリ然ルニミラボー氏ハ此命令ヲ傳ヘ齎ラス所ノ王使ニ向テ曰ク「吾人ハ人民ノ命ニ依リ此處ニ參集シタルモノナリ故ニ佛國ニ確乎タル憲法ヲ制定シタル後ニ非スニハ決シテ離散セサルヘシ乞フ足下ヲ派遣シタル者ニ告ケヨ」ト佛國革命ノ基礎ヲ確立シ專制政体ノ衰滅ヲ來シタルハ實ニ此時ニ在リ言論無責任ノ原則ノ如キハ即チ此日ニ確定シタルナリ之ヲ要スルニ英國ニ於ケルモ又佛國ニ於ケルモ言論無責任ノ原則ノ起源ハ甚タ困難ナリシモ今日ニ在リテハ何レノ立憲國ニ於テモ皆此原則ヲ採用スルニ至レリ

第二 議員ノ不可侵權

議員ノ不可侵權

憲法第五十三條ニ曰ク

兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其院ノ許諾ナクシテ逮捕セラレ、コトナシ本條ニ關シテ論究スヘキ問題亦二アリ

此特權ヲ適用スヘキ場合如何

第一問 此特權ハ如何ナル場合ニ適用スヘキモノナリヤ

本條ノ規定ニ依レハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外云々トアリ爾レハ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外其犯罪ノ重罪タルト輕罪タルトヲ問ハス苟モ會期中ハ議院ノ許諾ナクシテ逮捕セラレ、コトナシト謂ハサルヲ得ス而シテ本條中現行犯罪ニ付テノ規定ハ各國ノ憲法ニ於テ多ク見ル所ナレトモ内亂及ヒ外患ニ關スル罪ニ付テノ規定ニ至リテハ各國憲法上概シテ見サル所ナリ唯其レ英國ニ於テハ國家ニ對スル反逆ヲ犯シタル者ハ議院ノ許諾ナクシテ逮捕セラレ、コトヲ得惟フニ我憲法ノ規定モ亦英國憲法ヨリ來リシモノナランカ

本條ニ所謂ル逮捕トハ單ニ逮捕其物ヲ指シタルヤ又ハ議員ニ對シテ公訴ヲ起スコトヲ得サル義ヲモ尙ホ含ムヤ蓋シ公訴ヲ起スニ付テハ必スシモ犯罪者ヲ逮捕スルヲ要セス故ニ外國ノ憲法等ニ於テハ概シテ逮捕シ又ハ公訴ヲ起スコトヲ得スト明記セリ然ルニ我憲法ニ依レハ前示ノ如ク單ニ逮捕セラレ、コトナシトアルヲ以テ犯罪者タル議員ヲ逮捕スルニハ議院ノ承諾ヲ要スト雖トモ

公訴ヲ提起スルニハ敢テ之ヲ要セサルヤ憲法ノ精神ヨリ之ヲ論スルトキハ公訴ヲ提起スルニモ尙ホ議院ノ許諾ヲ得サル可カラサルカ如シト雖トモ憲法ノ明文ニ「逮捕セラル、コトナシ」トアル以上ハ公訴ヲ提起スルニハ敢テ議院ノ許諾ヲ要セスト斷定セサル可ラス

本條ノ規定ニ依レハ「其院ノ許諾ナクシテ云々」トアリ故ニ議院ノ許諾アラハ乃チ議員ヲ逮捕スルコトヲ得ヘキヤ勿論タリ然ラハ則チ議院ノ許諾ハ如何ニシテ之ヲ得ヘキヤ此點ニ付テハ未タ特別ナル規定アルヲ見ス憶フニ檢事ヨリ司法大臣ヲ經テ議長ニ請求書ヲ差出シ議長ハ議院ノ議ニ附シテ之カ許否ヲ決スルモノナルヘシ

第二問 會期前既ニ逮捕セラレタル議員ハ帝國議會ヲ開クト同時ニ當然之ヲ放免セサルヘカラサルヤ

諸君モ知ラル、如ク此點ハ現ニ初期ノ會期中衆議院内ニ於テ森時之助氏ニ付キ起リタル世ニ有名ナル一ノ問題ニシテ今日猶ホ未タ決セサル所ノモノナリ當時衆議院ノ多數ハ憲法第五十三條ニ會期中其院ノ許諾ナクシテ云々トアレ

會期前逮捕セラレタル議員ハ開會ト同時ニ放免スヘキヤ如何

トモ此條ノ精神ヨリ論スルトキハ會期前既ニ逮捕セラレタル者ハ無論開會ト共ニ之ヲ放免シ議院ノ許諾ヲ得ルニ非サレハ其逮捕ヲ繼續スルコトヲ得ストノ意見ナリシ而シテ政府ハ之ニ對シテ明確ナル意見ヲ表示セス唯僅カニ裁判所ニ於テ法律ニ從テ行フタル所爲ニ付テハ司法大臣ノ干涉スヘキモノニ非スト答ヘタルノミ竟ニ其何レトモ決着スルニ至ラスシテ立消ヘトハナレリ(衆議院先例彙纂第一頁參看)

此問題ニ關シテ余ノ信スル所ヲ述フルノ前先ツ歐洲諸國ノ例ヲ示スハ蓋シ無要ノ業ニ非サルヘシ

此點ニ關スル歐洲諸國ノ憲法ノ規定ハ甚タ區々ニ涉レリ佛蘭西ニ於テ今日行ハル、所ノ憲法ニ依レハ會期前ニ逮捕セラレタル者ハ當然其逮捕ヲ繼續スルノ規定ナリ然レトモ若シ議院ニ於テ放免ヲ請求シタルトキハ會期中ノミ其逮捕ヲ中止セサルヘカラス是レ亦同憲法ノ規定スル所ナリ白耳義獨逸帝國及ヒ普魯西等ノ如キモ亦之ト同様ノ規定ヲ設ケタリ又英吉利ニ於テハ會期中並ニ會期ノ前後四十日間ハ議員ヲ逮捕スルコトヲ得サルノ慣例アリ又伊太利ニ於

テハ縦ヒ會期前ニ逮捕シタル者ト雖トモ開會ニ至レハ更ニ議院ノ許諾ヲ得サ
ルヘカラス但シ憲法ノ文面上ヨリ論スルトキハ甚タ疑ヒナキニ非サレトモ同
國ニ於テハ千八百四十八年以來議院ノ權力漸ク強ク隨テ右ノ如キ先例ヲ作り
今日ニ至ルマテ之ヲ遵守セリ

然ラハ今ヤ我邦ニ於テハ如何ニ之ヲ決スヘキヤ帝國憲法第五十三條ノ文面ヨ
リ論スルトキハ或ハ會期前既ニ逮捕セラレタル議員ハ開會ト同時ニ當然之ヲ
放免セサルヘカラス或ハ其逮捕ヲ繼續センニハ更ニ議院ノ許諾ヲ得サルヘカ
ラスト云フカ如キ解釋ハ到底爲スコト能ハス蓋シ其條文簡明ニシテ亦一點ノ
疑ヒヲ容ルヘキニ非ス曰ハスヤ兩議院ノ議員ハ云々會期中其院ノ許諾ナクシ
テ逮捕セラレハコトナシト爾レハ會期ノ前後ハ議院ノ許諾ナクシテ逮捕セラ
ルハコトアルヘキヤ了然タル所ニシテ又會期前ニ於テ議院ノ許諾ヲ得ント欲
スルモ手續上固ヨリ爲シ能ハサル所ナリ且ツ其レ憲法制定者ノ精神ニシテ若
シ會期前ニ逮捕シタル者ニ付テハ會期至レハ乃チ議院ノ許諾ヲ得サルヘカラ
スト云フニ在ランカ必スヤ其旨ヲ明示セサルヘカラス然ルニ本條中絶テ此等

明文ナキ所ヲ以テ之ヲ觀レハ會期前ニ逮捕シタル者ハ會期至ルモ敢テ之ヲ
放免スルニ及ハサルヤ必セリ

却説立法上ヨリ論スルトキハ果シテ如何余ハ右憲法第五十三條ハ聊カ不完全
ナリトハ職ヲ免レサルモノト信ス我憲法ニ於テ兩議院ノ議員ハ會期中其院
ノ許諾ナクシテ逮捕セラレハコトナシト云ヘル原則ヲ明掲シタル所以ノモノ
ハ前段既ニ余ノ一言シタルカ如ク行政官ノ專横ヲ防カンカ爲メナリ今若シ行
政官カ或ル重大ナル問題ノ起ルニ當リ政府ニ反對スル所ノ有力ナル議員若干
名ニ對シテ犯罪ヲ捏造シ隨意ニ逮捕スル事ヲ得彼レ議員ヲシテ發言セシメサ
ルカ如キ事アラシカ議員ノ獨立得テ維持スヘカラス竟ニ議院ハ政府ノ奴隸ト
爲リ了ランノミ各國憲法ニ於テモ亦右ト同様ノ原則ヲ規定シタル理由ハ實ニ
此一點ニ在リ憲法ノ精神果シテ斯ノ如クナリトセハ右第五十三條ノ明文ノミ
ヲ以テハ甚ダ不完全ナリト謂ハサルヲ得ス是故ニ余ノ見ル所ニ依レハ將來若
シ本條ヲ改正スルコトヲ得ハ須ラク佛獨及白國等ノ規定ノ如ク爲スヘシ即チ
會期前ニ逮捕シタル者ハ議院ニ於テ其放免ヲ請求セサル間ハ逮捕ヲ繼續スル

コトヲ得ルノ規定ヲ設クルコト是ナリ此ノ如クスルトキハ敢テ司法權ヲ侵害スルコトナク又々立法權ニ障害ヲ來タスコト勿ルヘク且ツ議院ヨリ請求スレハ直チニ放免セサルヘカラサルヲ以テ議院ニ於テモ敢テ不都合ナカルヘク又政府モ縱マニ有力ナル議員ヲ逮捕シ會期中彼レヲシテ發言セシメサルカ如キ等ノ虞レアルコトナシ

之ヲ要スルニ憲法第五十三條ノ解釋論トシテハ會期前ニ逮捕シタルモノニ付テハ會期至ルモ議院ノ許諾ヲ得ルノ必要アルコトナシ然レトモ立法上ヨリ之ヲ論スルトキハ甚々不完全ナリト評セサルヲ得ス

帝國議會
ノ職權

第二節 帝國議會ノ職權

歐米諸國ノ憲法ヲ通觀スルニ往々上下兩院ノ職權ヲ異ニスルモノアリ立法上財政上ノ點ニ付テハ兩院ニ略ホ同一ノ權利ヲ與フルト雖トモ或ル國ニ於テハ上院ニ一種特別ナル高等裁判權ヲ委テタル所アリ例ヘハ國ノ首長國務大臣其他重要ナル高等官ノ國事犯等ニ關シテハ上院ニ於テ之ヲ裁判スルカ如シ英佛

ノ如キ即チ是レナリ又或ル國ニ於テハ上院ヲシテ行政事務ノ一部分ニ關與シタルコトアリ北米合衆國及ヒ獨逸帝國ノ如キ即チ是ナリ諸君モ知ラルヘク如シ北米合衆國等ニ於テハ外國ヘ派遣スル公使ハ上院ノ承認ヲ得ルニ非サレハ之ヲ任命スルコトヲ得ス又條約ノ如キハ必ス上院ノ承諾ヲ得サルヘカラス此他尙ホ歐米諸國ノ憲法ヲ仔細ニ吟味スルトキハ財政上ノ事ニ至テモ亦上下兩院ノ間ニ權力ノ相等シカラサル所アリ例ヘハ上院ニ於テハ豫算案ノ全體ヲ可否スルコトヲ得ヘキモ之ヲ修正スルコトヲ得サルカ如キ即チ是ナリ

斯ノ如ク上下兩院ノ職權ニ關シ歐米諸國ノ憲法ハ其規定種々ナレトモ我帝國憲法ニ於テハ貴族衆議兩院ノ職權ニ付テハ殆ト差異オシト謂テ可ナリ唯貴族院ニ於テハ撰舉ニ關スル爭訟ヲ裁判スルノ權利アリテ衆議院ニ之ナキノ差アルノミ貴族院令第九條此他豫算議定權ニ關シ豫算ハ先ツ衆議院ニ之ヲ提出セサル可カラス但シ此點ニ付テハ多少衆議院ヲ重シシメルカ如キ感想アレモ其權利上ニ至テハ毫モ兩院ノ間ニ差異アルコトナシ尙ホ憲法第三十七條第三十八條第四十條及ヒ第六十四條等ヲ通讀スレハ重要ノ點ニ付テハ貴族衆議兩院

入權力毫モ差等ナキコト明テナリ
 今ヤ學理上ヨリ之ヲ觀察スルホキハ上下兩院ノ權力ヲ同等ニ爲シタルハ極メ
 テ善良ナル制度ナリト謂ハサルヲ得ス會テ一局議院ニ局議院ノ利害得失ヲ論
 シタルトキ述ヘタルカ如ク元來上下兩院ヲ設クル所以ノモノハ一議院ニ於テ
 爲シタル過誤ヲ他ノ議院ニ於テ矯正シ互ニ相監督シテ以テ良結果ヲ得ンカ爲
 スナリ果シテ然ラハ兩院ノ權力ヲ同等ニシ同一ノ事業ニ參與セシムルハ實ニ
 至當ノ事ト謂フヘシ是故ニ我帝國憲法ニ於テ貴族衆議兩院ノ權力ヲ同等均一
 ニ爲シタルハ蓋シ其當ヲ得タルモノナリト信ス然レトモ既ニ兩院ノ權力ヲ同
 一ニスルニ於テハ之ト同時ニ須ラク上院ノ組織ニ注意セサルヘカラス此點ニ
 付テハ前段既ニ詳述シタルヲ以テ復タ贅セス
 却說我憲法カ帝國議會ニ與ヘタル所ノ職權ハ如何今若シ帝國議會ニ關スル憲
 法ノ條文ヲ通閱スレハ其職權種々アルヘキモ就中其最モ重大ナルモノハ法律
 案ヲ議定スル權利財政上ニ關スル權利及ヒ政府ヲ監督スルノ權利即チ是ナリ
 而シテ此等ノ各權利ヲ論究スルニ當リ或ハ外交條約ニ關シテハ如何ナル權利

ヲ有スルヤ即チ之ニ容喙スルノ權利ナキヤ否ヤ又政府監督ニ關シテハ政府ニ
 對シテ信任投票ヲ爲スノ權利ヲ有スルヤ否ヤ等種々至難ナル問題アリ殊ニ財
 政ニ關シ豫算問題ニ至テハ現ニ第一期ノ帝國議會ニ呈ハレタル問題中甚々困
 難ナルモノアリヌリ
 余ハ本節ヲ分テ四款トナス第一款法律案議定權第二款豫算案議定權第三款政
 務監督權第四款議會ニ屬スル其他ノ權利

法律案議定權

第一款 法律案議定權

我帝國憲法第五條第三十七條及ヒ第三十八條等ノ諸條ニ依レハ帝國議會ハ法
 律案ヲ議定スルノ權利ヲ有セリ此職權ニ關シ研究スヘキ問題ニアリ曰ク法律
 案ノ議定權トハ何ソヤ曰ク議會カ此權利ヲ實行スルニ當リテハ如何ナル原則
 ニ依ルヘキカ即チ是ナリ

法律案議定權トハ如何

第一問 法律案議定權トハ何ソヤ

議會ニ屬スル法律案ノ議定權ハ之ヲ三種ニ區別スルコトヲ得第一法律案提出

權第二法律案修正權第三法律案可否決權是ナリ而シテ第三ノ法律案可否決權即チ議會ニ於テ法律案ノ全體ヲ或ハ可決シ或ハ否決スルノ權利ニ付テハ何レノ國ノ憲法ト雖トモ概テ之ヲ議會ニ附與シタリ故ニ此點ニ付テハ敢テ論辯スルノ要ナシ然レトモ第一第二ノ權利ニ至テハ時ト處トニ因テ大ニ異ナル所アルカ故ニ以下此二點ニ付キ聊カ辯セントス

第一 法律案提出權

法律案提出權

法律案提出權トハ佛語之ヲ Droit D'initiative ト云ヒ即チ法律案ヲ起草シテ議會ニ提出スルノ權利ナリ此法律案提出權カ議會ニ屬スルト否トハ議會ノ職權ニ關シテ甚タ大ナル影響ヲ及ボスモノトス如何トナレハ若シ議會ニ此權利ナキトキハ議會ニ於テ或ル一ノ法律ヲ制定セント欲スルモ之ヲ議ニ付スルコトヲ得サレハナリ是故ニ議會ノ權利ヲ狹縮セントスル精神ノ憲法ニ於テハ往々法律案提出權ヲ議會ニ與ヘス又之ニ反シテ立法上ニ關シ可及的行政部ノ權利ヲ制限セント欲スル憲法ニ於テハ此權利ヲ行政部ニ與ヘサルナリ

佛國ニ於テハ千八百十四年ノ憲法及ヒ千八百五十二年ノ憲法ハ法律案提出權

ヲ議會ニ與ヘス其千八百十四年ノ憲法第十六條ニ依レハ議會ハ法律案ヲ提出スルノ權利ヲ有セス唯議會ニ於テ一ノ法律ヲ制定スルノ必要アリト認メタルトキハ君主ニ法律案ノ提出ヲ建議スルコトヲ得ヘキノミ故ニ此二ノ憲法ノ下ニ在テハ議會ハ唯政府ヨリ提出シタル所ノ議案ヲ議決スルノ權利ヲ有スルニ過キサリキ是レ即チ議會ノ權利ヲ制限スルノ憲法ナリ之ニ反シテ行政部ノ權利ヲ制限スル憲法モアリ同國ニ於テハ千七百九十一年ノ憲法千七百九十三年ノ憲法及ヒ共和第三年ノ憲法等此三ノ憲法ノ下ニ在テハ法律案提出權ハ專ラ議會ニノミ屬シ政府ハ此權利ヲ有セザリシナリ

又米國ニ於テハ今日ト雖トモ尙ホ政府ハ法律案提出權ヲ有セス諸君モ知ラルハ如ク米國ハ立法權ト行政權トノ分離甚タ嚴格ニシテ行政部ハ毫モ立法事業ニ關シ力ヲ有セサルナリ

斯ノ如ク法律案提出權ヲ或ハ議會ノ一方ノミニ與ヘ或ハ行政部ノ一方ノミニ與フル憲法アリ然レトモ此點ニ付テハ如何ナル法則ヲ用フルヲ以テ最モ適當ナリトナスヤ余ノ見ル所ニ依レハ法律案提出權ハ之ヲ立法部又ハ行政部ノ一